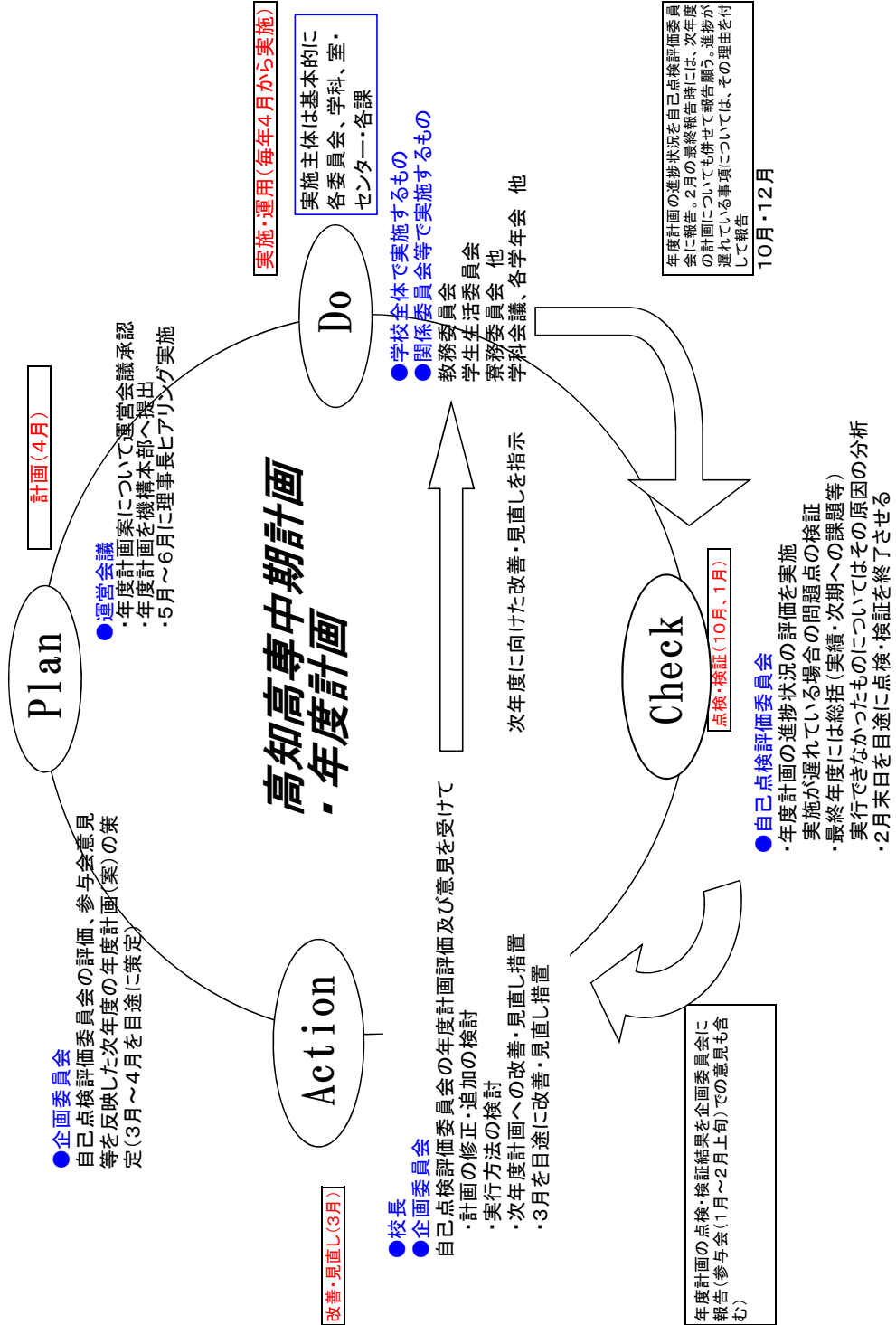


「自己点検・評価の実施方針が明示されている資料-1」

第4期中期計画・年度計画 PDCAサイクル



高知工業高等専門学校における平成31年度年度計画への対応について

平成31年度年度計画については、次の方針により策定する。

- 1 本校の年度計画の項目立ては、これまでの項目立ての数を整理し、原則として機構年度計画の項目立の数と同様とする。
ただし、機構本部が主体として実施する機構本部年度計画事項については、「該当なし」とする。
- 2 国際交流等に関する事項については、積極的に対応することを原則とするが、本校として実施できる事項以外は「該当なし」とする。
- 3 本校の年度計画の項目立ての数は整理することとするが、本校の設置目的を達成するために実施してきた各種取組については継続して実施するとともに、社会の要請に応えるための必要な新たな取組を積極的に実施する。
- 4 年度計画を達成するため、教務主事、学生主事、寮務主事、各種委員会委員長、教育研究施設・共同利用施設等の長は、校長の活動方針を踏まえ、本年度の活動計画を策定し、企画委員会に報告する。
- 5 自己点検評価委員会において、活動計画の進捗状況を適宜確認する。
(進捗状況確認：9月末、12月末、3月末に実施予定)

出典「2019年度第3回運営会議 報告資料2」

「自己点検・評価の実施方針が明示されている資料-2」

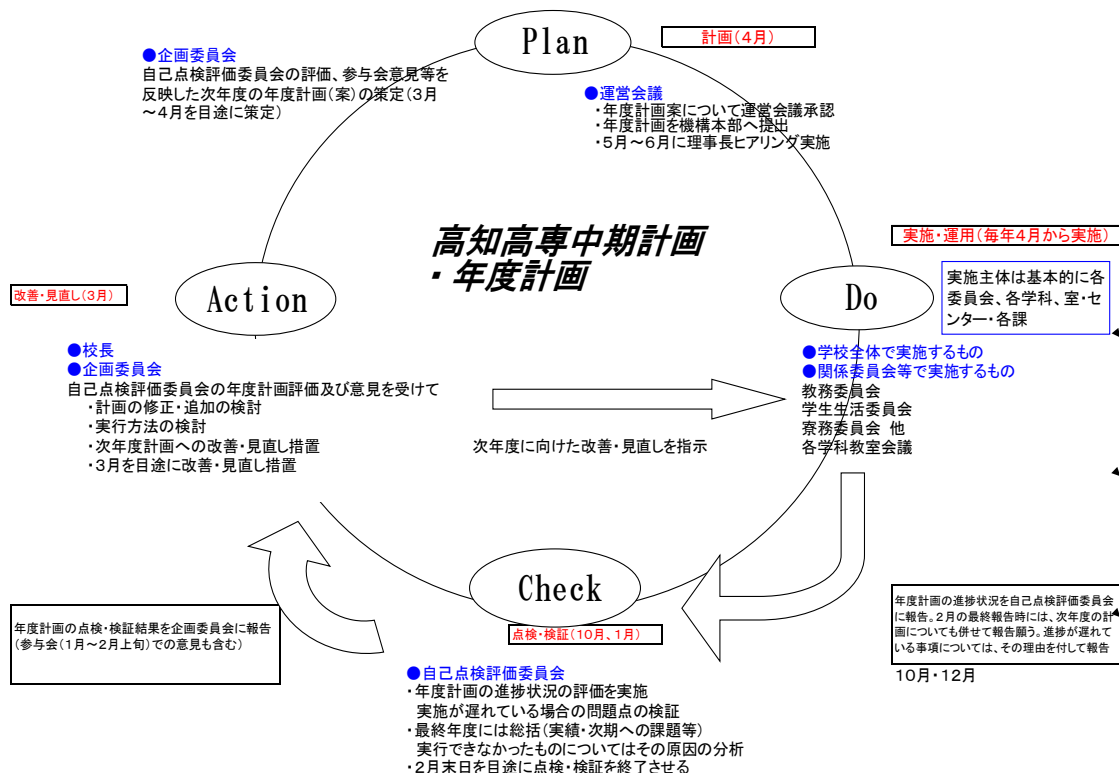
~~~~~ (略) ~~~~~

## 自己点検・評価の実施状況と公表

本校においては、平成26年4月1日に策定した「第3期中期計画・年度計画 PDCA サイクル」により、「Plan：計画」、「Do：実施及び運用」、「Check：点検・検証」、「Action：改善・見直し」などに関して、運営会議、企画委員会、自己点検評価委員会、関係委員会により毎年業務の改善・見直しを実施している。高専機構の中期計画・年度計画に沿った項目を基本として、毎年4月には当年度の年度計画を、3月には前年度の年度計画の実施結果を作成し機構本部に報告している。

また、自己点検・評価については、5年ごとに自己点検・評価報告書を作成することとなっており、直近では平成24年度に、平成19年度から平成24年度までの5年間の自己点検・評価を行い、報告書を作成し高知高専ウェブサイトで公表しており、続く平成25年度以降の自己点検・評価に取り組んでおり平成29年度内の作成を目指している。

## 「第3期中期計画・年度計画 PDCA サイクル」



~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.63-p.64」

「自己点検・評価担当組織・責任体制がわかる資料-1」

高知工業高等専門学校自己点検評価委員会規則

制 定 平成22年 9月16日
一部改正 平成31年 2月21日

(設置)

第1条 高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、点検評価に関する事項を審議するため、高知工業高等専門学校自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検評価に関すること
- (2) 外部評価に関すること
- (3) 認証評価に関すること
- (4) 専攻科における教育の実施状況の審査に関すること
- (5) JABEEの技術者教育プログラムの認定に関すること
- (6) 中期計画・年度計画の点検及び評価に関すること
- (7) その他点検評価に関すること

(組織)

第3条 委員会の委員は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 副校長（研究担当）
- (5) ソーシャルデザイン工学科長、基礎教育長、副基礎教育長及び各コース長
- (6) 事務部長
- (7) その他校長が必要と認めた者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員会に副委員長を置き、教務主事をもって充てる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第6条 委員会に第2条各号に定める事項を調査検討するため、必要に応じ専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第7条 委員会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成22年9月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月3日より施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

出典「高知工業高等専門学校自己点検評価委員会規則」

「自己点検・評価担当組織・責任体制がわかる資料-2」

高知工業高等専門学校企画委員会規則

制 定 平成26年 2月20日
一部改正 平成31年 2月21日

(設置)

第1条 高知工業高等専門学校に、高知工業高等専門学校企画委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 将来構想に係る事項
- (2) 中期目標、中期計画、年度計画の企画及び立案
- (3) その他校長が必要と認めた事項

(組織)

第3条 委員会は、次の委員で組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 副校長（研究担当）
- (5) ソーシャルデザイン工学科長、基礎教育長、副基礎教育長及び各コース長
- (6) 事務部長
- (7) その他校長が必要と認めた者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

(委員以外の出席)

第5条 委員長は、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、総務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 高知工業高等専門学校リエゾン・企画委員会規則（平成10年3月5日制定）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成27年4月3日より施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

出典「高知工業高等専門学校企画委員会規則」

「自己点検・評価担当組織・責任体制がわかる資料-3」

高知工業高等専門学校運営会議規則

制 定 平成21年 4月 1日

一部改正 平成31年 2月21日

(趣旨)

第1条 この規則は、高知工業高等専門学校内部組織規則第14条第2項の規定に基づき、高知工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）について、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 運営会議は、本校の管理運営を円滑に行うため、重要事項について審議することを目的とする。

(組織)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 副校長（研究担当）
- (5) ソーシャルデザイン工学科長、基礎教育長、副基礎教育長、各コース長及び各学年主任
- (6) 事務部長
- (7) その他校長が必要と認めた者

2 校長は、運営会議を主宰する。

(事務)

第4条 運営会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成21年4月1日より施行する。
- 2 高知工業高等専門学校主任会規則(昭和43年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日より施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月3日より施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

「自己点検・評価担当組織・責任体制がわかる資料-4」

高知工業高等専門学校参加会規則

制 定 平成17年10月20日
一部改正 平成22年9月16日

(設置)

第1条 高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、高知工業高等専門学校参加会（以下「参加会」という。）を置く。

(目的)

第2条 参加会は、校長の諮問に応じ、本校の管理運営及び教育研究活動の状況に応じて審議し、学校運営の一層の発展に資することを目的とする。

(組織)

第3条 参加会は、精深な学識を有すると認められる学外の委員をもって組織する。

2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 参加会に委員長を置き、校長が指名する。

2 委員長は、参加会を主宰する。

(参加会)

第5条 参加会は、年1回以上開催する。

(結果の報告)

第6条 参加会は、審議の結果を校長へ報告しなければならない。

(公表等)

第7条 校長は、前条の報告を受けたときは、学内外へ公表するとともに、本校の目的及び社会的使命の達成を図るものとする。

(庶務)

第8条 参加会の庶務は、総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参加会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 高知工業高等専門学校参加規則（平成9年7月23日制定）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年9月16日から施行する。

出典「高知工業高等専門学校参加会規則」

「自己点検・評価の基準・項目・担当組織・責任体制等がわかる資料」

高知高専 平成30事業年度 年度計画進捗状況表 (3月末) 審議資料1 2019年度第1回運営会議 2019.4.3(水)開催

Table with columns for (検討種別) Keyword, (検討内容) Description, (担当者) Staff, (進捗状況) Progress, (評価) Evaluation. Includes details for '1. 入学者の確保' and '2. 推薦に用いた選考方法'. Evaluation criteria A, B, C are defined at the top right.

「根拠となるデータや資料等の収集・蓄積状況がわかる資料」

9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム**教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積と評価体制**

本校における教育活動の実態を示す主なデータである成績評価関係資料は、準学士課程・専攻科課程の全学年を対象として、定期試験問題及び模範解答を学生課教務係に保存蓄積している。また、本科・専攻科全学年を対象として、定期試験の答案用紙等の全数を各学科で保管している。さらに日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育プログラム対象科目については、学習・教育目標の達成を示すための資料を科目ごとに小箱（ボックス）に入れて図書館に保管し、全教員が自由に閲覧可能とし、特に学科長と教務委員が資料の内容をチェックする体制になっている。

学校全体の日常的な教育点検は、主に教務委員会、教育改善推進委員会（平成26年度まで）、アクティブラーニング教育センター（平成27年度以降）等で行われる。学生の学習・教育目標達成度の評価・検討は、全教員が出席して年度末に開催される進級判定会議（1～4年生）、卒業判定会議（5年生）及び修了判定会議（専攻科2年生）において行われる。また、参与会（外部からの第三者組織所属の有識者の会）による点検・評価に加え、自己点検・評価委員会が、校内の各種委員会に自己点検項目を提示し、報告を受けることにより、点検・評価結果が取りまとめられ、今後どのような教育の改善に取り組むべきかの指針を与え、各種委員会、学科、教員にフィードバックされる体制となっている。

~~~~~（略）~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.49」

## 定期試験問題等の提出について

定める事務室まで返却するものとする。

- (イ) 教務係員は試験実施当日の答案用紙を学科長，基礎教育長，副基礎教育長，コース長より受け取り，教務係において出題教員に答案用紙を引き渡すものとする。
- (7) 出題上の留意事項
- (ア) 同一科目を2名以上で担当している場合は，合議の上で出題することを原則とする。
- (イ) 問題用紙の枚数は必要最小限にとどめ，余分のものは配布しない。計算用紙を配布する場合には，白紙に目印等をつけたものを配布し，試験終了後回収する。
- (ウ) 出題教員と監督教員の間の連絡を密にすること。教科書・ノート・電卓等の持ち込みを許可する場合には，出題教員は問題用紙を入れた袋にその旨朱書きにて記載する。
- (エ) 出題教員は，当該試験実施中できるだけ受験室に出向き，必要な注意等を与える。
- (8) 試験監督上の留意事項
- (ア) 試験開始前に机の整理整頓を行う。整頓が完了し，学生が名簿の番号順に着席するまで問題用紙は配布しない。
- (イ) 学生が試験に遅刻した場合，その理由が正当と認められるとき試験時間の3分の1を超えない遅刻に限り受験を認めることができる。
- (ウ) 試験時間の2分の1を経過すれば，答案を提出して退室することを認めることができる。
- (エ) 電子出席簿には，該当科目担当教員が出席状況を入力する。
- (9) 不正行為の処置
- (ア) 試験中に不正行為を発見した教員は，当該学生の受験停止を命ずるとともに，学科長，基礎教育長，副基礎教育長，コース長及び出題教員に状況その他必要事項を報告する。学科長，基礎教育長，副基礎教育長，コース長は教務主事に報告しその指示に従うものとする。
- (イ) 不正行為を行った学生の当該試験期間中における全科目の試験の成績は0点とする。
- (ウ) 定期試験以外に実施する平常試験の場合も定期試験に準ずるものとする。
- (10) 定期試験欠席者の取扱い
- (ア) 監督教員は試験欠席者名を答案用紙を入れた袋の所定の欄に記入する。
- (イ) 学科長，基礎教育長，副基礎教育長，コース長は欠席者名を遅滞なく調査し，分かればその理由を付して教務主事に報告する。
- (ウ) 当該教科担当教員は，病気その他やむを得ない理由で受験できなかった者について追試験等必要な措置をとる。
- (エ) 正当な理由のない欠席者及び懲戒処分による欠席者の当該試験は0点とする。

## 5. 定期試験問題用紙等の提出

- (1) 出題教員は，学年末試験など最終評価の基となる定期試験について，以下の2点を学科長，基礎教育長，副基礎教育長，コース長を経て教務主事に提出するものとする。
- ①問題用紙1部
  - ②解答例（配点付）1部

(2) 学生の定期試験答案用紙は現物又はその写し全数を保管するものとする。

~~~~~(略)~~~~~

出典「2019教務手帳 教務内規 p.9-10」

7. 特別研究中間発表会 {別紙}

3/4(月) S 1 (14名) 発表 10分+質疑応答 4分+交代 1分
発表順番：視聴覚室 C(2)→ME(7)→Z(5)

[その他]

8. 学習教育目標達成度評価アンケート

今年度も5年生、専攻科2年生に実施(2/21-3/15)。

Web入力による回答を学生へメールで依頼予定。

達成度評価アンケート用URL：<https://goo.gl/forms/LE0VIUytbxzBy0rc2>

9. 年度末作業について

- ・定期試験問題・配点付模範解答のPDF化と学科保存CDの提出(3月末締切 教務係まで)分担は、以下のようになっております。

1～5年生・専攻科(一般科目)：██████████

1年生(SD共通専門科目)：██████████

2年生(SD共通専門科目)：██████████

3年生：██████████

4～5年生・専攻科(専門科目)：各継続専門学科担当教務委員

~~~~~(略)~~~~~

次回委員会：2月27日(水) 15:00～ 管理棟2階 中会議室

出典「平成30年度第19回教務委員会議事録」

## 「学習・教育目標の達成を証明する資料等が適切に保存されてことがわかる資料」

平成 30 年 3 月 19 日

本科 4, 5 年および Z 専攻 JABEE 科目担当教員 各位

JABEE プログラム責任者  
建設工学専攻 [REDACTED]

## 過去 2 年間の学習・教育目標の達成を証明する資料等の保存について

平成 30 年度には「建設工学」プログラムの JABEE 継続審査が行われます。JABEE 審査においては、学習・教育目標の達成を証明する資料等は「JABEE BOX」に入れて整理し、保管することになっております。

以下に、資料等保存に関するガイドラインをお示しいたします。本科 4, 5 年および Z 専攻の JABEE 関連科目をご担当されているの先生方には、通年科目については平成 28 年度および平成 29 年度（前期終了科目については平成 30 年度まで）の成績評価資料を、このガイドラインに沿って「JABEE BOX」に整理していただきますよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 基本的な考え方

## 1. ボックス整備書類の基準

- ① 成績評価が、教育プログラムで設定する妥当な水準であることが理解できること。
- ② シラバス通りの評価であることが証明できること。
- ③ 高専のように多数回の試験等で合否を判定している場合、それらの試験等の結果をどのよう  
に考慮して評価しているかを明確にし、使用した代表的な評価資料について、少なくとも合格最低ラインのものを提示していること。
- ④ 高専では 4 回の定期試験のうち、最終成績算出の根拠として、学年末（又は学期末）の定期試験をその科目のレベルを示す代表的な資料として保存しておくこと。

## 2. ボックスを所定の場所に保管する理由

- ① 紛失を避け、確実に資料を残すため。
- ② 授業改善のために他者の資料を参考にすることができるようにするため。
- ③ 情報公開に迅速に対応するため。

## 3. ボックス管理の前提条件

- ① 資料室を確実に施錠し、機密性が保たれること。
- ② ボックスの内容を第 3 者がチェックし、不備を指摘すること。

以上のような考えから、ボックスの内容、実施・管理方法を次のように定めています。



## 1. ボックスの内容

「必ず必要」

- ① シラバス（授業の1回目に学生へ配布したもの）
- ② 学年成績を算出した一覧表（例えば、Excelシートのプリントアウト）
- ③ 学年成績を算出した方法を記載した説明書（A4，様式自由）
- ④ 全定期試験問題の模範解答
- ⑤ 60点以上の学年(学期)末試験の答案（最下位から5名分）
- ⑥ 最高得点の学年(学期)末試験の答案（1名分）

（注）上記の⑤は、学年末定期試験の合格水準が「教育プログラム側が設定する妥当な水準」を表す代表的な例とするものであって、個別の学生についての「学年末の合格水準」を示すものではありません。したがって、学年末試験が60点以下であっても、総合評価で60点以上もあり得ますし、その逆もあり得ます。

「求めに応じて提出」・・・各自保管

- ① 教科書
- ② 参考書
- ③ 配布資料
- ④ 講義ノートまたはそれに準じるもの
- ⑤ 定期試験の答案（全員分）
- ⑥ 小テスト，模範解答，代表的な答案
- ⑦ レポートの課題を記載したもの，代表的なレポート
- ⑧ その他提出物の課題を記載したもの，代表的な提出物
- ⑨ 出席，遅刻などの一覧表（教務手帳のコピー）

## 2. 実施および管理方法

- ① ボックスの整理は授業担当者が，年1回，年度末に行うことを原則とする。
- ② 整理されたボックスはZ科資料室へ提出して下さい。（以前のものは、総務科企画係で保管されています。ラベルはZ科で作成したものが資料室にあります。）
- ③ チェックシート（別添）をプログラム責任者に提出する。
- ④ 更新されたボックスは，担当者がその内容をチェックし，不備なものについては改善を求める。

なお，ボックス整理の締切日は，メールでご連絡します。

◎ご不明な点は，担当者（          ）までお問い合わせ下さい。

## ボックス内容のチェックシート

|        |         |           |             |      |
|--------|---------|-----------|-------------|------|
| プログラム名 | 機械・電気工学 | 物質工学      | 建設工学        | ○で囲む |
| 科目名    |         | 学習・教育到達目標 | A B C D E F |      |
| 担当者氏名  |         | 所属        |             |      |
| 提出年月日  | 年 月 日   | 再提出年月日    | 年 月 日       |      |

※ボックスの整理を終えた時点で、このシートをプログラム責任者にご提出下さい。

| 番号 | 内 容                               | チェック 〇印 |
|----|-----------------------------------|---------|
| ①  | シラバス（授業の1回目に学生へ配布したもの）            |         |
| ②  | 学年成績を算出した一覧表（例えば、エクセルシートのプリントアウト） |         |
| ③  | 学年成績を算出した方法を記載した説明書（A4, 様式自由）     |         |
| ④  | 定期試験問題の模範解答（回数分）                  |         |
| ⑤  | 60点以上の学年(学期)末試験の答案（最下位から5名分）      |         |
| ⑥  | 最高得点の学年(学期)末試験の答案（1名分）            |         |

提出者コメント（資料の説明など）

審査員コメント（チェック結果など）

## 「JABEE 認定継続審査における本校担当組織、責任体制がわかる資料」

|                                                 |
|-------------------------------------------------|
| 2018年度 第1回<br>JABEE専門部会<br>参考資料 1<br>平成30年5月17日 |
|-------------------------------------------------|

## JABEE(機械・電気工学、物質工学、建設工学)担当委員

2018.5.17 現在

## JABEE専門部会

|     |              |  |
|-----|--------------|--|
| 部会長 | 専攻科長         |  |
| 委員  | 教務主事         |  |
| 委員  | 機械・電気工学専攻    |  |
| 委員  | 機械・電気工学専攻    |  |
| 委員  | 物質工学専攻       |  |
| 委員  | 建設工学専攻       |  |
| 委員  | ソーシャルデザイン工学科 |  |
| 委員  | 総務課長         |  |

## JABEE作業部会(機械・電気工学)

|      |           |  |
|------|-----------|--|
| 部会長  | 機械・電気工学専攻 |  |
| 副部会長 | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |
| 委員   | 機械・電気工学専攻 |  |

## JABEE作業部会(物質工学)

|      |        |  |
|------|--------|--|
| 部会長  | 物質工学専攻 |  |
| 副部会長 | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |
| 委員   | 物質工学専攻 |  |

## JABEE作業部会(建設工学)

|      |        |  |
|------|--------|--|
| 部会長  | 建設工学専攻 |  |
| 副部会長 | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |
| 委員   | 建設工学専攻 |  |

出典「2018年度第1回JABEE専門部会 参考資料」

「自己点検・評価の実施時期及び実施状況を示す資料」

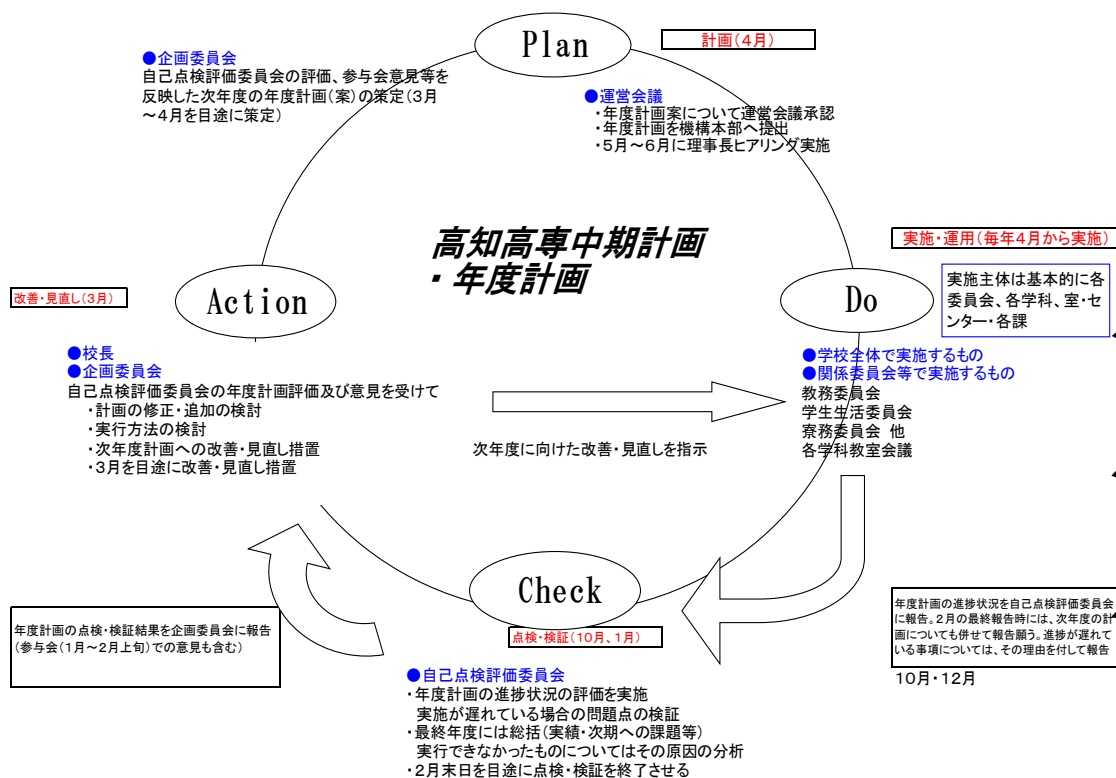
~~~~~ (略) ~~~~~

自己点検・評価の実施状況と公表

本校においては、平成26年4月1日に策定した「第3期中期計画・年度計画 PDCA サイクル」により、「Plan：計画」、「Do：実施及び運用」、「Check：点検・検証」、「Action：改善・見直し」などに関して、運営会議、企画委員会、自己点検評価委員会、関係委員会により毎年業務の改善・見直しを実施している。高専機構の中期計画・年度計画に沿った項目を基本として、毎年4月には当年度の年度計画を、3月には前年度の年度計画の実施結果を作成し機構本部に報告している。

また、自己点検・評価については、5年ごとに自己点検・評価報告書を作成することとなっており、直近では平成24年度に、平成19年度から平成24年度までの5年間の自己点検・評価を行い、報告書を作成し高知高専ウェブサイトで公表しており、続く平成25年度以降の自己点検・評価に取り組んでおり平成29年度内の作成を目指している。

「第3期中期計画・年度計画 PDCA サイクル」



外部評価

本校では、外部評価として参与会及び日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査を実施している。

(1) 参与会 (参与会規則)

外部アドバイザーシステムとして1年に1回程度開催している。参与は、本校の教職員以外の者で、本校の基本理念に理解があり、高等専門学校教育に関し、広く、かつ、高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱(平成28年度の参与会委員名簿)している。参与は、本校の運営に関し、校長の求めに応じて意見を述べるものとしており、本校の研究の目的の達成状況を確認、改善を図るための意見を伺うことができる。平成28年度で19回を数えるが、毎回、報告書を作成し、平成18年度からは本校ウェブサイトでの公開も行っている。

(2) 日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査

平成12年に本校4学科に修業年限2ヶ年の専攻科が設置され、平成14年(建設工学教育プログラム)、15年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には日本技術者教育認定機構(JABEE)によって本校全専攻の教育システム及びその内容が国際水準であると認定された。その後、平成16年(建設工学教育プログラム)、平成17年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には中間審査を受審し、平成19年(建設工学教育プログラム)、平成20年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には継続審査を受審し、日本技術者教育認定機構(JABEE)によって継続認定された。さらに、平成23年(物質工学教育プログラム)には中間審査を受審し、平成24年(建設工学教育プログラム)には継続審査を受審し継続認定された。また、平成26年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には再び継続審査を受審し、日本技術者教育認定機構(JABEE)によって継続認定され、平成29年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)の継続認定を申請している。

「JABEEによる外部評価の状況」

| | 認定 | (中間審査) | 継続審査 | (中間審査) | 継続審査 | (中間審査) |
|----------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| 建築工学教育プログラム | 平成14年 | 平成16年 | 平成19年 | — | 平成24年 | |
| 機械・電機工学教育プログラム | 平成15年 | 平成17年 | 平成20年 | — | — | 平成29年 |
| 物質工学科教育プログラム | 平成15年 | 平成17年 | 平成20年 | 平成23年 | — | 平成29年 |

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.63-p.65」

「自己点検・評価報告書の作成を示す資料-1」

平成 29 年度 第 2 回自己点検・評価委員会 議事概要

◎ 日 時：平成 29 年 7 月 27 日(木) 14:15～14:50

◎ 場 所：管理棟 2 階 中会議室

◎ 出席者：

(陪席)：

◎ 配付資料

- 資料1 自己点検・評価 外部機関による評価スケジュール
- 資料2 第3期中期計画・年度計画 PDCAサイクル
- 資料3 「自己点検・評価報告書」の作成について
- 資料4 平成 29 年度自己点検・評価報告書目次(案)及び作成部署(案)
- 参考資料 自己点検・評価報告書(平成 25 年 3 月)

◎ 後日配付資料

平成 24 年度機関別認証評価報告書の指摘事項

◎ 議 事

1) 自己点検・評価報告書について

より資料 1、2 に基づき、自己点検・評価及び認証評価について説明がされ、29 年度に自己点検、30 年度に改善を行い、31 年度に認証評価を受審したく、今年度に平成 25 年度～29 年度の 5 年間でまとめた自己点検・評価報告書の作成が提案され了承された。

作成のための作業部会を立ち上げることとし、より部会長を、副部会長をが指名された。

より資料 3、4 に基づき報告書は平成 24 年度作成と同程度のボリュームで認証評価型の概要版、作業部会の委員、報告書の目次及び作成の分担の原案が提案され審議の結果、了承された。作業部会委員のうち、本日の委員会に出席していない委員へは部会長より説明の上依頼することとした。

なお、からは、委員本人へ報告書の執筆を依頼しているものではなく、責任者として他の教員へ執筆を依頼し取り纏め作業を行う等、各委員会等において分担して作業するよう説明がされ、11 月までに第 1 版の提出が依頼された。

からは、平成 24 年度に実施された機関別認証評価の評価報告書で指摘された「改善を要する点」に留意し作成するよう依頼がされた。後日追加資料として「改善を要する点」が配付された。

出典「平成 29 年度 第 2 回自己点検・評価委員会 議事概要」

○ 機関別認証評価について

- ・ 認証評価は7年ごと（平成17年度，平成24年度，平成31年度，…）
- ・ 「平成30年度から実施する3巡目の高等専門学校機関別認証評価」においては，基準がこれまでと変更になる。（本校は平成31年度）

基準1 教育の内部質保証システム

基準2 教育組織及び教員・教育支援者等

基準3 学習環境及び学生支援等

基準4 財務基盤及び管理運営

基準5 準学士課程の教育課程・教育方法

基準6 準学士課程の学生の受け入れ

基準7 準学士課程の学習・教育の成果

基準8 専攻科課程の教育活動の状況

※ 本校が審査を受ける機関別認証評価（平成31年度）では，

基準1 教育の内部質保証システム が重点評価項目となっています。

※ 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について，学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針，体制等が整備され，点検・評価の基準・項目等が設定されているかについて評価が行われます。

※ 内部質保証システムに基づき，根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ，その結果が公表されているかについても評価が行われます。

○ 今後の自己点検・評価報告書作成に関わる会議開催予定及び平成30年度の計画

- ・ 平成29年11月 ……自己点検・評価報告書進捗状況について
- ・ 平成30年 3月 ……自己点検・評価報告書の最終確認 →その後HPで公開
- ・ 平成30年 4月～ 内部質保証システムの在り方の検討及び構築
- ・ 平成31年 1月～3月 内部質保証システム（PDCA）による自己点検・評価
- ・ 平成31年 4月～ 機関別認証評価に向けての自己評価書作成作業

出典「平成29年度 第2回自己点検・評価委員会 資料3」

「自己点検・評価報告書の作成時期及び公表状況を示す資料」

評価情報

法人評価

- ・ [独立行政法人評価](#) (国立高等専門学校機構サイト)

認証評価

- ・ [大学改革支援・学位授与機構が実施する機関別認証評価](#)

自己点検・評価

- ・ [自己点検・評価報告書](#)

外部評価

- ・ [参与会](#)
- ・ [JABEEへの取り組み](#)

関連サイト

- ・ [文部科学省ホームページ](#)
- ・ [独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構ホームページ](#)
- ・ [JABEEホームページ](#)

出典「高知高専 HP:

<https://www.kochi-ct.ac.jp/hyouka/hyouka>]

> [評価情報](#) > 自己点検・評価

自己点検・評価

高知高専は、学校教育法に基づき、教育研究等の状況について下記のとおり自己点検・評価を行い、公表しています。

[平成14年度自己点検評価報告書](#) (PDF)

[平成19年度自己点検評価報告書](#) (PDF)

[平成24年度自己点検評価報告書](#) (PDF)

[平成29年度自己点検評価報告書](#) (PDF)

出典「高知高専 HP:

<https://www.kochi-ct.ac.jp/hyouka/jikoten>]

「平成 30 年 3 月発行の自己点検・評価報告書の点検内容を示す資料」

目 次

| | |
|---|----|
| 1. 教育目的・教育方針 | |
| 1-1 教育目的 | 1 |
| 1-2 教育方針 | 1 |
| 1-3 学習・教育目標 | 1 |
| 1-4 継続学科の教育目的 | 1 |
| 1-5 ソーシャルデザイン工学科の教育目的 | 2 |
| 1-6 専攻科の目的 | 3 |
| 1-7 専攻科の教育方針 | 3 |
| 1-8 専攻科の教育目的 | 3 |
| 1-9 本校における三つの方針について（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー） | 4 |
| 1-9-1 ソーシャルデザイン工学科 | 4 |
| 1-9-2 専攻科の入学者選抜 | 6 |
| 1-10 教育目的の学校の構成員への周知 | 8 |
| 1-11 教育目的の社会への公表 | 8 |
| 2. 教育組織（実施体制） | |
| 2-1 学科（本科）の構成 | 9 |
| 2-2 学科（専攻科）の構成 | 9 |
| 2-3 全学的センター | 9 |
| 2-4 教育活動の運営体制 | 11 |
| 2-5 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携 | 11 |
| 2-6 教員の教育活動における支援体制 | 11 |
| ~~~~~（略）~~~~~ | |
| 13. 財源 | |
| 13-1 資産の状況 | 69 |
| 13-2 経常的収入の確保外部の財務資源の活用策 | 69 |
| 13-3 収支計画の策定と明示 | 70 |
| 13-4 収支の状況と資産配分 | 71 |
| 13-5 財務諸表の公表と会計監査の実施 | 71 |

出典「自己点検・評価報告書 平成 30 年 3 月発行 目次より抜粋」

「全教員対象に実施する『個人評価に係る自己申告書等の提出について』の実施内容、実施方法等がわかる資料」

差出人

日時

To:

Cc:

標題 個人評価に係る自己申告書等の提出について(依頼)

平成30年4月19日

教員各位(新任教員を除く)

個人評価委員会委員長

個人評価に係る自己申告書等の提出について(依頼)

このことについて、「高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項」に基づき、下記の資料について作成の上、5月31日(木)までに総務課人事・労務係(担当:中嶋)あて親展で提出願います。
なお、電子メールによる提出も可とし、提出用ファイルをサイボウズ文書管理の下記アドレスに掲載しましたので、お手数ですがダウンロードのうえ利用いただきますようお願いいたします。
また、下記の【提出書類】3については、平成29年度に「自己目標」を記入したものに「達成状況」を加えて提出願います。もしお手元にデータがない場合はコピーをお届けしますので下記担当までご連絡願います。

総務課>総務課・庶務担当>個人評価>H30個人評価
<http://office.kochi-ct.ac.jp/cgi-bin/cbgrn/grn.cgi/cabinet/index?hid=9971>

※なお、自己申告書のデータの一部を教育研究費追加分の参考資料とさせていただきます。

記

【提出書類】

1. 「教育研究活動等に係る自己申告書(平成30年度)」
※前年度実績を記入、様式の「記入上の注意」をご確認ください
2. 「自己目標と達成状況(平成30年度)」 ※平成30年度自己目標の記入
3. 「自己目標と達成状況(平成29年度)」 ※平成29年度達成状況の記入

(宛先)

出典「個人評価に係る自己申告書等の提出依頼メール」

教育研究活動等に係る自己申告書

(平成30年度)

所属 **ソーシャルデザイン工学科** 所属学科名を入力してください。

職名 職名を入力してください。

氏名 氏名を入力してください。

1. 記入上の注意

- 1) 前年度実績により記入してください。
- 2) 完全にあてはまらないような設問、回答に対しては適宜判断して答えてください。
- 3) 小数点がでるような場合は、四捨五入してください。

注) の部分に、入力してください。
合計などは自動計算されます。

2. シートの構成

9枚のシートで構成しています。

- I. 1. 授業等の担当
- I. 2. FD活動
- I. 3. 学生生活指導
- I. 4. 経歴関係
- II. 研究等の活動
- III. 地域振興
- IV. 管理運営
- V. その他
- VI. 集計

I. 教育等の活動

| 番号 | 評価項目 | 記 述 | 実績 | 点数 | 備考 |
|-----|---|---|----|----|-------|
| 1 | 授業時間 (1) 通常より授業単位時間数 | (注) 1) 単位時間: 約60分、講義、演習等を含む。単位別の標準を含む。非常勤の方は含まない。 (注) 2) 一つの授業科目を複数科目で担当する場合は、授業担当時間を標準と同じ平均化して、カウントして下さい。 1) 標準時間以上: [3点] 2) 12~14単位時間: [2点] 3) 7.5単位時間以下: [1点] | | 0 | |
| | (2) 正課授業以外 | 1) 進修・就職指導等、資格試験等準備に実施: [3点] 2) 進修の低い学生に実施: [2点] 3) 3種の授業形式が採用されていると答えているので、補習授業は行っていない: [1点] 4) 補習授業は全く実施していない: [0点] | | 0 | |
| 2 | 授業の内容・方法 (1) シラバスはあるか、適切に利用しているか | 1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している: [3点] 2) シラバスはあるが、あまり利用していない: [1点] 3) シラバスは全くない: [0点] | | 0 | |
| | (2) 教科書及び参考書は使用しているか | 1) 講義の教科書・参考書及び自分で採集した最新の教材を使用している: [3点] 2) 自分が採集した教科書あるいは参考書と自分で採集した教材を使用している: [2点] 3) 自分で採集した教材を使用しているが、教科書・参考書は使用していない: [1点] 4) 採集した教科書・参考書は全くない: [0点] | | 0 | |
| | (3) 教育方法の工夫 | 1) 双方向型の授業やグループ学習など新しい教育方法を実施している: [3点] 2) 一方的な授業にならないように工夫して実施している: [2点] 3) 従来の一方的な授業形式で授業を行っている: [1点] | | 0 | |
| | (4) 学生による評価の取り入れ | 1) 授業の途中・学生が授業評価を前日・直前で行うような工夫をしている: [2点] 2) 学生による授業評価が取り入れられ、学生の評価にも対応する授業を行っている: [1点] | | 0 | |
| 3 | (1) 成績評価基準 | 1) 授業目標に則する達成度で評価している: [3点] 2) クラス内あるいは学年内での個別評価で決めている: [2点] 3) 上記以外の評価基準で評価している: [1点] | | 0 | |
| | (2) 定期試験や小テストの答案の採点結果や評価結果などを学生本人に通知しているか | 1) 定期試験はもとより小テストやレポートを採点して学生に通知し、誤解や疑問を加え、よく理解させるようにしている: [3点] 2) 定期試験、小テストレポートは採点して学生に通知している: [2点] 3) 定期試験は採点して通知のみ通知している: [1点] | | 0 | |
| | (3) 授業の効果の確認 | 1) 定期試験で確認するほか、レポートや宿題のチェック、アンケート調査、各種の実力試験、資格試験、コンテストの開催などで確かめている: [3点] 2) 定期試験で確認するほか、卒業研究の成果、就職・進学試験の結果などにより授業を考えた学生の今後の成長を確認している: [2点] 3) 定期試験のみ確認している: [1点] | | 0 | |
| 4 | 授業に際する指導 (1) 欠席の多い学生にはどのように対応しているか | 1) クラス担任と密接に連絡をとりながら対応している: [3点] 2) 時期を見てクラス担任と連絡をとりながら、教員でも対応している: [2点] 3) 密接に対応している: [1点] | | 0 | |
| | (2) オフィスアワーの設け方と活用 | 1) オフィスアワーを設けているが、それ以外でも学生の来室に物込している: [3点] 2) オフィスアワー一般に行って活用している: [2点] 3) オフィスアワーは特設していないが、学生の来室には物込している: [1点] 4) オフィスアワーは特設しておらず、学生の来室には、時間的、時間的制約を設けている: [0点] | | 0 | |
| 5 | 卒業論文指導の状況 (1) 指導学生の数 | (職位、役職を考慮) 1) 標準より多い卒業生数を指導している: [2点] 2) 標準の卒業生数を指導している: [1点] 3) 標準より少ない卒業生数を指導している: [0点] | | 0 | |
| | (2) テーマ | 1) 学生一人ひとりに別々のテーマを考えた: [3点] 2) 複数の学生に同一のテーマを考えたところ、各自が独自の論文を作成することができ、独自性は確保できた: [2点] 3) 複数の学生に同一のテーマを考えたところ、各自が独自の論文を作成することができず、独自性は確保できなかった: [1点] 4) 不適切なテーマであった: [0点] | | 0 | |
| | (3) 卒業論文の採点(学生の質実と指導効果を評価) | 1) 学生一人ひとりを高く評価した結果、全て立派な論文であった: [3点] 2) 学生一人ひとりを高く評価した結果、ほぼ満点な論文であった: [2点] 3) すべてに高い評価がつけられ、満点であった: [1点] 4) 不適切な採点であった: [0点] | | 0 | |
| | (4) 卒業論文の採点(学生の質実と指導効果を評価) | 1) 学生一人ひとりを高く評価した結果、全て満点な論文であった: [3点] 2) 学生一人ひとりを高く評価した結果、ほぼ満点な論文であった: [2点] 3) 学生の質実を考慮すれば、まずまずの論文であった: [1点] 4) 全てにおいて指導の不足が認められる論文であった: [0点] | | 0 | |
| 6 | 指導生の指導(教育方法の工夫、生活指導等) (1) 指導の方法等 | 1) 指導生用に必要な知識・工夫を身につけている: [2点] 2) 指導生用に必要な知識・工夫を身につけていない: [1点] 3) 指導生用に必要な知識・工夫を身につけていない: [0点] | | 0 | |
| | (2) 課外授業(正課の授業以外の授業) | 1) 課外授業を実施している: [2点] 2) 課外授業を学のために実施している: [1点] 3) 課外授業は行っていない: [0点] | | 0 | |
| | (3) 生活面の指導や相談について | 1) 生活指導や相談は積極的に実施を行っている: [2点] 2) 生活指導や相談は実施している: [1点] 3) 生活指導や相談は実施していない: [0点] | | 0 | |
| 小 計 | | | | | |
| | | | | | 最高49点 |

出典「教員研究活動等に係る自己申告書（平成30年度）」

自己目標と達成状況（平成30年度）

所属：ソーシャルデザイン工学科

職名：_____

氏名：_____

・平成30年度に計画する自己目標を申告し、各項目の申告内容について、年度終了後、目標の達成度を自己検証する。

| 事 項 | 自 己 目 標 | 達 成 度 |
|---------------------------------|---------|-------|
| 1. 教育に関する事項 ①授業に関すること | | |
| ②学生生活指導に関すること | | |
| ③その他 | | |
| 2. 研究に関する事項 | | |
| 3. 運営への参加に関すること (学校全体及び所属学科) | | |
| 4. 地域社会との連携に関する 事項 | | |
| 5. その他 | | |

出典「自己目標と達成状況（平成30年度）」

自己目標と達成状況（平成29年度）

所属：ソーシャルデザイン工学科

職名：_____

氏名：_____

・平成29年度に計画する自己目標を申告し、各項目の申告内容について、年度終了後、目標の達成度を自己検証する。

| 事 項 | 自 己 目 標 | 達 成 度 |
|---------------------------------|---------|-------|
| 1. 教育に関する事項 ①授業に関すること | | |
| ②学生生活指導に関すること | | |
| ③その他 | | |
| 2. 研究に関する事項 | | |
| 3. 運営への参加に関すること (学校全体及び所属学科) | | |
| 4. 地域社会との連携に関する 事項 | | |
| 5. その他 | | |

出典「自己目標と達成状況（平成29年度）」

「全教員対象に実施する『教員による相互評価』の実施内容、実施方法等がわかる資料」

差出人 “総務課人事・労務係” <jinji@jm.kochi-ct.ac.jp>

日時 2018年06月20日(水) 10:48

To:

Cc:

標題 平成30年度教員顕彰「教員による相互評価」の実施について(依頼)

平成30年6月20日

教員各位
※有期雇用教員及び再雇用教員除く

校長

平成30年度教員顕彰「教員による相互評価」の実施について(依頼)

昨年に引き続き平成30年度の国立高等専門学校教員顕彰候補者推薦の評価事項である「教員の相互評価」を実施します。つきましては、候補者推薦要領により教員の教育業績等評価の趣旨をご理解のうえ、下記のいずれかの方法により、7月20日(金)までに総務課人事・労務係(担当:中嶋)あてに提出くださるようお願いいたします。なお、学内候補者の選考は、教員顕彰実施要項の2. 候補者推薦要領に沿って、「本校における教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項」第3に規定する「個人評価委員会」で行う予定であることを申し添えます。

また、添付ファイルデータはサイボウズ文書管理【総務課・庶務担当】の下記アドレスに掲載していますので、お手数ですがダウンロードのうえ利用いただきますようお願いいたします。

【総務課・庶務担当】>教員顕彰>H30機構教員顕彰
<http://office.kochi-ct.ac.jp/cgi-bin/cbgrn/grn.cgi/cabinet/index?hid=10035>

【投票方法】

- ①無記名による投票の場合、添付ファイルの投票用紙を印刷し、氏名記入欄に3名連記のうえ、管理棟2階総務課室(担当:人事・労務係)に設置の投票箱に投票する。
- ②添付ファイル投票用紙の氏名記入欄に3名連記のうえ、電子メールにより提出する。

提出先メールアドレス: jinji@jm.kochi-ct.ac.jp

出典「平成30年度教員顕彰『教員による相互評価』の実施メール」

教員による相互評価

1. 評価方法

教育活動、学生生活指導、教育・研究を通じた社会への貢献、管理運営に積極的に取り組んでいる、本人以外の複数の教員の氏名を記入する。

2. 実施方法

(1) 全教員を対象とし、3名連記のうえ投票する。

(ただし、有期雇用教員、再雇用教員及び非常勤講師は含まない)

(2) 投票については、原則として無記名とし、該当部分を切り取り投票する。

ただし、差し支えない場合は、この用紙に記入の上、電子メールによりそのまま提出する。

3. 集計方法

校長、教務主事が得票順に順位をつける。

..... キ リ ト リ セ ツ.....

全教員（3名）

氏名記入欄

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

出典「平成30年度『教員による相互評価』記入用紙」

「教員個人の教育研究活動等の評価及び運用に係る要項を示す資料」

高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る
評価及び運用に係る要項

平成15年 6月 5日校長裁定

(趣旨)

第1 この要項は、高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動の一層の活性化を図り、教育・研究機関としての質の向上が自律的かつ継続的になされる体制を構築するため、教員個人の教育研究活動等の評価（以下「個人評価」という。）とその運用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(評価の対象)

第2 個人評価の対象とする教員は、本校の教授、准教授、講師、助教及び助手とする。

(個人評価委員会)

第3 適切な個人評価を行うため、個人評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、校長、各主事、専攻科長及び事務部長で構成する。

3 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(評価項目)

第4 本校の目的、目標を明確にし、その目標等を達成するために設定する個人評価の項目は、次のとおりとする。

(1) 教育活動

(2) 研究活動

(3) 地域振興活動

(4) 管理運営面の活動

(5) 自己目標と達成状況

(6) 学生による授業評価

(7) その他個人評価に関し、校長が必要と認めたもの

2 各評価項目の事項等は、校長が関係委員会等に意見を求め、定めるものとする。

(評価の方法)

第5 個人評価は、原則として、各教員の自己申告によるものとし、あらかじめ明示された評価項目、各項目の事項、配点により評価を行うものとする。

(評価手続き)

第6 委員会は、各教員等から第4に規定する評価項目に対応して次の資料について提出を求め、評価を行うものとする。

(1) 各年度当初に求める、前年度の活動実績を基とする「教育研究活動等に係る自己申告書」
(第4第1項第1号～第4号関係)

(2) 自己目標と達成状況 (第4第1項第5号関係)

- (3) 学生による授業評価結果（第4第1項第6号関係）
- (4) 不定期に求める「教育研究業績書」（第4第1項第7号関係）
（評価の運用）

第7 各教員は、評価結果を、自己の教育・研究活動等の質の向上と活性化のために活用するものとする。

2 校長は、評価結果を、次の各項目の運用に反映させるものとする。

- (1) 勤勉手当の加算
- (2) 昇給区分の決定
- (3) 校長裁定経費の配分
- (4) その他評価の運用に関し、校長が必要と認めたもの
（評価結果の公表）

第8 個人評価の結果及び運用については、個人情報として取扱い、原則として本人以外には公表しないものとする。

（その他）

第9 この要項に定めるもののほか、必要な事項は委員会が別に定めるものとする。

附 則

この要項は、平成15年6月5日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

出典「高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に
係る評価及び運用に係る要項」

「教職員及び学生、保護者から意見等を聴取する体制が整備されていることを示す資料」

「高知高専意見箱」の開設について

1 趣旨

高知高専における学校運営上の課題、問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として、教職員及び学生、保護者からの意見、要望、指摘等を直接受け付けることのできる体制を整備する。

2 教職員、学生及び保護者からの意見等

(教職員)

- ① 高知高専教職員インフォメーションボード（本校の教職員からのみアクセス可能）に意見等の送信フォーム（意見箱）を設置し、意見等を入力・送信する。
- ② 送信フォーム（意見箱）から送信された内容は、総務課長、総務課長補佐（総務担当）、総務係（以下、「総務課」という。）が受信する。

(学生及び保護者)

- ③ 学生については、意見箱を設置して対応する。
- ④ 保護者への対応については、学生課に窓口を設け、文書、電話などでご意見を寄せていただく他、定期的に開催する、後援会地区会でもご意見を聴取することとする。

3 意見等の対応

- ① 総務課・学生課（以下「担当部署」という。）にて、意見の内容を精査し、関係部署に送付するとともに、校長、三主事、事務部長（以下、「校長等」という。）に報告する。
- ② 関係部署において対応策（改善、再発防止等）の検討を行う。
- ③ 関係部署より検討結果を校長等に報告する。
- ④ 意見等に対する回答については、担当部署又は関係部署から原則、教職員・学生・保護者へ直接行うこととし、匿名の場合は、情報公開をもって回答に代える

4 情報の公開

- ① 原則、教職員、学生及び保護者の意見等の概要及び回答をインフォメーションボードに掲載する。

(学生)

- ② 必要に応じ、意見等の概要及び回答を、校内掲示板に掲載する。

(保護者)

- ③ 保護者への回答は、後援会地区会等の開催時に報告又は、保護者へ定期的に送付する通信文書において意見等の概要及び回答に掲載する。

- ④ 情報の公開にあたっては、個人情報に留意するものとする。

5 データの管理

担当部署において検討結果等を整理し、データベース化する。

6 その他留意事項

- ① 「高知高専意見箱」の設置・運用は、平成22年8月1日から開始する。
- ② 意見、要望、指摘等のメールを送信したことを理由に、当該教職員、学生に対し、不利益な取り扱いを行わない。ただし、虚偽、誹謗中傷等不正を目的とする内容の場合を除く。
- ③ 匿名のメールも受け付けることとする。

出典 「高知高専意見箱」の開設について」

★ 高知高専教職員インフォメーションボード

| | | |
|--|---|--|
| <p>..主なホームページ..</p> <p>サイボウズ・ポータル 高知高専公式HP 学生用 学内LANINFO</p> <p>【旧各科のホームページ】 総合科学科HP 機械工学科HP 電気情報工学科HP 物質工学科HP 環境都市デザイン工学科HP 専攻科HP</p> <p>【その他のホームページ】 JABEE教育プログラム 機関別認証評価</p> <p>情報処理センター・広報 Skillup 高知の空 全国高専WWWマップ</p> <p>高知高専テクノフェロー 高知高専校友会</p> <p>【学外の機関】 首相官邸 文部科学省 総務省 経済産業省 国土交通省 気象庁 高知県 南海トラフ地震対策課 高知市 南国市 香南市 南国警察署 南国市消防本部</p> | <p>📁 学内情報</p> <p>サイボウズの掲示板 メールアドレス(教職員・学生) サイボウズ管理情報 職員録 芝蘭会 ハラスメント 高知高専意見箱(投稿) (回答)</p> <p>科研費情報 安全保険貿易管理 JABEE情報 JABEE作業部会</p> <p>■ 電子出席簿 ■ 本科キャンパスアシスト ■ 専攻科キャンパスアシスト ■ 教育支援システム(授業評価アンケート他)</p> <p>学内認証システムパスワード変更 LDAP センターパソコン室の時間割 図書館</p> <p>📁 高知高専イメージキャラクター ダウンロードサイト</p> <p>📁 本校が契約しているサービス 官報情報検索サービス 現行法令インターネット版</p> <p>📁 高専コンテスト関係 ロボコン プロコン デザコン プレコン</p> <p>📁 その他 Gmail 窓の社 Vector リングサーバ</p> | <p>📁 高専機関関係 国立高等専門学校機構 全国高専リンク 高専情報ポータル</p> <p>📁 高専機関関係の業務システム</p> <p>■ 出張旅費システム ■ Web調達システム ■ 給与支給明細書Web参照システム ■ KOALA ■ 高専機構意見箱及び教職員向け情報 ■ 高専統一認証パスワード変更 UniID ■ 三機関連携ビデオ会議システム</p> <p>📁 高専機関関係の教育システム</p> <p>■ 機構包括 MS Office 365 ■ 機構包括 MS SharePoint ■ Blackboard Learn ■ Blackboard Learn Help ■ 機構 Web Syllabus ■ 全高専共通利用進路支援システム</p> <p>📁 高専機関関係のリンク ■ KENKOBBOX 文科省共済 人間ドック</p> |
|--|---|--|

出典「高知高専教職員インフォメーションボード」

「在校生向けに実施した『学生による授業評価アンケート』の実施状況、設問内容、評価結果を
教員にフィードバックすることを示す資料」

「学生による授業評価アンケート」調査用説明資料

平成30（2018）年度版

1. 学生にアクセスしてもらった調査ページ
(調査期間直前に、「学生用インフォメーションボード」に下記ページへの
リンクを掲載します。)

<http://vin.kochi-ct.ac.jp/now/students-logon.php>

ユーザIDは、各学生の []
パスワードは、下記のように [] としています。ユ
ーザ認証後にメニュー画面が現れます。授業評価アンケートの項目を選んで
投票させて下さい。

| クラス名 | パスワード | クラス名 | パスワード |
|------|-------|------|-------|
| [] | | | |

2. 調査終了（調査授業終了）後の処理
従来行なっていたいた終了後の処理は不要となりました。 []
[] に電子メールか電話で、調査終了の連絡を
お願いします。

出典「「学生による授業評価アンケート」調査用説明書」

授業評価アンケート（平成30年度後学期）

質問内容

- Q1 学習・教育目標と達成・到達目標，成績評価方法，教育内容や教育方法が，シラバスに記載
されている。もしくは授業中に周知されている。
- Q2 授業内容や試験等の内容はシラバスや授業中の周知内容と同様であった。
- Q3 成績評価はシラバスや授業中の周知内容と同様であった。
- Q4 学生の質問，提出した課題，答案の回答に対して，納得できるように丁寧に説明・指導して
くれた。
- Q5 この授業の内容を理解するために積極的に取り組んだ。
- Q6 練習問題や試験，実技を通して自分の理解や到達状況を確認しながら学習した。

出典「授業評価アンケート」

高知高専教職員インフォメーションボード

| | | |
|--|---|---|
| <p>..主なホームページ..</p> <p>サイボウズ・ポータル</p> <p>高知高専公式 HP</p> <p>学生用 学内LAN INFO</p> <p>【旧各科のホームページ】</p> <p>総合科学科HP</p> <p>機械工学科HP</p> <p>電気情報工学科HP</p> <p>物質工学科HP</p> <p>環境都市デザイン工学科HP</p> <p>専攻科HP</p> <p>【その他のホームページ】</p> <p>JABEE教育プログラム</p> <p>機関別認証評価</p> <p>情報処理センター・広報</p> <p>Skillup 高知の空</p> <p>全国高専WWWマップ</p> <p>高知高専テクノフェロー</p> <p>高知高専校友会</p> <p>【学外の機関】</p> <p>首相官邸 文部科学省 総務省</p> <p>経済産業省 国土交通省 気象庁</p> <p>高知県 南海トラフ地震対策課</p> <p>高知市 南国市 豊南市</p> <p>南国警察署 南国市消防本部</p> | <p>④ 学内情報</p> <p>サイボウズの掲示板</p> <p>メールアドレス(教職員・学生)</p> <p>サイボウズ管理情報</p> <p>職員録 芝蘭会 ハラスメント</p> <p>高知高専意見箱(投稿) (回答)</p> <p>科研費情報 安全保障貿易管理</p> <p>JABEE情報 JABEE作業部会</p> <p>■ 電子出席簿</p> <p>■ 本科キャンパスアシスト</p> <p>■ 専攻科キャンパスアシスト</p> <p>■ 教育支援システム(授業評価アンケート他)</p> <p>学内認証システムパスワード変更 UIAP</p> <p>センター・パソコン室の時間割 図書館</p> <p>④ 高知高専イメージキャラクター</p> <p>ダウンロードサイト</p> <p>④ 本校が契約しているサービス</p> <p>広報情報検索サービス</p> <p>現行法令インターネット版</p> <p>④ 高専コンテスト関係</p> <p>ロボコン ブロコン デザコン ブレコン</p> <p>④ その他</p> <p>Gmail 窓の杜 Vector リングサーバ</p> | <p>④ 高専機関関係</p> <p>国立高等専門学校機構</p> <p>全国高専リンク 高専情報ポータル</p> <p>④ 高専機関関係の業務システム</p> <p>■ 出張旅費システム</p> <p>■ Web調達システム</p> <p>■ 給与支給明細書Web参照システム</p> <p>■ KOALA</p> <p>■ 高専機構意見箱及び教職員向け情報</p> <p>■ 高専統一認証パスワード変更 UniID</p> <p>■ 三機関連携ビデオ会議システム</p> <p>④ 高専機関関係の教育システム</p> <p>■ 機構包括 MS Office 365</p> <p>■ 機構包括 MS SharePoint</p> <p>■ Blackboard Learn</p> <p>■ Blackboard Learn Help</p> <p>■ 機構 Web Syllabus</p> <p>■ 全高専共通利用進路支援システム</p> <p>④ 高専機関関係のリンク</p> <p>■ KENKOBBOX 文科省 共済 人間ドック</p> |
|--|---|---|

教育と教育改善関連

| | |
|--------|--|
| 名列表関連 | <p>各種名列表表示 ※ 2017.04現在開発中</p> <p>学年 * <input type="text"/> クラス * <input type="text"/></p> <p>Blackboard Learn登録用 Bb用表示</p> <p>クラスの名列表の表示 名列表</p> |
| 授業評価関連 | <p>マニュアル</p> <p>学生による授業評価アンケート調査指導者向けマニュアル。ブラウザによってうまく表示されない場合があります。</p> <p>その際には、リンク部分を右クリックして、「別のタブで開く」「別のウィンドウで開く」を試してみてください。</p> <p>担当科目の結果</p> <p>ご担当科目の評価結果を一覧表示します。コメント入力もこちらです。</p> <p>集計機能</p> <p>【クラス・学科別一覧表示】</p> <p>学科、学年、クラス単位の評価結果一覧を表示します。</p> <p>学年 * <input type="text"/> クラス * <input type="text"/> GO</p> <p>(*はすべてという意味です。*Mで機械科全学年、3*で全科3年生の受講科目表示となります。)</p> |
| 授業参観関連 | <p>担当科目の参観コメント閲覧</p> <p>ご担当科目の授業参観コメントを見ることができます。</p> <p>参観コメント書込み科目指定</p> <p>学年 * <input type="text"/> クラス * <input type="text"/> GO</p> |
| 教育調査関連 | <p>アクティブラーニング室と機器に関する調査</p> <p>アンケートへの回答は、こちらからお願いします。</p> <p>アンケート集計結果は、こちらです。</p> <p>授業改善の取り組み(工夫、努力している点など)の調査(2015年度末実施分)</p> <p>調査アンケート結果閲覧は、こちらです。</p> |

出典「高知高専インフォメーションボード
教育支援システム(授業評価アンケート他)」

「平成 24 年度～28 年度に全学生対象に実施された授業評価アンケートの集計結果等がわかる
資料」

授業評価アンケート報告書

平成 24 年度～28 年度

(2012 年度～2016 年度)

高知工業高等専門学校

アクティブラーニング教育センター

はじめに

教育機関には、優秀な学生を確保し教育目標を達成できるように、教育内容や質を保証し、それらを向上させ改善できる教育システムのもとで、教育改善を継続し続ける努力が求められています。本校では、平成 11(1999)年度の部分試行を経て、平成 12(2000)年度から学生による授業評価アンケート調査を全学的に年一回実施してきました。平成 14(2002)年度までの調査は印刷書面への筆記回答方式で、本科全クラスに対して合計約 70 科目を選定して調査しました。平成 15(2003)年度からは、独自に開発した授業評価 Web アンケートシステムにより、校外実習・インターンシップなど一部の科目を除いた全科目について継続的に調査しています。本報告書は、平成 24(2012)～28(2016)年度における学生による授業評価アンケート調査結果をまとめたものです。調査結果の詳細は授業評価 Web アンケートシステムにより過年度分も含めて随時確認できますので、本報告では全学的な統計データの経年変化のみをまとめました。

平成 26 年度までの質問数は 12 問でしたが、本校も連携校として参画した大学間連携共同教育推進事業「分野別到達目標に対するラーニングアウトカム評価による質保証」の高専ポートレートワーキンググループの提言を受けて、平成 27 年度調査より学生の学習姿勢はアクティブか受け身かを問う「この授業では、積極的に授業の内容を理解しようと努めた」、授業の副次的効果として社会人基礎力への意識付けを問う「この授業が将来の自分に必要かどうかを考えることができた」の 2 問を追加し合計 14 問としました。

「学生による評価は正確でない」「不真面目な回答が含まれる」などを懸念される方もおられると思いますが、過去の分析ではその影響は少ないことが分かっています。また、どのような情報でも、教員は自らの授業を振り返る材料にする意識を持つことが必要です。学生の評価により浮きあがる自分の授業の優れたところやそうでないところを明確にし、改善し続けることが望まれます。

平成 29 年 3 月末に大学・高等専門学校設置基準が改定され「教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けることその他必要な取り組みを行うものとする」(高等専門学校設置基準第十条の二より抜粋)と明記されました。学校は FD 研修、講演会を受講する機会を職員(教員を含めたスタッフ全員の意味)に与える義務があり、職員は教育研究活動の能力及び資質を向上させることが義務となりました。学生による授業評価アンケート結果がこの一助となることを願っています。

この授業評価アンケートの実施に当たって、ご協力いただいた学生、教職員の皆さんに心から御礼申し上げます。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成 29 (2017) 年 6 月

高知工業高等専門学校 アクティブラーニング教育センター

平成 28 (2016) ～29 (2017) 年度センター長 ■ ■

目 次

| | |
|-------------------------------|----|
| 1. 授業評価アンケートについて | 1 |
| 1.1 調査目的と調査概要 | 1 |
| 1.2 実施要領 | 1 |
| 1.3 アンケートの設問 | 2 |
| 2. 調査結果の集計・分析 | 3 |
| 2.1 調査対象科目数と平均, 標準偏差 | 3 |
| 2.2 全授業科目の評価：単年度ごとの特徴 | 4 |
| 2.3 全授業科目の評価：過去 5 年間の推移 | 9 |
| 3. まとめと今後の課題 | 10 |

1. 授業評価アンケートについて

1.1 調査目的と調査概要

本校では、FD (Faculty Development) 活動の一環として、平成 11(1999)年度から学生による授業評価アンケートを部分的に試行し、各教員が授業方法の工夫や改善を行ってきた。平成 15(2003)年度からは、学生からの授業に対する評価を集約・分析し、全学的な授業方法の改善に資することを目的として、全科目について「学生による授業評価アンケート」調査を実施している。授業担当教員はアンケート集計結果を受けて授業改善に関するコメントを記入する。授業評価アンケート集計結果と教員からのコメントは、学内 LAN 内に限定した上で、全教員はすべての科目について、学生は受講科目について閲覧することができる。これによりフィードバックを行っている。アンケート調査から結果閲覧までの全プロセスは独自開発した WEB アンケートシステムにより実施している。

1.2 実施要領

学生による授業評価アンケートは前学期と後学期に各一回、年 2 回実施する。前学期の調査は前学期中間試験成績確定後の 6 月ないしは 7 月に、後学期の調査は後学期中間試験成績確定後の 12 月ないしは 1 月に実施する。いずれの調査も学内 LAN 限定に利用制限された WEB アンケートシステムを用いて行う。利用者である学生、教員は個別のユーザ ID とパスワードにより個人認証を受けて授業評価アンケートへの回答（学生のみ）、評価集計後の授業改善コメントなどの登録（教員のみ）、コメントを含めたアンケート結果の閲覧が行える（学生と教員）。結果の閲覧範囲は、学生は自身の受講科目のみ、教員は全ての科目である。

1.3 アンケートの設問

アンケートの設問は、平成 26(2014)年度以前は 12 問、平成 27(2015)年度に 2 問追加されて全 14 問となった。質問への回答は五者択一回答により、「そう思う」5 点、「どちらかというそう思う」4 点、「どちらともいえない」3 点、「どちらかというと思わない」2 点、「そう思わない」1 点と評価され、数値が高いほど高評価になる。以下に質問の文面を掲載する。

【 授業について 】

- Q1. 先生の話し方は、明瞭で聞きやすかった。
- Q2. 授業・実習は、シラバスの授業の計画に基づいて進められ、早すぎず遅すぎず適切であった。
- Q3. (座学・実験実習) 白板やプロジェクターなどの書き方や文字は見やすかった。(体育) 実技の指導、器具の扱いについての説明は分かりやすかった。
- Q4. 学生の質問、提出した課題、答案の回答に対して、納得できるように丁寧に説明、指導してくれた。
- Q5. 先生はクラスの雰囲気や授業・実験実習に集中させていた。

【 授業の内容について 】

- Q6. (座学・実験実習) 教科書・問題集、実験指導書、プリントなどは理解しやすく、十分授業の参考になった。(体育) 実技種目のルールや目的など納得できるように説明してくれた。
- Q7. 授業・実験実習内容のレベルは、あなたにとって適切であった。

【 試験と成績について 】

- Q8. (座学・体育) 試験内容は、講義や実技との関連性が適切であった。(実験実習) 実験実習の内容は、関連する授業科目との関連性が妥当であった。
- Q9. 成績の評価は、シラバスに基づいて行われ、妥当なものであった。

【 授業に対する取り組みについて 】

- Q10. 私はこの授業・実験実習に対して熱心な取り組みをした。
- Q11. 私はこの授業・実験実習の学習内容を理解し、興味をもった。

【 授業による影響について 】 (平成 27(2015)年度より追加)

- Q12. この授業では、積極的に授業の内容を理解しようと努めた。
- Q13. この授業が将来の自分に必要かどうかを考えることができた。

【 授業全体について 】 (平成 27(2015)年度以降は Q14)

- Q12. この授業・実験実習は総合的にみて有意義なものであった。

2. 調査結果の集計・分析

2.1 調査対象科目数と平均、標準偏差

表 2.1 に、平成 24 (2012) ~28 (2016) 年度 (以降、過去 5 年間という) の対象科目数を示す。調査対象は、特別活動、学校行事、校外実習を除いたすべての科目である。科目数欄の () 内の数値は専攻科の調査科目数 (科目数の外数) である。専攻科開講科目は 1 名から数名の受講生しかいない科目が多く、統計対象とするに必要な人数に達しない科目が多いため、全体集計から除外した。このため表 2.1 の平均点や標準偏差値は本科科目に対するもののみである。本調査では複数の教員が輪番で担当する授業やグループごとに異なる教員が担当する科目などでは、異なる授業として調査している。このため調査対象となる科目数が年度によって異なる。また、平成 28 (2016) 年度入学生より専門 4 学科制を全廃し新学科であるソーシャルデザイン工学科 1 学科制となった。従来専門学科ごとに行われていた授業が 1 学科分のみとなったことから、調査対象科目数が減少した。

表 2.1 の平均点は、次のように算出した。一つの科目に対して 12 問ないしは 14 問の質問それぞれに対する平均値を算出し、各問の平均値を合計したものを質問数で割ったものを科目平均点とした。調査対象のうち本科科目すべての科目平均値を合計したものを科目数で割ったものを表 2.1 に平均値として記載した。標準偏差も同様に一つの科目に対して各問の標準偏差を算出、全問の標準偏差をもとに科目の標準偏差の平均値を求め、本科全科目の標準偏差の平均値を標準偏差とした。

表 2.1 の平均点からは調査期ごとの評価平均点が分かり、標準偏差からは学生が行なった評価の広がりが見える。平均点は年度ごとに前期より後期が下がる傾向が見える。これは以前の調査でも同様な傾向があり、前期後期の科目配置の違い、授業内容が前期の導入的なものから年度末に向けて高度化することによる困難感の醸成が原因と考えられる。標準偏差も前期より後期が若干大きくなる傾向があるが、平均値と同様の原因と思われる。

表 2.1 対象科目数と科目の評価平均点と科目の標準偏差

| 調査時期 | のべ科目数 | 平均点 | 標準偏差 |
|------------|----------|------|-------|
| 2012 年 前学期 | 251(+35) | 3.87 | 0.894 |
| 2012 年 後学期 | 259(+26) | 3.71 | 0.919 |
| 2013 年 前学期 | 254(+41) | 3.90 | 0.943 |
| 2013 年 後学期 | 257(+38) | 3.96 | 0.947 |
| 2014 年 前学期 | 249(+48) | 4.03 | 0.909 |
| 2014 年 後学期 | 253(+40) | 3.97 | 0.931 |
| 2015 年 前学期 | 246(+44) | 4.03 | 0.889 |
| 2015 年 後学期 | 250(+38) | 4.10 | 0.904 |
| 2016 年 前学期 | 237(+43) | 4.13 | 0.861 |
| 2016 年 後学期 | 232(+25) | 4.10 | 1.13 |

2.2 全授業科目の評価：単年度ことの特徴

図 2.1(a), (b)に平成 24(2012)年度の前学期(前期)と後学期(後期)の調査結果を示す。図 2.1(a)は、科目の平均点を横軸に、縦軸にその評点となった科目数をプロットしたものである。これより評点の分布が分かる。図 2.1(b)は、科目の平均点を横軸にしている点は図 2.1(a)と同様だが、縦軸に累積科目数を%表示している。この図の縦軸 50%を示す科目の平均値は、当該調査の全科目平均値を表し、海岸線から山に至る地形の断面のような曲線の傾きは科目の平均点の分布が分かる。曲線の傾きが急であれば、平均値周りに評点が集中していることになる。

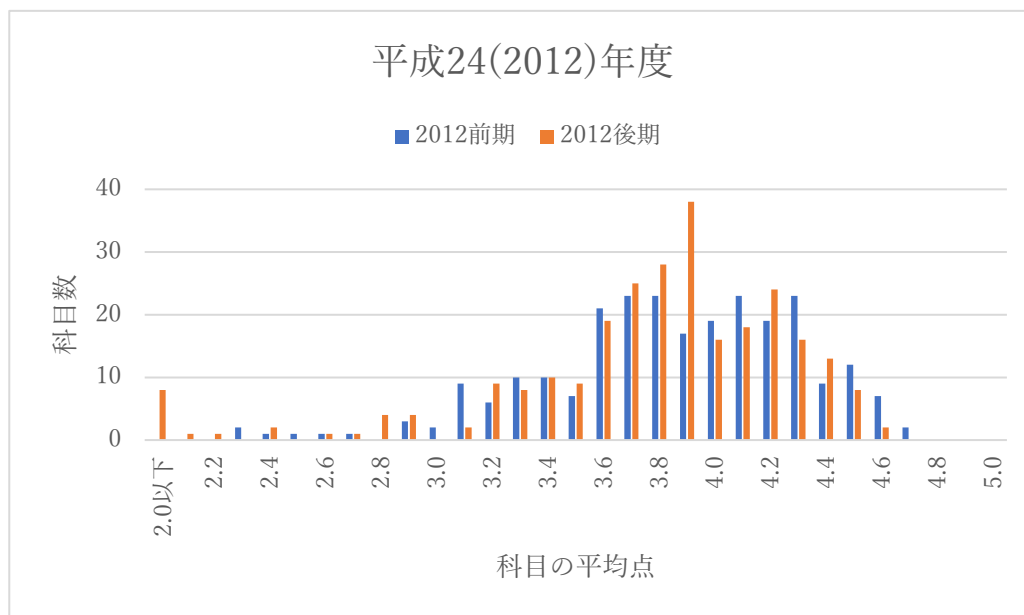


図 2.1(a) 科目の平均点の分布：平成 24 年度

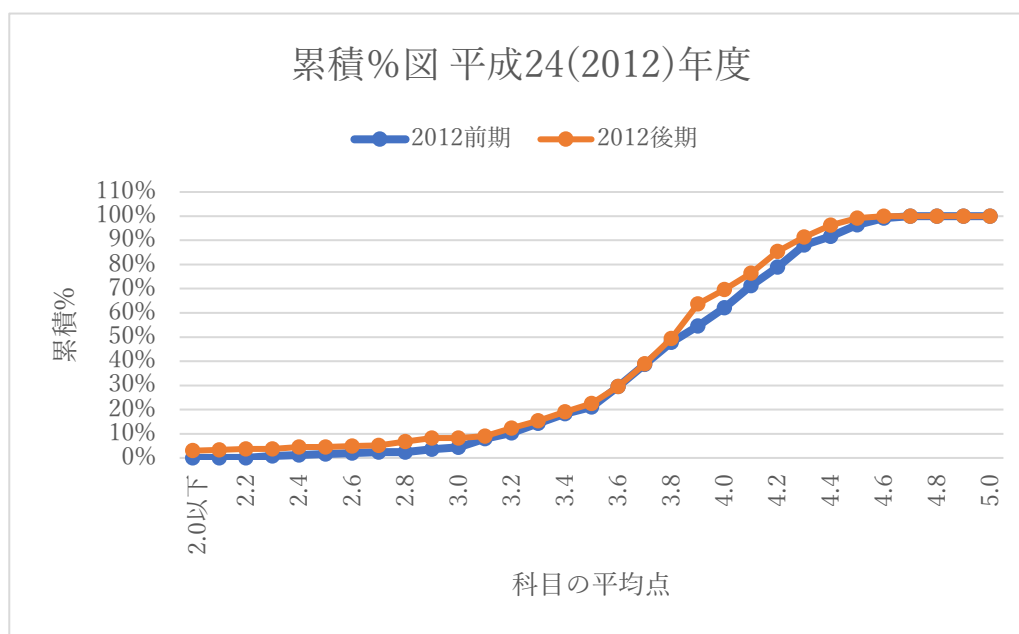


図 2.1(b) 科目の平均点の累積%：平成 24 年度

図 2.1(a)では、平均点である 3.7 周辺を中心とした集団と、4.2 辺りを中心とした小集団、3.4 より小さく 2.0 以下まで広がるロングテイル形状が分かる。4.2 周辺の評価が高い科目や評点が 3.4 より小さい科目は学年や学科を問わず授業担当者に依存していることが分かっており、教員の授業スキルや授業運営能力の高低が顕著に表れている。特に後期調査で評点が 2.0 を下回る科目が 8 科目と

多いのは改善する必要がある。図 2.1(b)は後期調査を前期調査と比較すると 50%部分から上の曲線の傾きが前期調査に比べて急になっている。これは後期で評価 3.9 の科目が前期の 17 科目から後期 38 科目へと倍増したことが主たる要因である。前期に比べて後期の方が平均値周辺にやや集まった傾向が見える。

平成 25(2013)年度の評価結果を図 2.2(a), (b)に示す。図 2.2(a)では図 2.1(a)にあった科目の平均点 2.0 以下の科目の評価が向上した結果、今期調査では科目平均点 2.0 以下の科目がなくなり、全体的にも一つ山に近い分布となっている。これは授業担当者が授業改善に取り組んだ結果である。図 2.2(b)の累積%も滑らかな曲線となっていて、全学的な授業改善が進んだことが伺える。

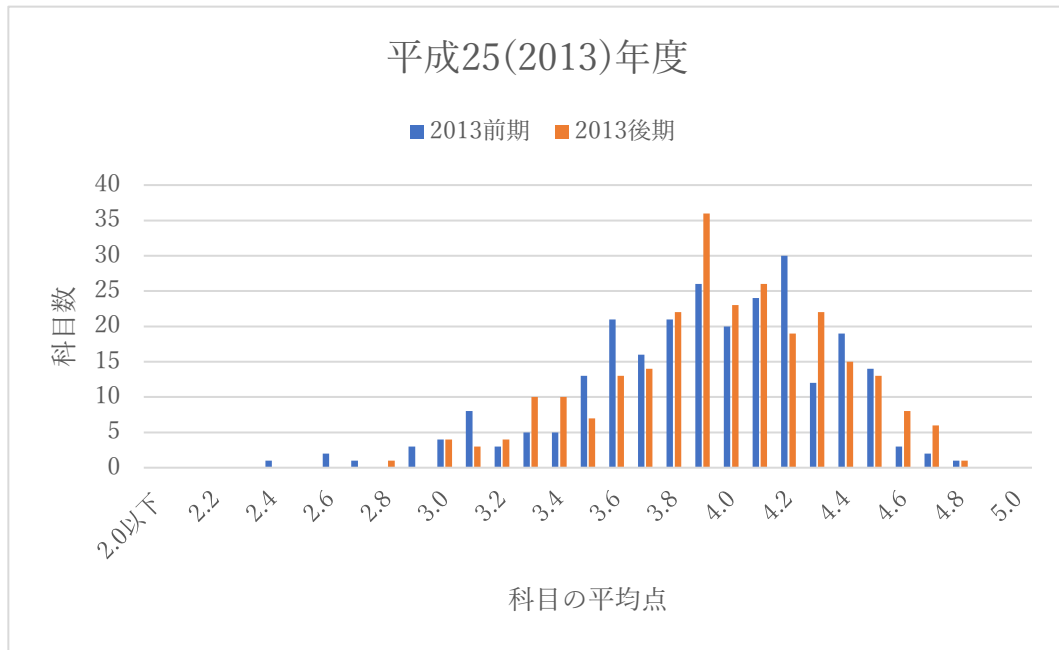


図 2.2(a) 科目の平均点の分布：平成 25 年度

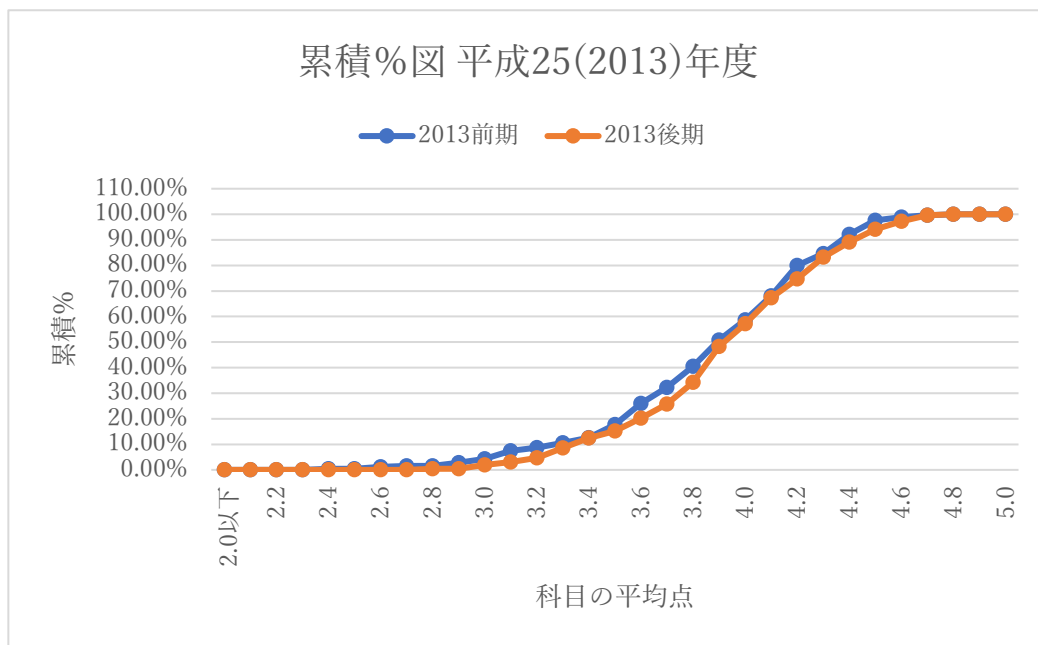


図 2.2(b) 科目の平均点の累積%：平成 25 年度

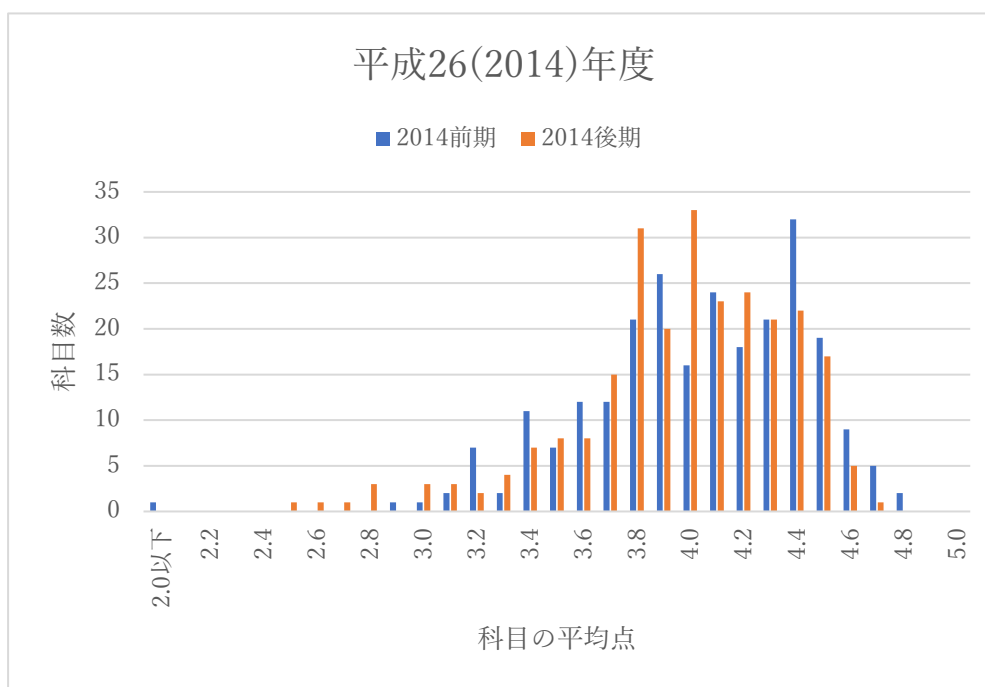


図 2.3(a) 科目の平均点の分布：平成 26 年度

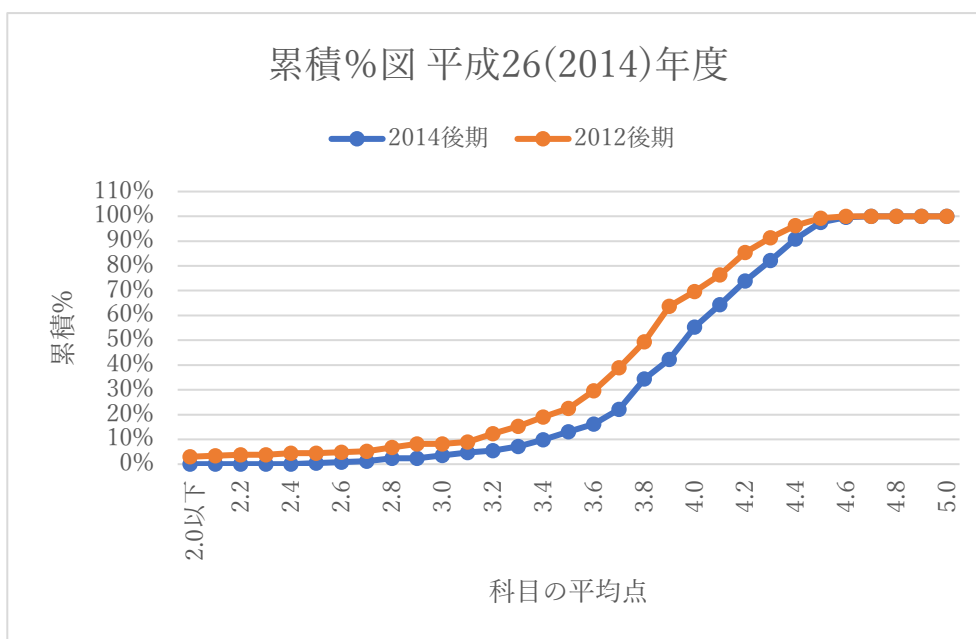


図 2.3(b) 科目の平均点の累積%：平成 26 年度

平成 26(2014)年度の結果を図 2.3(a), (b)に示す。平成 25 年度末で急遽退職した教員の授業を担当するために前学期に非常勤教員を雇用した。また科目担当者配置が複数移動して対応することにより前期調査では評価が低い科目が多出した。後期調査では、科目平均点 2.0 以下の科目は改善されたが、全体的に評価が低い方に移動する結果となり前学期から続く混乱が完全収束しないままとなった。

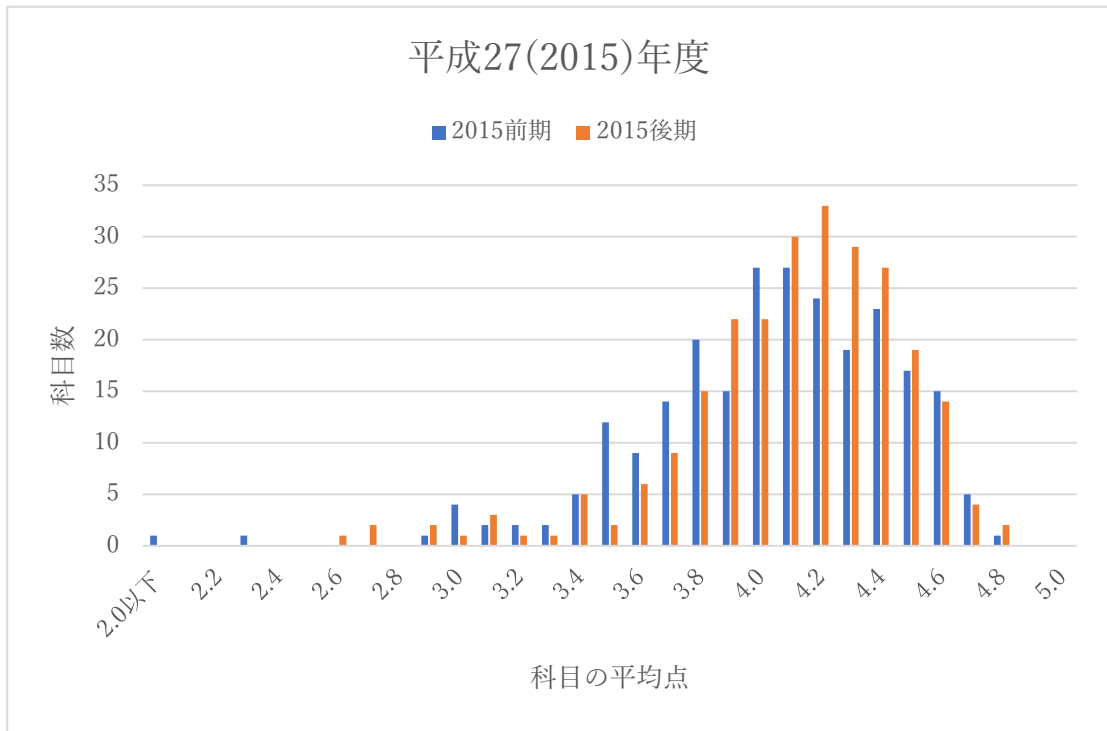


図 2.4(a) 科目の平均点の分布：平成 27 年度

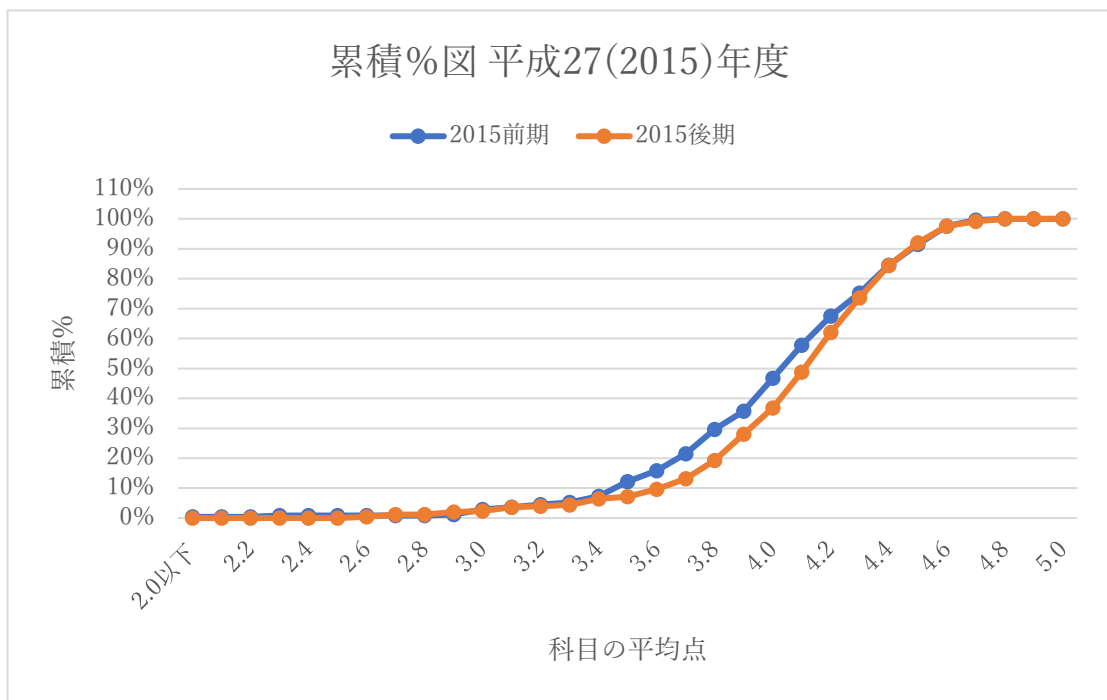


図 2.4(b) 科目の平均点の累積%：平成 27 年度

平成 27(2015)年度の結果を図 2.4(a), (b)に示す。図 2.4(a)の前期調査では科目の平均点が 3.5 付近を主体として平均点が低い科目が散見され、前年度から続く混乱状態が改善しきれていない状況が伺えるが、後期調査では評価が低い科目数が減少し、全体的に評価が高い方に移動しているのが分かる。これは年度当初に新規採用となった教員が力を発揮してきたこと、年度半ばに外部講師を招いたアクティブラーニング公開授業と研修会が開催され、教員全体の教育改善意識が向上したことが要因として考えられる。

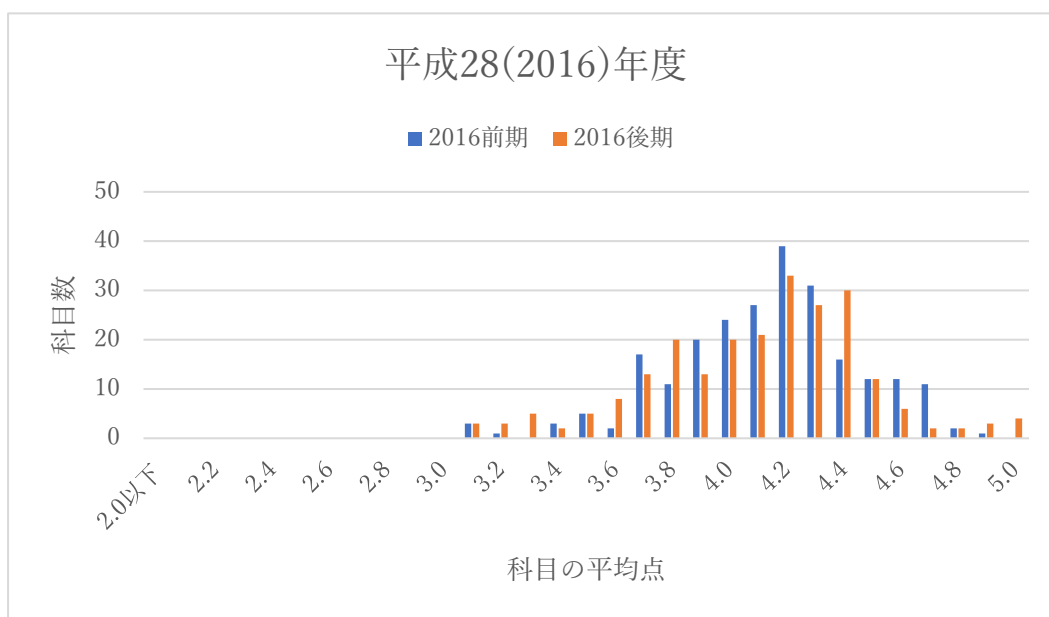


図 2.5(a) 科目の平均点の分布：平成 28 年度

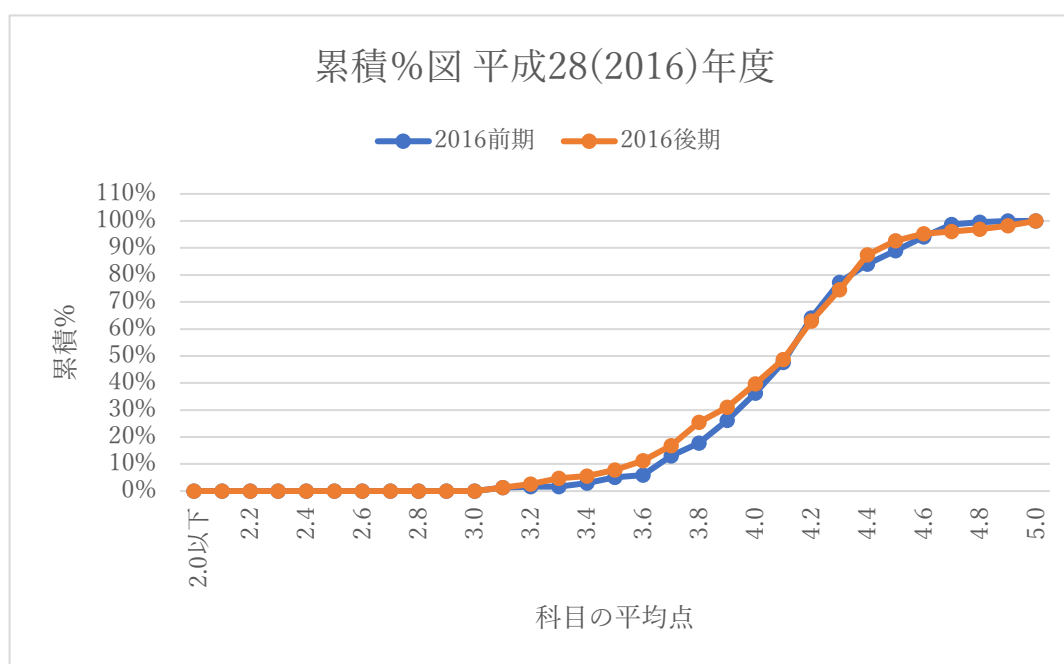


図 2.5(b) 科目の平均点の累積%：平成 28 年度

平成 28(2016)年度の結果を図 2.6(a), (b)に示す。図 2.5(a)を過年度と比較すると、過年度はスパイク的な突出・落ち込みがみられるものの全体的な分布が正規分布に近いものであったのに対して、この年度では科目の平均点 4.2 を中心としたローレンツ分布に近い形状になっていること、科目の平均点 3.5 以下の科目、4.6 以上の科目がそれぞれ多くあることが特徴的である。

FD 活動を主導してきた学内組織である教育改善推進室が、発展拡大的にアクティブラーニング教育センターに改組されたのが、この年度である。ICT 活用教育やアクティブラーニング型教育を取り入れる教員が急増したのがこの年度で、彼らの授業への評価が高い授業と低いもの両極端であったことから、このような特徴になったと考えられる。全体的には科目平均点が高い方に推移しており改善が進んでいることが伺える。

2.3 全授業科目の評価：過去5年間の推移

以下では過去5年間の推移を累積%図により前期、後期に分けて分析する。平成24(2012)年度から平成28(2016)年度に向けて曲線の50%高さの位置は科目の平均点が高い方に推移し、曲線の傾きは急になっている。これは全科目の平均値が5年間で順調に向上し、評点分布が平均値周りに集まっていることを示している。このことから全体的な授業改善が進んでいることが伺える。

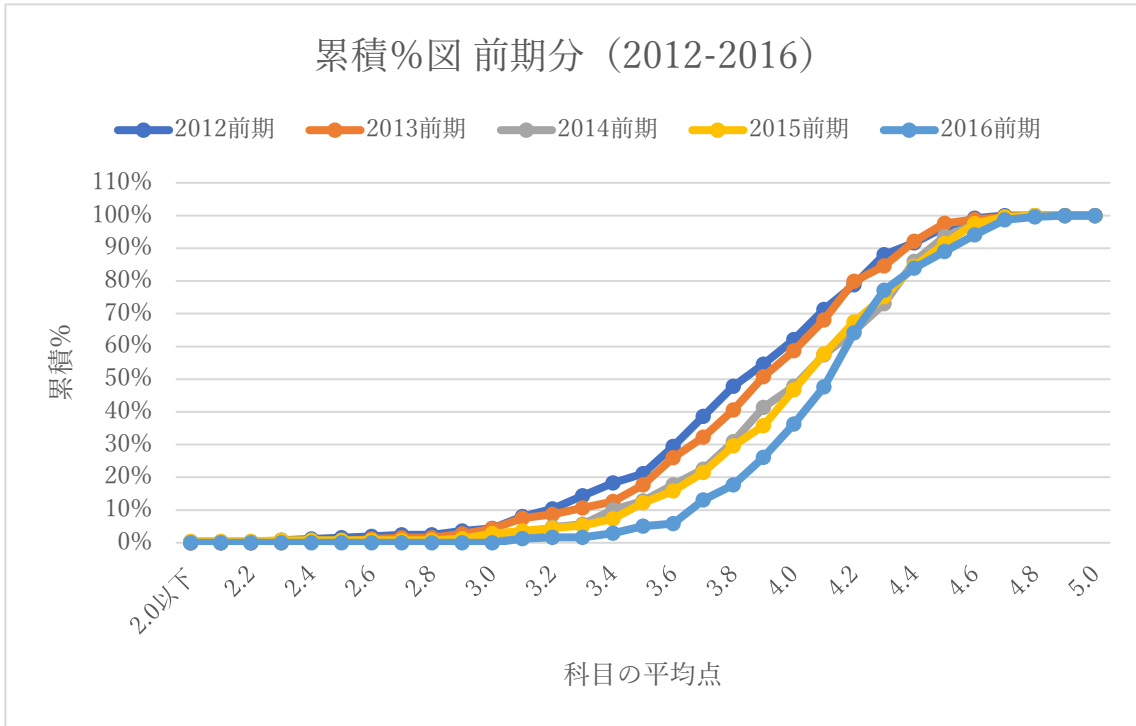


図 2.6 5年間の累積%の推移（前期調査）

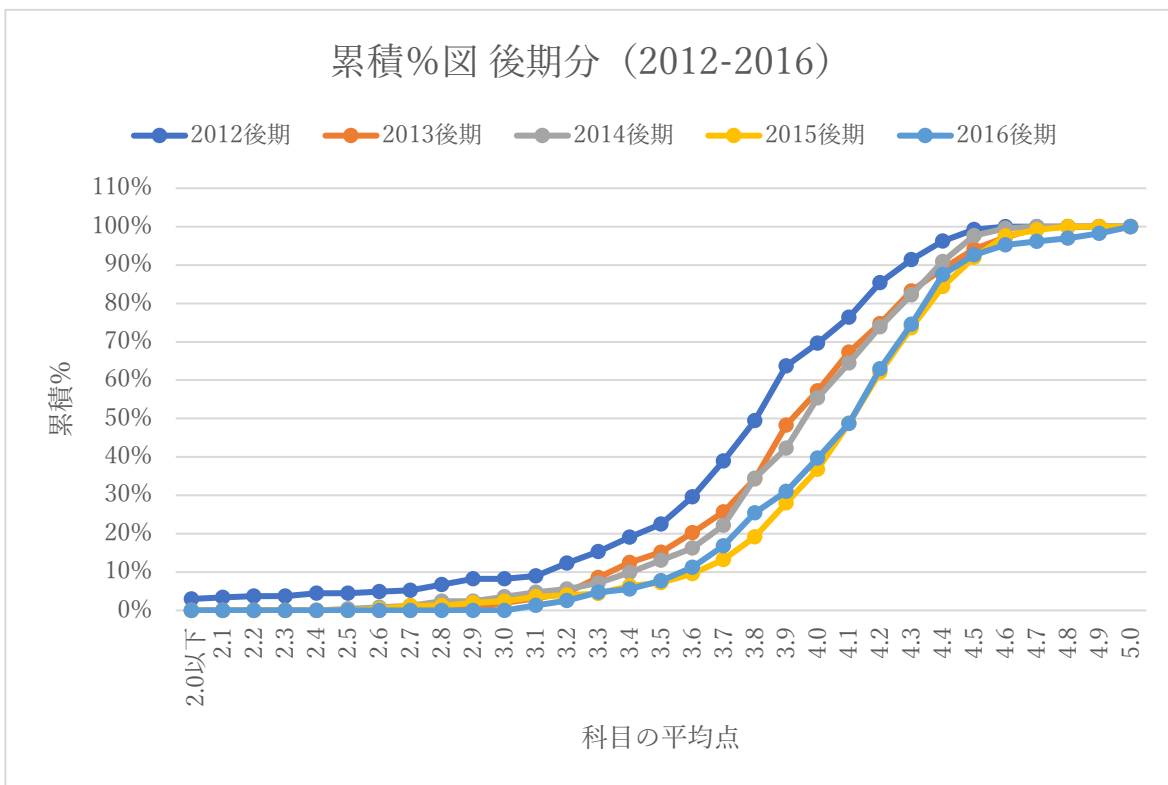


図 2.7 5年間の累積%の推移（後期調査）

図 2.7 より平成 24(2012)年度から平成 28(2016)年度に向けて曲線の 50%高さの位置は科目の平均点が高い方に推移し、曲線の傾きは急になっている。これは前期調査と同様に全科目の平均値が 5 年間で順調に向上し、評点分布が平均値周りに集まっていることを示しているが、前期調査では、年度進行で同じような間隔で少しずつ曲線が移動している傾向にあるが、前期調査の図 2.6 と比較すると平成 25(2013)年度と平成 26(2014)年度が同様な分布、平成 27(2015)年度と平成 28(2016)年度が同様な分布と 2 年単位で同様な様相を呈している点異なる。過去 5 年間で教員スタッフの離職・臨時的な非常勤教員雇用・新規採用が多数あり、教員の入れ替わりによる影響が考えられる。全体としては評価が高い方、集まりが良い方に推移しており、全体的な授業改善が進んでいることが伺える。

3. まとめと今後の課題

平成 24(2012)年度から平成 28(2016)年度までの学生による授業評価アンケート結果は、本校の授業改善が年次推移で改善していることが伺える内容であった。また、科目平均に対する科目数分布や累積%により年度の特徴が見えることも明らかとなった。一方では、学生による授業評価結果は全体的に高止まりの様相を呈している。平成 29 年度は現在のような WEB アンケートを実施して 15 年の節目であり、質問内容の再検討が必要な時期とも思える。アクティブラーニングや ICT 活用教育など新しい授業形態や授業手法の導入が推奨されており、本校でも授業に取り入れるケースが増えてきた。授業内容は到達すべき目標を明示すること、成績の評価は達成度評価とすることは社会の要請としてあり、それら新しい授業スタイルにふさわしい到達目標や成績評価が行われていることが分かりやすいようにアンケート文面や質問項目を検討し逐次移行して行くことが今後の課題と思われる。

平成 29 (2017) 年 6 月

高知工業高等専門学校 アクティブラーニング教育センター

出典「授業評価アンケート報告書 平成 24 年度～平成 28 年度」

「本科 5 年生、専攻科 2 年生対象に実施された学習教育目標達成度評価アンケートの実施状況等がわかる資料」

[その他]

8. 学習教育目標達成度評価アンケート

今年度も 5 年生、専攻科 2 年生に実施 (2/21-3/15)。

Web 入力による回答を学生へメールで依頼予定。

達成度評価アンケート用 URL: XXXXXXXXXX

出典「平成 30 年度 第 19 回教務委員会議事録より抜粋」

本科卒業生・専攻科修了生達成度評価

高知工業高等専門学校（高知高専）の本科卒業生と専攻科修了生に対して高知高専が実施するアンケート調査です。卒業・修了を間近にした皆さんは、高知高専の教育目標をすべて達成したことと思います。このアンケートは皆さんの達成状況を確認するためのものですので、謙遜等することなく素直に現在の状況に基づいて回答して下さい。

この結果は高知高専の教育評価および概要の外部公開（学会発表等含）にのみ使用し、その他の目的には使用いたしません。アンケートに回答いただいた方の個人情報は、厳正に取り扱いません。

このフォームを送信すると、メールアドレス XXXXXXXXXX が記録されます。XXXXXXXXXX さんではない場合は、[ログアウト](#)してください。

1. 高知高専を卒業・修了する学科・専攻を教えてください

1 つだけマークしてください。

- 本科：機械工学科卒業 質問 2 に進んでください。
- 本科：電気情報工学科卒業 質問 16 に進んでください。
- 本科：物質工学科卒業 質問 30 に進んでください。
- 本科：環境都市デザイン工学科卒業 質問 44 に進んでください。
- 専攻科：機械・電気工学専攻修了 質問 58 に進んでください。
- 専攻科：物質工学専攻修了 質問 72 に進んでください。
- 専攻科：建設工学専攻修了 質問 86 に進んでください。

このフォームの記入を止めてください。

高知高専機械工学科の教育目標

下記 A から F の 6 つの学習・教育目標のもと、地域や世界で活躍できる実践的で研究能力を備えた技術者の育成を目指しています。各学習・教育目標の達成状況をお答えください。

2. A. 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者（語学以外の文系科目で学習）

1 つだけマークしてください。

- 十分に達成した
- 達成した
- 達成できなかった
- その他: _____

3. Aが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

4. B. 早期一貫教育による数学・自然科学や機械工学に関する専門的な知識・技術（数学系科目、物理系科目や創造設計基礎などで学習）

1 つだけマークしてください。

- 十分に達成した
- 達成した
- 達成できなかった
- その他: _____

5. Bが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

6. C. 実験・実習を重視して培われた実践的技術（製図系科目、実験科目や工作実習などで学習）

1 つだけマークしてください。

- 十分に達成した
- 達成した
- 達成できなかった
- その他: _____

7. Cが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

8. D. 環境、福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー、制御・情報、設計を含む知識・技術（熱機関、エネルギー環境学論、機械デザインやメカトロニクスなどで学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した
 達成した
 達成できなかった
 その他: _____

9. Dが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

10. E. 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力（国語系、英語系科目などで学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した
 達成した
 達成できなかった
 その他: _____

11. Eが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

12. F. 豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力（創造設計演習、卒業研究などで学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した
 達成した
 達成できなかった
 その他: _____

13. Fが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

14. 卒業要件（167単位以上取得、GPA、人文系・理数系の取得単位数など）を理解していましたか

1つだけマークしてください。

- 十分に理解していた
 理解していた
 まったく理解していなかった

15. 高知高専に対するご意見・ご要望などがありましたら、ご記入ください

ご協力ありがとうございました。

このフォームの記入を止めてください。

高知高専電気情報工学科の教育目標

下記AからFの6つの学習・教育目標のもと、地域や世界で活躍できる実践的で研究能力を備えた技術者の育成を目指しています。各学習・教育目標の達成状況をお答えください。

16. A. 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者（語学以外の文系科目で学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した
 達成した
 達成できなかった
 その他: _____

~~~~~ (略) ~~~~~

56. 卒業要件（167単位以上取得、GPA、人文系・理数系の取得単位数など）を理解していましたか

1つだけマークしてください。

- 十分に理解していた  
 理解していた  
 まったく理解していなかった

57. 高知高専に対するご意見・ご要望などがありましたら、ご記入ください

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

**ご協力ありがとうございました。**

このフォームの記入を止めてください。

### 高知高専機械・電気専攻の教育目標

下記AからFの6つの学習・教育目標のもと、地域や世界で活躍できる実践的で研究能力を備えた技術者の育成を目指しています。各学習・教育目標の達成状況をお答えください。

58. A. 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者（技術者倫理や地域産業経済論などで学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した  
 達成した  
 達成できなかった  
 その他: \_\_\_\_\_

59. Aが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

60. B. 早期一貫教育による数学・自然科学や機械工学または電気工学に関する専門的な知識・技術（数学系科目、物理系科目で学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した  
 達成した  
 達成できなかった  
 その他: \_\_\_\_\_

61. Bが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

62. C. 実験・実習を重視して培われた実践的技術（特別実験などで学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した  
 達成した  
 達成しなかった  
 その他: \_\_\_\_\_

63. Cが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

64. D. 環境、福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー、制御・情報、設計を含む機械・電気を融合した知識・技術（エネルギー変換工学、ロボット工学や生産工学特論などで学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した  
 達成した  
 達成できなかった  
 その他: \_\_\_\_\_

65. Dが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

66. E. 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力（英語や特別研究で学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した
- 達成した
- 達成できなかった
- その他: \_\_\_\_\_

67. Eが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

68. F. 豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力（特別研究などで学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した
- 達成した
- 達成できなかった
- その他: \_\_\_\_\_

69. Fが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

70. 専攻科修了要件は、必修の単位数（ME専攻：34単位）、必修選択12単位以上を含む62単位以上の修得です。このことを理解していましたか。

1つだけマークしてください。

- 十分に理解していた
- 理解していた
- まったく理解していなかった

71. 高知高専に対するご意見・ご要望などがありましたら、ご記入ください

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。

このフォームの記入を止めてください。

### 高知高専物質工学専攻の教育目標

下記AからFの6つの学習・教育目標のもと、地域や世界で活躍できる実践的で研究能力を備えた技術者の育成を目指しています。各学習・教育目標の達成状況をお答えください。

72. A. 人間生活と自然環境との調和の重要性を理解し、社会に対して責任をもつことのできる風格高い人間・技術者（技術者倫理や地域産業経済論で学習）

1つだけマークしてください。

- 十分に達成した
- 達成した
- 達成できなかった
- その他: \_\_\_\_\_

73. Aが達成できなかった、もしくはその他と答えた方は理由などを記述して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「本科卒業生・専攻科修了生達成度評価より抜粋」

「卒業生・修了生・求人企業を対象に実施されたアンケートの実施状況等がわかる資料」

平成 28 年度

卒業生・修了生・企業アンケート報告書

平成 29 年度 アクディブラーニング教育センター

2017 年 6 月 10 日

— 目 次 —

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. アンケートの方法・回収 | 1 |
| 2.1 アンケートの概要 | 1 |
| 2.2 Web アンケートのページ構成 | 3 |
| 3. 本科卒業生・専攻科修了生へのアンケート | 4 |
| 3.1 本科卒業生への質問 | 4 |
| 3.2 本科卒業生からの回答 | 5 |
| 3.3 専攻科修了生への質問 | 8 |
| 3.4 専攻科修了生からの回答 | 10 |
| 4. 求人企業へのアンケート | 11 |
| 4.1 本科卒業生および専攻科修了生の求人企業への質問 | 11 |
| 4.2 本科卒業生求人企業からの回答 | 13 |
| 4.3 専攻科修了生求人企業からの回答 | 20 |
| 4.4 JABEE 認定についての回答 | 27 |
| 5. まとめと意見 | 27 |
| 5.1 まとめ | 27 |
| 5.2 アンケートに対する意見 | 28 |
| 6. 付録 | 30 |
| 付録1 本科卒業生への専門学科ごとの質問内容 | 31 |
| 付録2 専攻科修了生への専攻ごとの質問内容 | 33 |
| 付録3 卒業生・修了生へのアンケート調査協力依頼文例 | 36 |
| 付録4 卒業生求人企業へのアンケート調査協力依頼文 | 37 |

1. はじめに

高知工業高等専門学校（以下本校）本科および専攻科の学習内容は、広く社会の要請に応え策定されている。卒業生や修了生は社会の要求に応える能力を有し、それにふさわしい処遇を得ることが望ましい。卒業生および彼らが所属する企業に対して本校の教育の成果および改善意見を伺うアンケート調査を実施し、その結果を本校の教育改善活動に活用している。平成 13 年度に一部の専門学科卒業生を対象として試行し、以後 3 年ごとに、全学的調査を行なってきた。平成 16, 19, 22 および 25 年度の計 4 回実施して卒業生・修了生が仕事で必要と感じ在学中にもっと学んでおけばよかったと思う内容と、企業が彼らに期待する能力が乖離していることが明らかとなった（平成 25 年度調査報告書参照）。また、アンケート送付数に対して、返送された回答の割合（以下回収率）は、下表に示すように高いものではなく、費用対効果の観点から改善が求められている。

| 調査年度 | H16 | H19 | H22 | H25 | 平均 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 卒業生・修了生 | 13% | 16% | 19% | 19% | 17% |
| 企業 | 39% | 31% | 39% | 36% | 36% |

この問題解消のため平成 28 年度調査では、次章で示す変更を加えて実施した。本報告では卒業生・修了生対象のアンケート結果と企業対象のアンケート結果を示し、学習・教育目標への評価や授業改善への課題などについて検討する。

2. アンケートの方法・回収

2.1. アンケートの概要

アンケートの対象者は、平成 22, 24, 26 年度の本科卒業生および専攻科修了生を対象とした。この中には、平成 22 年度に本科を卒業し専攻科に入学、平成 24 年度に専攻科修了など本科卒業生かつ専攻科修了生となる者が含まれるが、これはダブルカウントせず一人として人数計上する。

平成 28 年度の本科卒業生・専攻科修了生および企業に対するアンケート調査実施に際して、調査手法を以下の 2 点で変更した。

- 1) 卒業生・修了生に対する調査を従来の書面による調査から Web アンケートに変更。
- 2) 企業アンケートの対象を、従来の卒業生・修了生在籍企業のみから、求人要請企業に変更。

1) は回答返送コストの削減が主眼であるが、回収集計がアンケートシステムで直接行えるため集計労力削減効果と即応性が高い点でもメリットがある。Web アンケートには Google 社が提供する GoogleForms の機能を利用した。

2) は、平成 28 年度に本校が行なった企業合同説明会参加企業の人事担当者に手渡しすることでアンケート用紙を配布，回答は後日郵送とした。アンケート郵送コストを削減することが主眼であるが，参加企業 150 社の中には本校卒業生を採用したことがない企業もあり，これらの企業が本校卒業生に期待することを伺う初めての機会となった。各企業には，本科生に対する調査用紙と専攻科生に対する調査用紙の二通を配布したため，企業へのアンケート配布数はのべ数 300 となった。表 2-1 に調査対象数と回収率を示す。

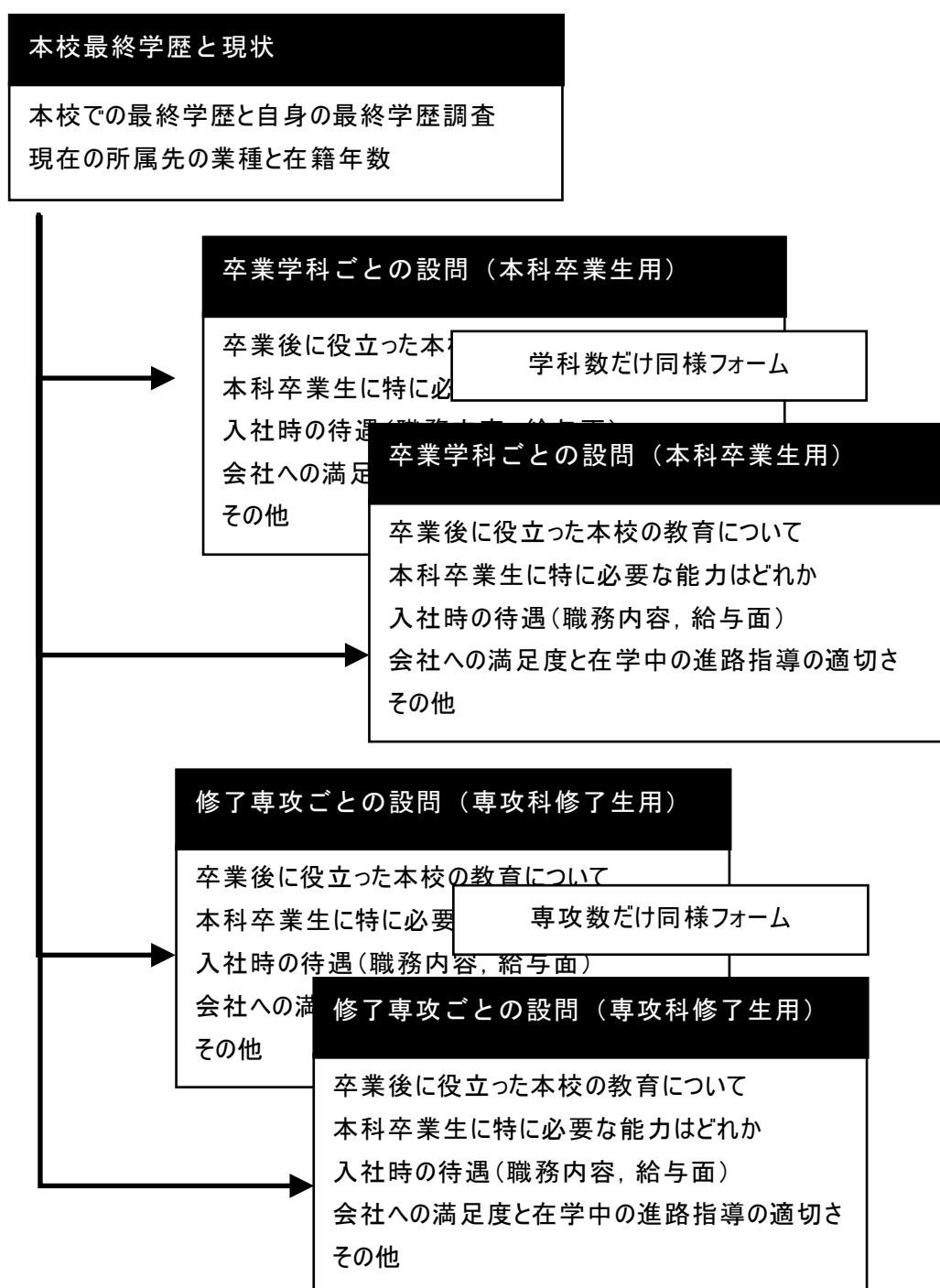
表 2-1 調査対象数と回収率

| 対象 | 送付・手渡し数 | 回収数 | 回収率 |
|--------|---------------|-----|------|
| 本科卒業生 | 414 | 35 | 8.5% |
| 専攻科修了生 | 22 | 4 | 18% |
| 以上合計 | 436 | 39 | 8.9% |
| 企業 | 300 (150 社×2) | 131 | 44% |

卒業生・修了生の回答返送費用と企業への調査用紙送付費用（150 社=150 通でカウント）が不要となり，郵送費用約 15,500 円が削減できた。企業からの回収数はのべ 131 通で回収率 44%，71 社から回答を得たため企業数ベースでは 47%と過去の調査を 20%程度上回る結果となった。一方，卒業生・修了生の回収率は従来の平均 17%を大きく下回る 8.9%となった。Web 系の詐欺犯罪が多発している現状への危険感が回答行動を抑制したこと，書面ベースに比べて Web ベースの回答負荷が軽いことが調査の重要度の印象を下げた可能性も考えられ，今後アンケート調査の周知方法も含めて再検討する余地がある。

2.2. Web アンケートのページ構成

Web フォームは以下のような構成とした。質問フォームを項目別に枠内に示したが、本校最終学歴と現状のフォームは全回答者に共通、本校最終学歴回答により卒業学科や修了専攻を特定して、学科や専攻個々のページに遷移する仕組みとした。以後の設問は、本科全学科で同一内容だが、科目名が異なるため別フォームとした。その他項目に回答すればそこで回答終了となる。専攻科についても同様である。すべてのフォームは直列接続の形式であり、全体で一つのアンケートフォームとなっている。



3. 本科卒業生・専攻科修了生へのアンケート

本章では、本科卒業生・専攻科修了生からの回答結果を示す。表 2-1 で示したように、専攻科修了生からの回答 4 件、本科卒業生からの回答 35 件しか得られていないため、専攻別や学科別の分析を行うのに適した標本数が得られていないため、統計分析や検定を行うことはできない。集計結果を示し、そこから見えることを述べる。

3.1. 本科卒業生への質問

本科卒業生への質問概要を以下に示す。学科ごとの科目名を含めた詳細は付録に掲載する。

【最終学歴と現状】

- 1) 現在の所属・勤務先の業種や就学状況をお答えください（学生の方は学校関係を選択下さい）
- 2) 勤務中の職種や就学状況をお答えください
- 3) 現在所属先勤務（在学）年数
- 4) 他大学等を含めた最終学歴をお答えください
- 5) 高知高専の最終卒業・修了年度
- 6) 高知高専での最終学歴を教えてください

以下は本科専門学科ごとの設問

【卒業後、入社後に役立った高知高専本科の教育について】

「役立った、やや役立った、普通、あまり役立たなかった、まったく役立たなかった」から択一回答

- 7) A. 社会との関わりの中での徳性豊かな風格高い人間・技術者の育成
前問で役立った、やや役立ったと回答された方は、具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 8) B. 基礎学力（一般教養・知識）（国語、英語は除く）
前問で役立った、やや役立ったと回答された方は、具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 9) C. 専門基礎学力の習得
前問で役立った、やや役立ったと回答された方は、具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 10) D. 実験・実習能力の修得
前問で役立った、やや役立ったと回答された方は、具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 11) E. 専門応用力の修得 専門学科ごとの具体的な科目名等は付録 1 参照
前問で役立った、やや役立ったと回答された方は、具体的な科目・分野名を回答して

下さい（複数選択可）

- 12) F. 基礎語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力（国語・英語を含む）

前問で役立った、やや役立ったと回答された方は、具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）

- 13) G. 創造力・指導力や問題解決能力の修得

前問で役立った、やや役立ったと回答された方は、具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）

【高専の本科卒業生に特に必要な能力はどれでしょうか】

「技術者倫理，基礎学力，専門基礎学力，実験・実習能力，専門応用力，語学力プレゼン能力，創造力・指導力」から複数選択回答。

【入社時の待遇と職場での現状，進路指導について】

「大学学部卒業程度，高専本科卒業程度，工業高校卒業程度，わからない」から択一回答

- 14) 入社時の職務内容について，その待遇はどうでしたか

- 15) 入社時の給与面での待遇はどうでしたか

「満足，やや満足，普通，やや不満足，不満足」から択一回答

- 16) 現在の会社（職場）に満足していますか

「ある，ない，不明」から択一回答

- 17) 将来，転職の意思がありますか

「適切，まあ適切，普通，やや不適切，不適切」から択一回答

- 18) 高知高専在学時の進路指導は適切でしたか

「入社後一年以内，入社後三年以内，離職せず在職中」から択一回答

- 19) 本科卒業後に入社した会社（職場）から離職しましたか

【その他】

自由記述で回答

- 20) 現在お持ちの資格について具体的にご記入ください。

- 21) 高知高専に対するご意見・ご要望などがありましたら，ご記入ください

3.2. 本科卒業生からの回答

本校での最終学歴が本科卒業である者からの回答は 35 名（機械 8 名，電気情報 17 名，物質 4 名，環境都市デザイン 6 名）である。学科ごとに回答人数に偏りがあること，最大数の電気情報工学科卒業生でも 17 名にとどまることから，学科ごとの集計・分析は適切ではない。そのため，ここでは全学科に共通する本校の学習・教育目標への評価，入社後

の待遇，進路指導に焦点を絞って検討する。役に立った科目など詳細は付録に記載する。

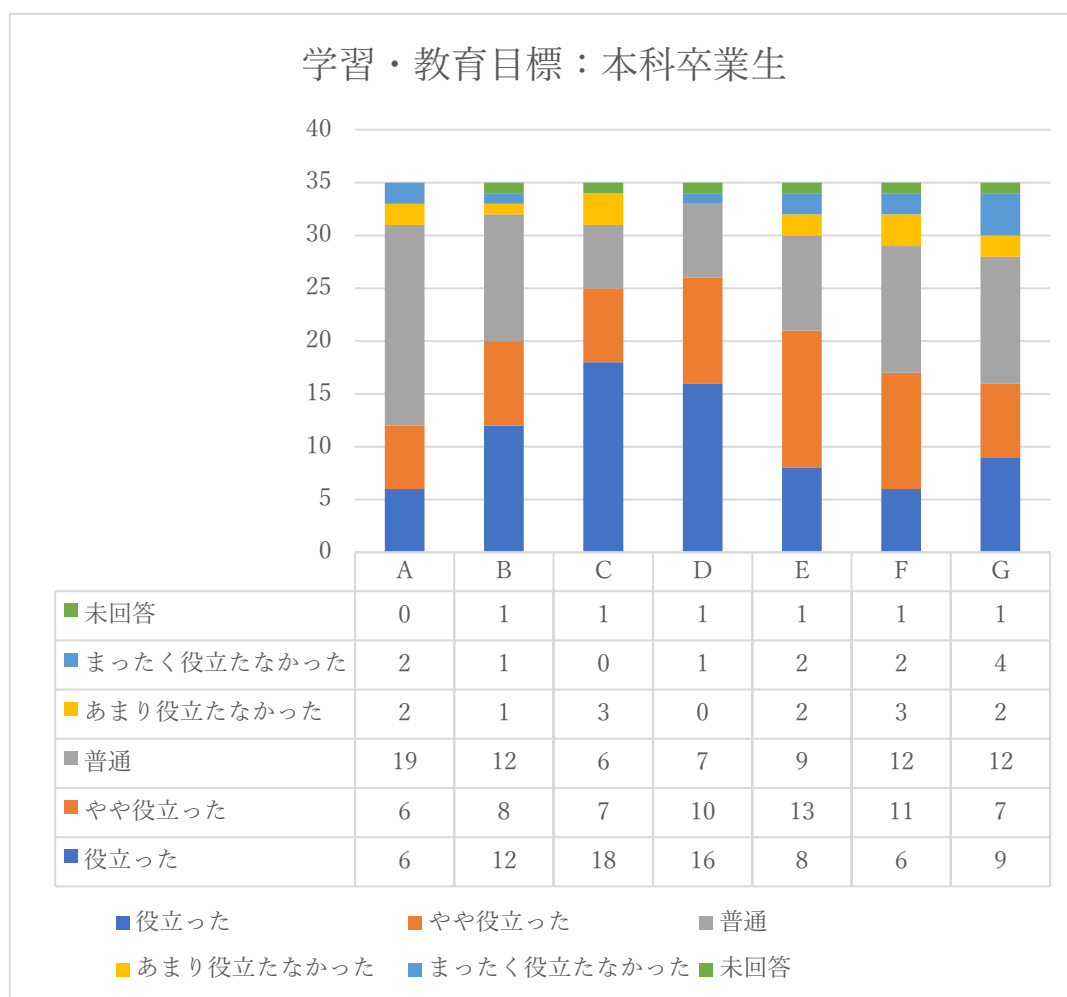


図 3-1 学習・教育目標の役立ち具合：本科卒業生

本科の学習・教育目標が現在の業務等に役立っている程度を答えた結果を図 3-1 に示す。「役立った」と「やや役立った」を合わせた肯定数が過半数だったのは、項目 B, C, D, E でそれぞれ基礎学力，専門基礎学力，実験実習能力，専門応用力の修得に関する項目である。肯定者数が過半数とならなかった A, F, G は，それぞれ人間・技術者の育成，基礎語学力・コミュニケーション能力・プレゼン能力，創造力・指導力や問題解決能力の習得に関する項目であった。技術者として日常的に使い業務に活用していると思われる B, C, D, E に比べて，A, F, G は，日常意識して活用する場が少ないことが，この結果につながっていると考えられる。逆に「まったく役立たなかった」と「あまり役立たなかった」を合わせた否定者数は最大でも 5 名（14%）に止まっていることから，本校の学習・教育目標による教育が実社会で活用できていることを示す結果となった。

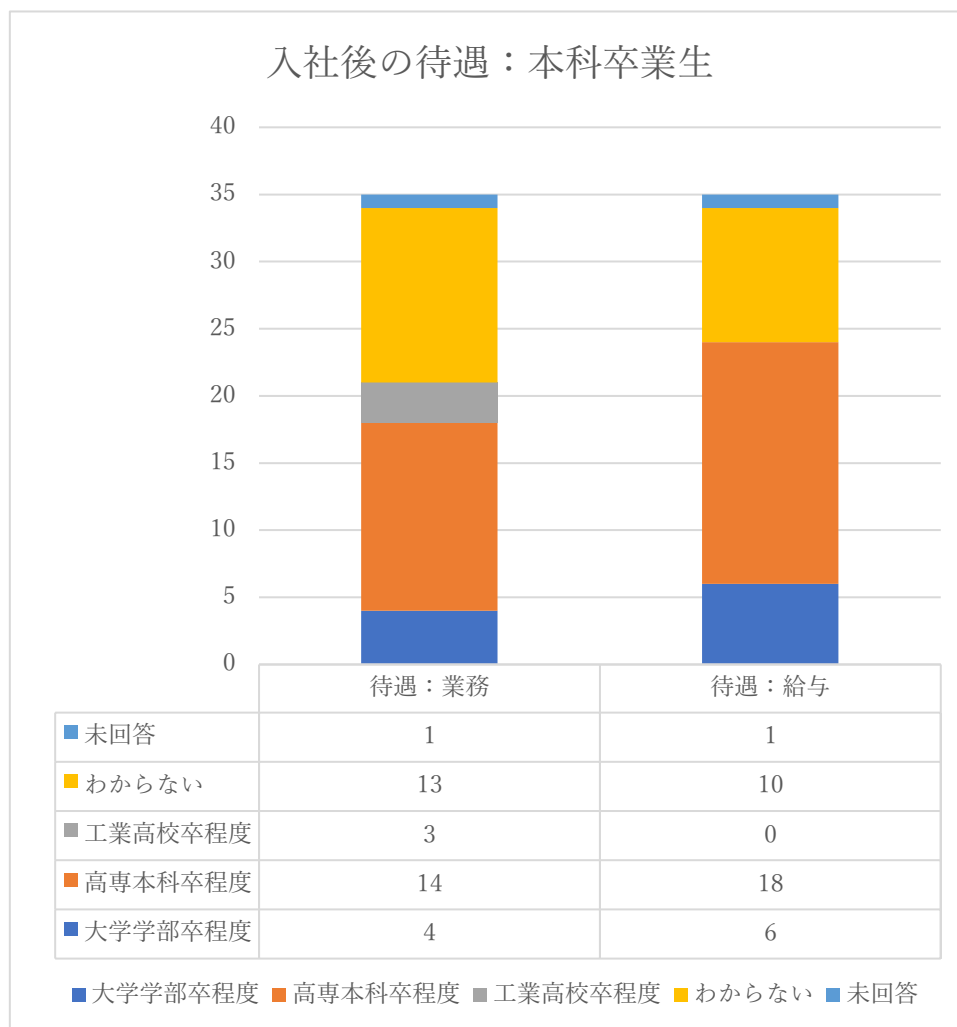


図 3-2 入社後の待遇：本科卒業生

本科卒業生が入社した初期の組織での待遇を図 3-2 に示す。業務、給与ともに「高専本科卒程度」が最多であるが、次に「わからない」とする回答が多い。わからないには、比較対象がないためわからない、他者の給与など人事情報がないためわからないなどが考えられるが、この他に、現在学生であり職を得ていないためわからない者 3 名が含まれている。「高専本科卒程度」と「大学学部卒程度」を合わせた数は過半数となっており、多くのものが相応の待遇を得ていると感じていることが分かった。

しかしながら業務待遇が工業高校卒業程度と回答したものが 3 名 (8.5%) いる。このうち 1 名は「将来転職の意思なし」と回答、別の 1 名は「転職の意思不明」で回答しているため、現状をある程度受け入れていることが窺える。残る 1 名は「転職の意思あり」、在学時の進路指導は「やや不適切」と回答していることから進路指導の方法含めて、今後検討する余地がある。

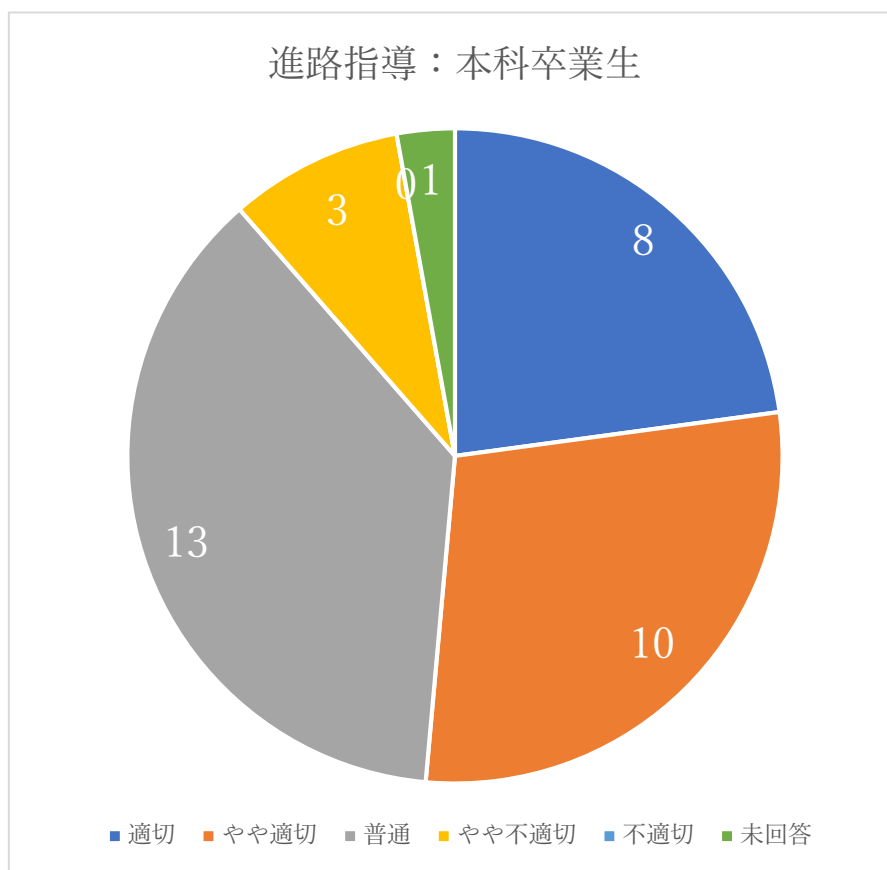


図 3-3 進路指導の適切さ：本科卒業生

進路指導の適切さに対する回答を図 3-3 に示す。「適切」と「やや適切」の肯定者は過半数であること、「やや不適切」の否定者が少ないことがわかる（不適切は 0）。「普通」と回答した者は、すべて最終学歴が本科卒業の者であり、自分が体験した就職に向けた進路指導が唯一の就業指導体験のため、普通のことと捉えていることが考えられる。現在大学院等に在学中の 3 名のうち 2 名は「適切」、1 名が「やや適切」と回答しており、進学者は回答者全員が肯定的な回答となった。

3.3. 専攻科修了生への質問

専攻科修了生への質問概要を以下に示す。専攻ごとの科目名を含めた詳細は付録に掲載する。

【最終学歴と現状】

- 1) 現在の所属・勤務先の業種や就学状況をお答えください（学生の方は学校関係を選択下さい）
- 2) 勤務中の職種や就学状況をお答えください
- 3) 現在所属先勤務（在学）年数
- 4) 他大学等を含めた最終学歴をお答えください

- 5) 高知高専の最終卒業・修了年度
- 6) 高知高専での最終学歴を教えてください

以下は専攻科専攻ごとの設問

【卒業後，入社後に役立った高知高専専攻科の教育について】

「役立った，やや役立った，普通，あまり役立たなかった，まったく役立たなかった」から択一回答

- 7) A. 社会との関わりの中での徳性豊かな風格高い人間・技術者の育成
前問で役立った，やや役立ったと回答された方は，具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 8) B. 基礎学力（一般教養・知識）（国語，英語は除く）
前問で役立った，やや役立ったと回答された方は，具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 9) C. 実験・実習能力の修得
前問で役立った，やや役立ったと回答された方は，具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 10) D. 専門応用力の修得 専門学科ごとの具体的な科目名等は付録2参照
前問で役立った，やや役立ったと回答された方は，具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 11) E. 基礎語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力（国語・英語を含む）
前問で役立った，やや役立ったと回答された方は，具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）
- 12) F. 創造力・指導力や問題解決能力の修得
前問で役立った，やや役立ったと回答された方は，具体的な科目・分野名を回答して下さい（複数選択可）

【高専の専攻科修了生に特に必要な能力はどれでしょうか】

「技術者倫理，基礎学力，専門基礎学力，実験・実習能力，専門応用力，語学力プレゼン能力，創造力・指導力」から複数選択回答。

【入社時の待遇と職場での現状，進路指導について】

「大学院修了程度，大学学部卒業程度，高専本科卒業程度，わからない」から択一回答

- 13) 入社時の職務内容について，その待遇はどうでしたか
- 14) 入社時の給与面での待遇はどうでしたか
「満足，やや満足，普通，やや不満足，不満足」から択一回答
- 15) 現在の会社（職場）に満足していますか
「ある，ない，不明」から択一回答
- 16) 将来，転職の意思がありますか

- 「入社後一年以内，入社後三年以内，離職せず在職中」から択一回答
- 17) 本科卒業後に入社した会社（職場）から離職しましたか
「適切，まあ適切，普通，やや不適切，不適切」から択一回答
- 18) 高知高専在学時の進路指導は適切でしたか
「技術補申請などに活用した，給与的な待遇面で優遇された，職種的な待遇面で優遇された，特にメリットはない，JABEE 認定についてよく理解していない」から択一回答
- 19) JABEE 修了認定はあなたにとってメリットがありますか

【その他】

自由記述で回答

- 20) 現在お持ちの資格について具体的にご記入ください。
- 21) 高知高専に対するご意見・ご要望などがありましたら，ご記入ください

3.4. 専攻科修了生からの回答

4名の回答と極少であるが，検討を加える。学習・教育目標に対する回答を図 3-4 に示す。専門の基礎学習が主体の本科に比べ，専攻科では応用が主体となるため本科の学習・教育目標C専門基礎学力の習得が，専攻科の目標からなくなり，以後 D が C へと繰り上がるため学習・教育目標の記号が異なる。項目 B, C, D, F について肯定的な回答が過半数となり，それ以外の項目も最低でも「普通」とする回答であり，否定的な回答は無かった。

特に本科と異なる部分は本科の学習・教育目標 G に相当する専攻科の学習教育目標 F 創造力・指導力や問題解決能力の習得である。専攻科カリキュラムで F の育成に対応する科目は特別研究（全専攻必修）や建設工学演習（建設工学専攻のみ受講）である。役立つ科目として，全員が特別実験を，4名中3名が特別研究を挙げている。特別研究は一年次週4校時，二年次に週10校間の授業時間が確保されており，本科五年次の卒業研究の週6校時と比べ倍増していること，本科五年次から通算3年間の研究実施経験によって十分な力が育成できていることが窺える。

待遇に関しては，大学院在学中の1名（下表の回答者 A）を除いた有職者3名のうち2名が業務内容・給与面ともに「大学学部卒業程度」と回答しており，ふさわしい待遇を得ている。残り1名は，業務面で「わからない」，給与面で「高専本科卒業程度」と回答している。表 3-1 に待遇，現在の会社（職場）への満足度，専攻科在学中の進路指導への回答を抽出して示す。

表 3-1 専攻科修了生の待遇，職場満足度，進路指導満足度

| | 待遇：業務面 | 待遇：給与面 | 職場満足度 | 進路指導 |
|-----------|--------|--------|-------|-------|
| 回答者 A(学生) | わからない | わからない | 満足 | やや適切 |
| 回答者 B | 大卒程度* | 大卒程度 | 満足 | やや不適切 |

| | | | | |
|-------|-------|---------|-------|-----|
| 回答者 C | 大卒程度 | 大卒程度 | やや不満足 | 普通 |
| 回答者 D | わからない | 高専本科卒程度 | 普通 | 不適切 |

大卒程度*：大学学部卒業程度

給与面で学歴にあわない高専本科卒程度の待遇と答えた回答者 D は進路指導で不適切だったと回答しており，進路指導の適切さを肯定する回答が過半数であった本科に比べると専攻科の進路指導に弱い点が存在する可能性が危惧される。

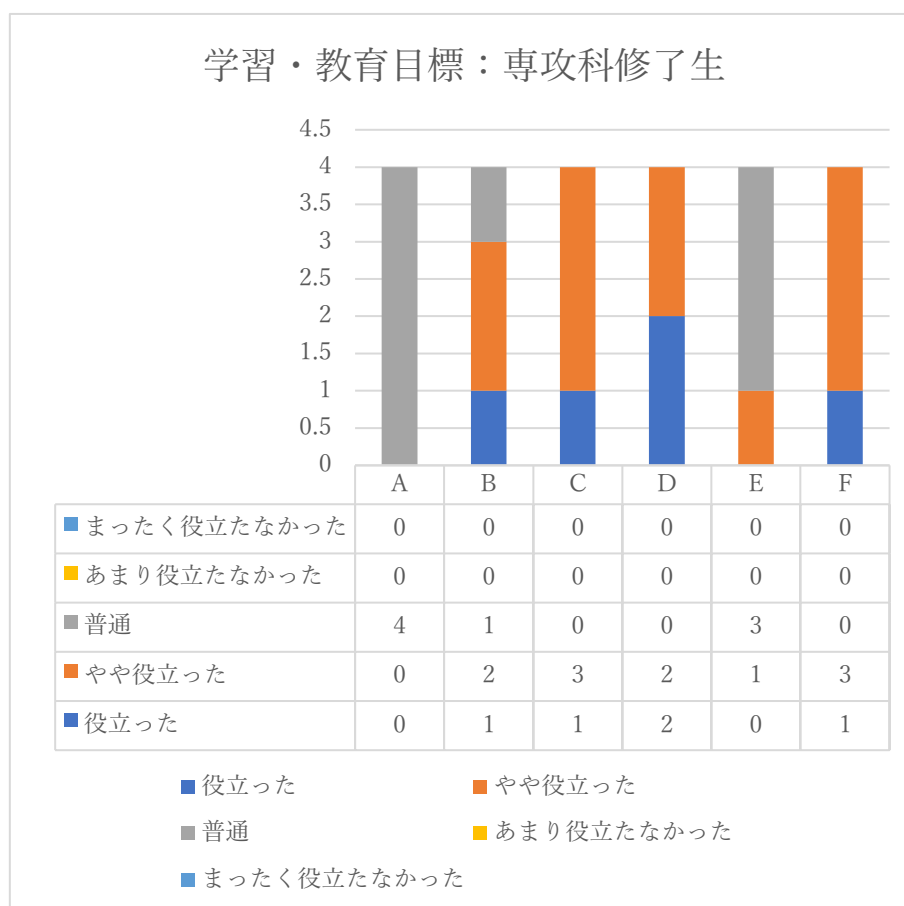


図 3-4 学習・教育目標の役立ち具合：専攻科修了生

4. 求人企業へのアンケート

4.1. 本科卒業生および専攻科修了生の求人企業への質問

ここでは質問項目の概要を示し，詳細は付録に掲載する。各項目で（本科卒業生のみ）（専攻科修了生のみ）と示したもの以外は，本科卒業生求人企業向け調査用紙と専攻科修了生求人企業向け調査用紙で共通としている。

【企業の業種と回答担当者について】

- 1) 貴社の業種をお答え下さい

2) 記入者の所属・部署名などをお答え下さい

【高知高専本科卒業生・専攻科修了生に求めるもの】

- 3) 高専本科卒業の社員に貴社が求める能力はどれでしょうか（複数回答可）
- 4) 高知高専の本科卒業生のレベルは、どれくらいとお考えでしょうか
- 5) 高知工業高等専門学校（本科）では、下記A～Gの7つの学習・教育目標のもと、地域や世界に活躍できる実践的で研究能力を具えた技術者の育成を目指しています。各学習・教育目標に対して、高知高専本科卒業生のレベルについて、お答えください。
（本科卒業生のみ）学習教育目標 A から G の各項目について「満足、やや不満足、普通、やや不足、不足、分からない」から択一回答
（専攻科修了生のみ）学習教育目標 A から F の各項目について「満足、やや不満足、普通、やや不足、不足、分からない」から択一回答
- 6) 高知高専本科卒業生（専攻科修了者）の在籍（複数回答可）
「現在採用内定者あり、在籍者あり、過去に在籍者あり、在籍歴なし」から回答。
- 7) 採用社員の出身学科（複数回答可）
- 8) （本科卒業生のみ）「機械工学科，電気情報工学科（電気工学科），物質工学科（工業化学科），環境都市デザイン工学科（建設システム，土木工学科）」から回答
（専攻科修了生のみ）「機械・電気工学専攻，物質工学専攻，建設工学科専攻」から回答
- 9) 貴社の社員である高知高専の本科卒業生の印象はいかがでしょうか
以下の各項目について「優秀，同等，劣る」から択一回答
A. 工業高校の卒業生と比べて，総合的に
B. 他高専の本科卒業生と比べて，総合的に
C. 大学の卒業生と比べて，総合的に
- また上記項目のそれぞれについて、（本科卒業生のみ）学習・教育目標の A から G，（専攻科修了生のみ）学習・教育目標の A から F について「優秀，同等，劣る」から択一回答
- 10) 高知高専卒業生の離職について
「1年以内，3年以内，在職」の各項目の人数で回答
- 11) 高知高専に対し，ご要望，ご意見などがありましたら，下記にご記入下さい

4.2. 本科卒業生求人企業からの回答

本科卒業生の求人企業 150 社に依頼し 71 社から回答を得た。図 4-1 に業種別回答数を示す。数が多い順に製造業，建設業，その他，サービス業となっているが，この傾向・割合とも過去の調査でも同様であった。回答者の所属部署について図 4-2 に示す。多い順に総務・人事，経営・社業全般となり，こちらについても過去の調査結果と同様である。回答企業の 3/4 程度は本科卒業生の在籍ありと回答している。このうち内定者ありにも回答した企業が 13 社ある為，合計回答数合計が，回答企業数を上回っている。この重複を除いた 71 社中で本科卒業生を受け入れたことがない企業は約 10%の 7 社のみであった。

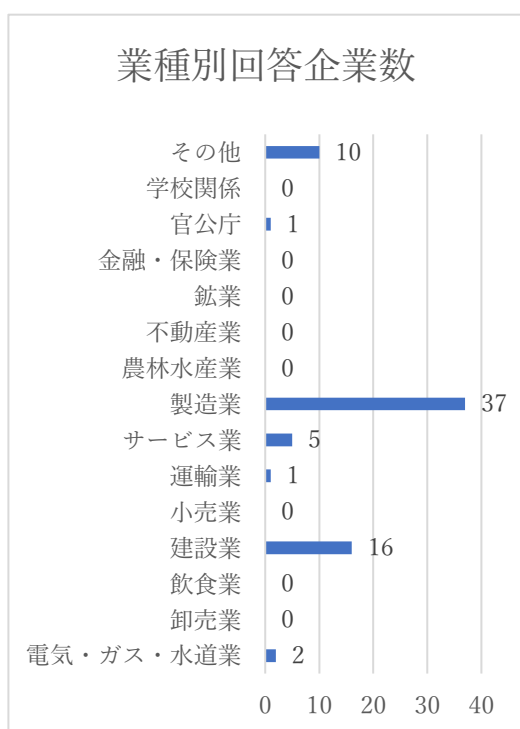


図 4-1 業種別回答数



図 4-2 回答者の所属部署

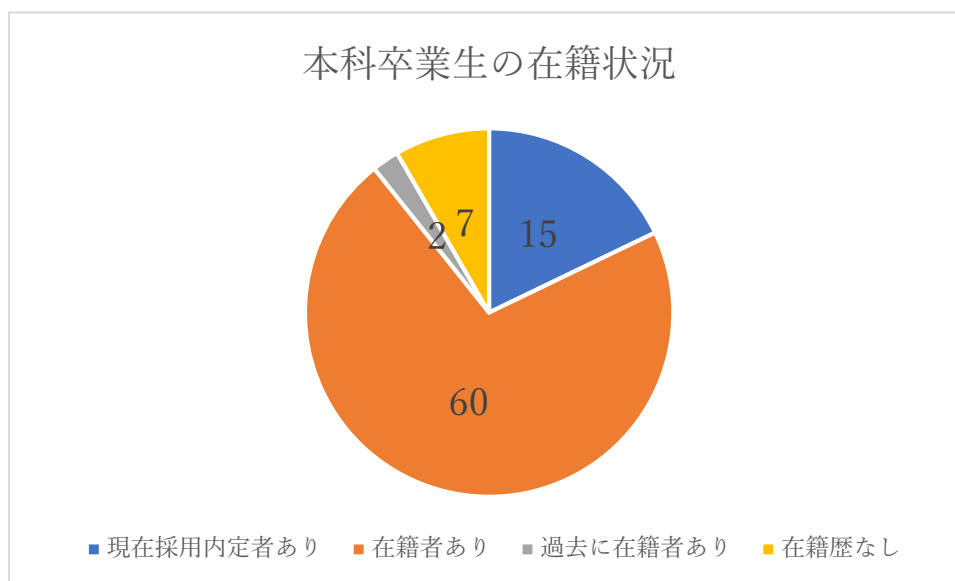


図 4-3 本科卒業生在籍状況

図 4-4 は、本校の学習・教育目標 A～G に関して、本科卒業生の資質について就職先企業が「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不足」および「不足」の 5 段階で評価した結果を示す。A から C までの項目は「満足」「やや不満足」とする肯定的回答が過半数、残りの D から G については、各項目共に「やや不足」「不足」の否定的回答に「わからない」を加えた数より肯定的回答数が上回る結果となった。卒業生の持つ資質については、「普通」以上の評価がこれまでと同様に 90%以上で高い評価を受けている。

学習・教育目標 A から G のすべてで「普通」以上の評価が大勢を占めている。しかしながら、A から D までの項目に対する評価に比べて、E 専門応用能力、F 語学力・プレゼン能力・、G 創造力・指導力等の評価が低い点は従来と同様な傾向であり、前回調査時から改善されていないことが窺える。しかしながら図 4-5 に示すように、これら企業が本科卒業生に対して求めている能力は C 専門基礎学力、B 基礎学力、D 実験実習能力、A 技術者倫理の順であり、本科卒業生のレベル評価とマッチしている。

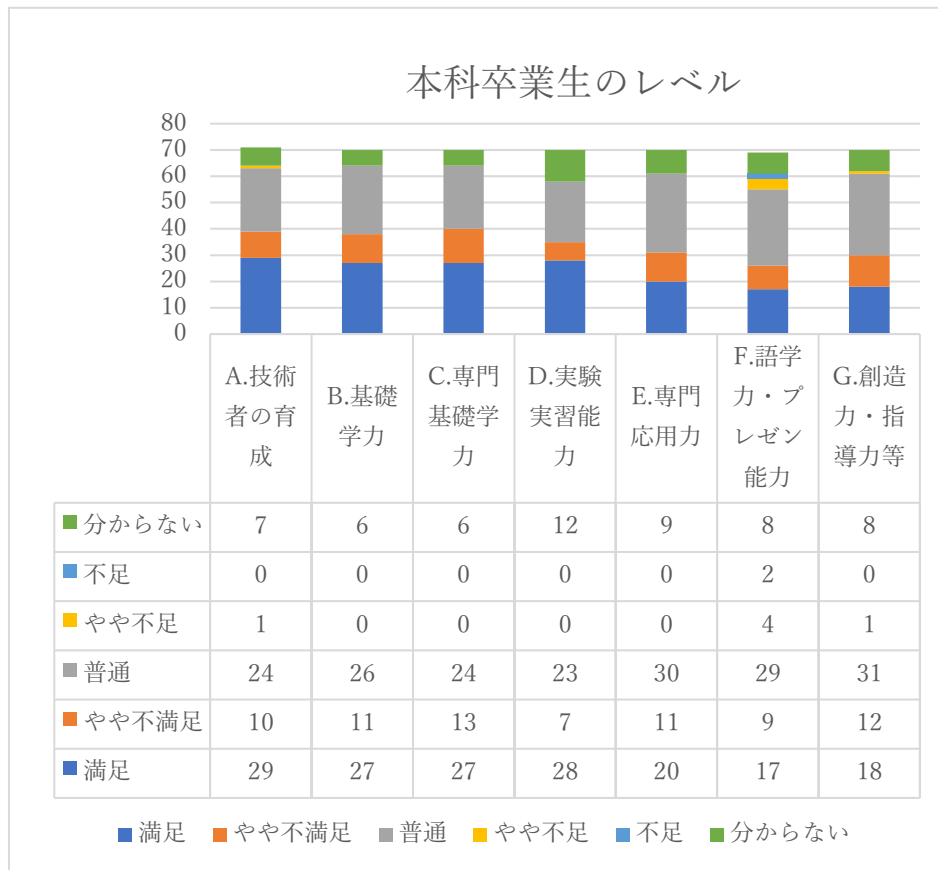


図 4-4 本科卒業生のレベル

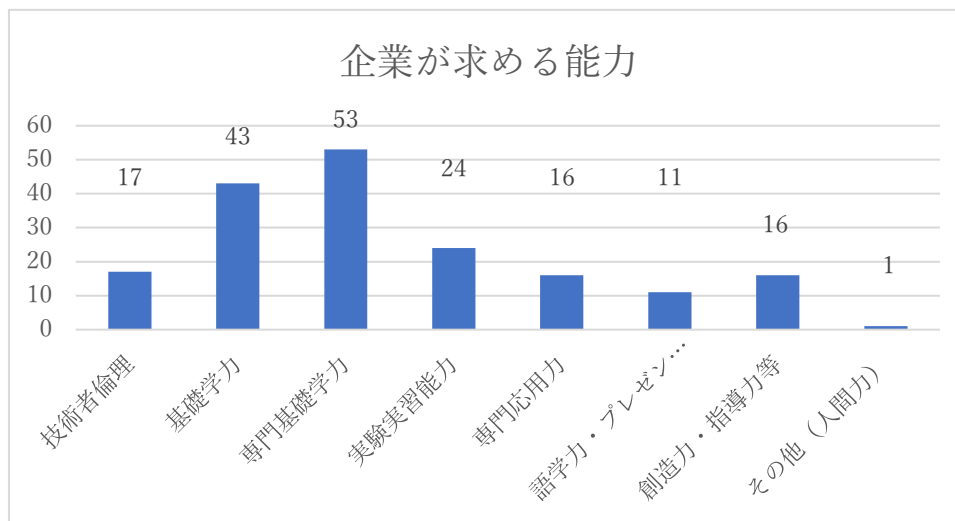
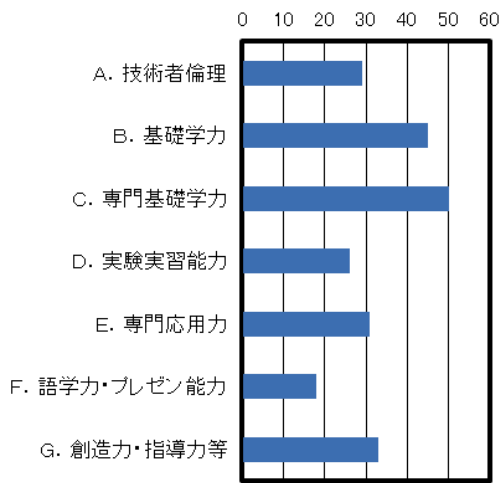
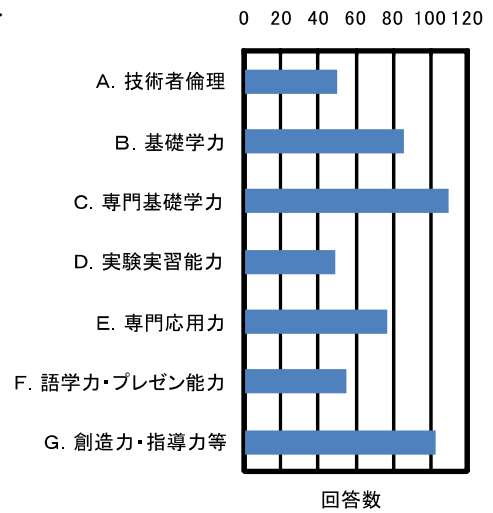


図 4-5 企業が求める能力：本科卒業生



3.1.



参考 本科卒業生に企業が求める能力 左は平成 25 年調査，右は平成 22 年度調査

卒業生に求める能力の上位は，専門基礎学力，基礎学力，実験実習能力，技術者倫理および専門応用力であり，これらは平成 25 年度と同様の傾向である。最も異なったのは，創造力・指導力への期待値が下がったことである。平成 22 年度以降，平成 25 年度，今回と創造力・指導力を求める割合が低下している傾向がある。学年人口の約半分が大学に進学している現在，高専本科卒業生に対するリーダーの役割は低下していると思われる。

語学・プレゼン能力については今回の調査では最も低く，企業からは語学・プレゼン能力よりも専門基礎学力，基礎学力への要望が高い。

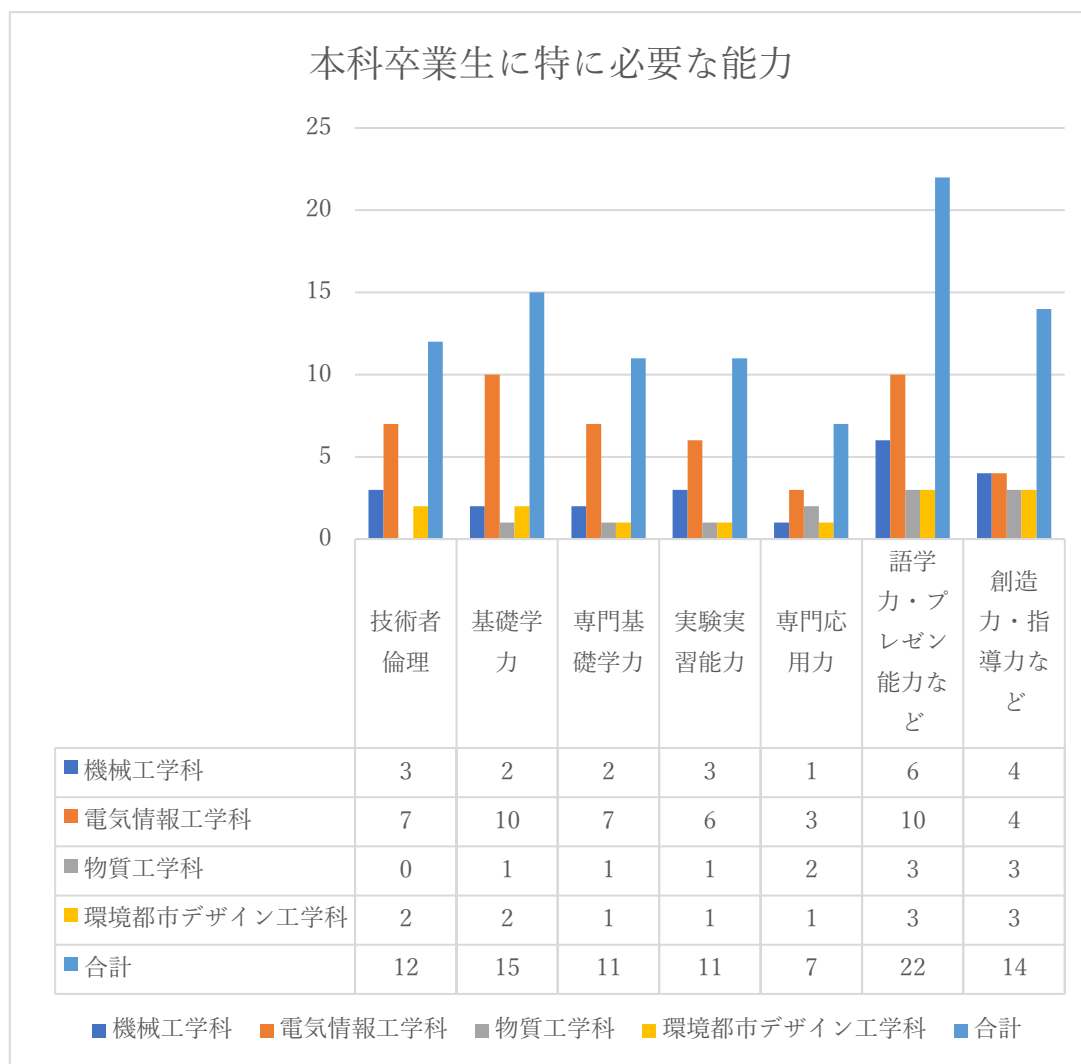


図 4-6 本科卒業生に特に必要な能力：本科卒業生からの回答

一方、本科卒業生から得た「本科卒業生に特に必要な能力」に関する回答を図 4-6 に示す。全学科合計の値に注目して企業が求める能力と比較すると、図 4-6 では「語学力・プレゼン能力など」「創造力・指導力など」に関して企業の回答割合を大きく超える結果となった。これは以前の調査でも同様で、自分が弱いと意識している部分が気になる心理的な要因に依るものと考えられる。

図 4-7, 図 4-8, 図 4-9 に企業が, 本科卒業生を工業高校卒業生, 他高専本科卒業生, 大学学部卒業生と比較した印象を示す。本科卒業生を工業高校卒業生と比較した印象への回答数は 52 社だが, うち 1 社は「高卒生の採用は構想していない」と理由を挙げた上で「総合的に」項目に「その他」と回答しており, 具体的に比較を回答した企業数は 51 社となった。「総合的に」では有効な 51 社のうち 45 社(88%)が「優秀」と評価しており, 劣るとの評価はなかった。個別にみると, 「語学力・プレゼン能力」「創造力・指導力等」については評価がやや低かった。このような全体的な傾向は過去の調査結果と同様である。

項目別にみると語学・プレゼン能力については今回の調査では最も低く, 企業からは語学・プレゼン能力よりも専門基礎学力, 基礎学力への要望が高い。本科卒業生からの回答では, 語学・プレゼン能力が必要とする回答が最も高く, 過去の調査同様に, 企業が求めるものと卒業生自身が必要と感じているものが乖離した状態が続いている。

工業高校卒業生と比べた企業の評価は, 全体としては「優秀」の評価が高い(90%)。個別の能力では基礎学力と専門基礎学力の評価が高く, 語学力・プレゼン能力および創造力・指導力においても優秀とする回答が過半数となった。

他高専本科卒業生との比較では, 全般的には「同等」以上の評価が高いが, 1 社から「劣る」の回答があった。「同等」が最多であるが, 「劣る」よりも「優秀」の回答の方が多い結果となった。大学学部卒業生との比較ではすべての項目で「同等」が最多となったが, 「総合的に」の項目では「優秀」が「劣る」を上回っている。一方, 「専門応用力」「語学力・プレゼン能力」「創造力・指導力等」では「劣る」が「優秀」とする回答より多くなった。この傾向は以前の調査と同様である。

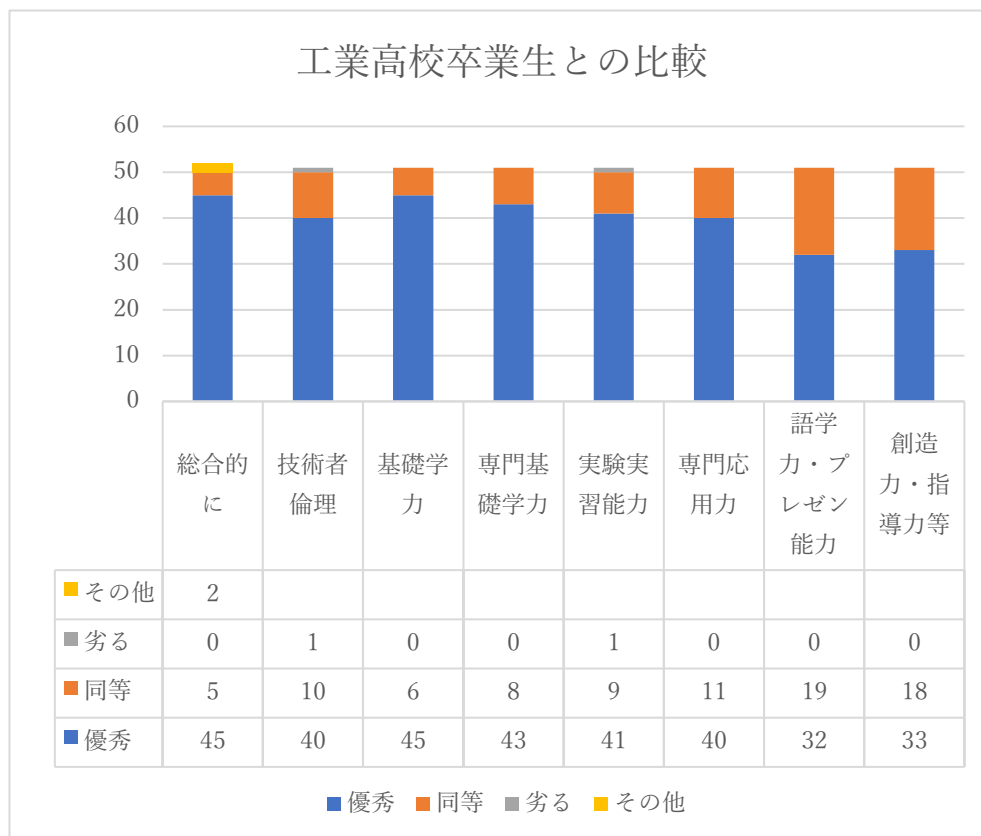


図 4-7 工業高校卒業生と比べた本科卒業生の印象

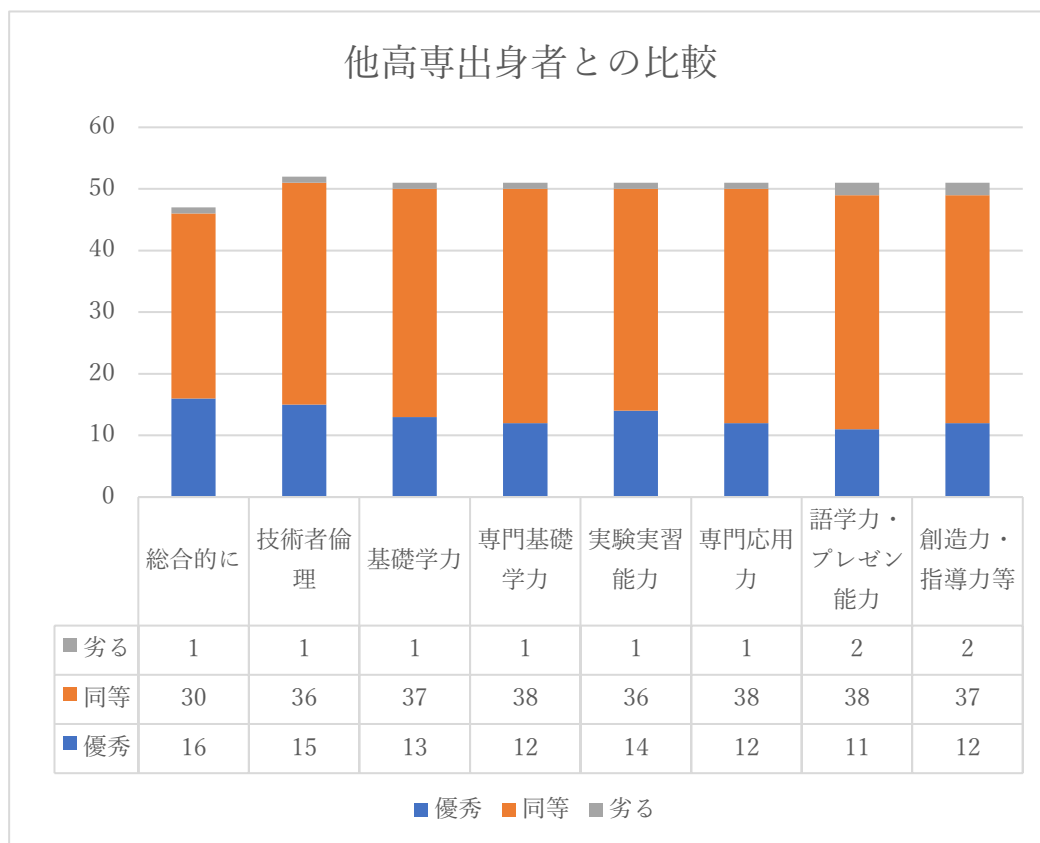


図 4-8 他高専卒業生と比べた本科卒業生の印象

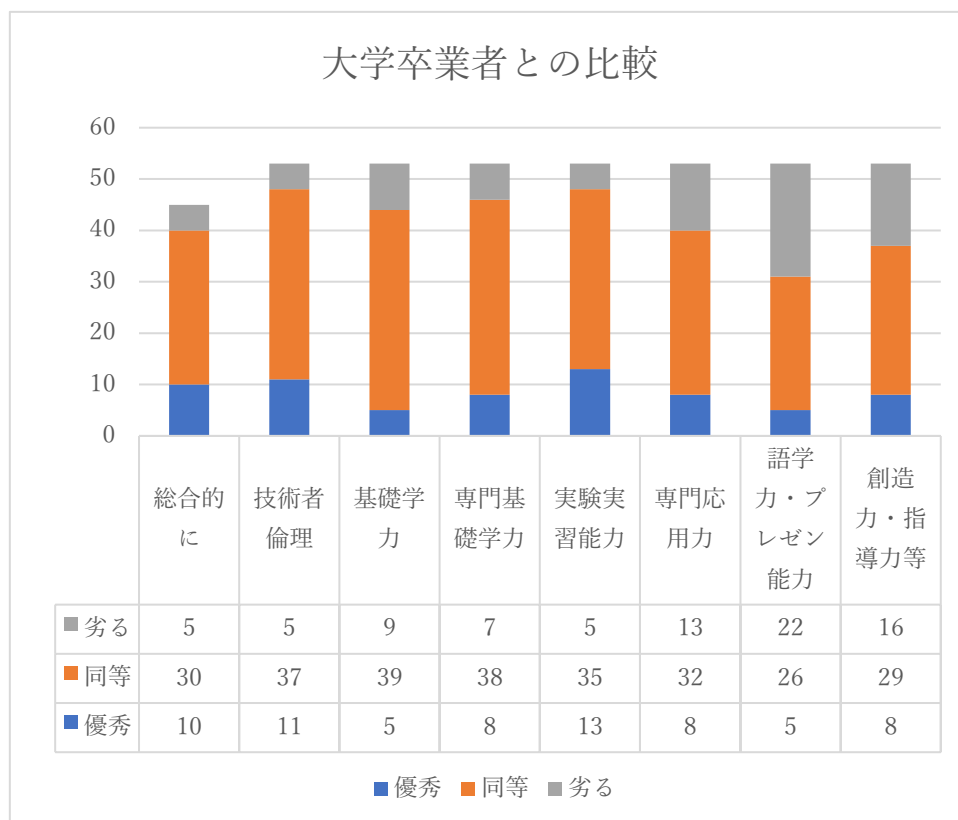


図 4-9 大学学部卒業生と比べた本科卒業生の印象

G.

B

H

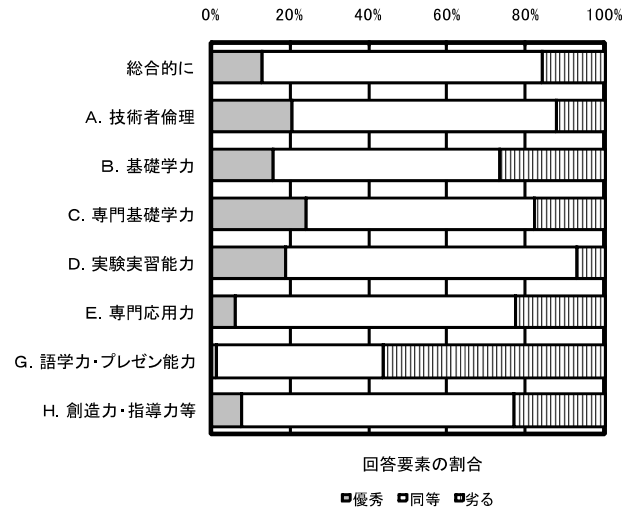
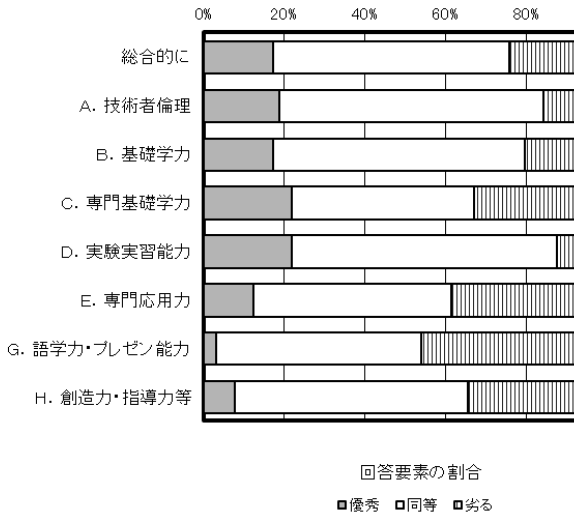
H 10%

H.

H 10%

H

3.1.7



参考 大学学部卒業生と比べた本科卒業生
度調査

22

しかしながら大学学部卒業生と比較した「語学力・プレゼン能力」への評価を過去調査と比較すると、平成 22 年度には大学学部生より劣るが過半数で、優秀と同等の合計が 40% 強でしかなかったが、平成 25 年度では優秀と同等の合計が過半数となり、今回はより多くの割合を示すこととなった。TOEIC IP 試験実施を含む英語教育の充実、授業中に発表する機会を増やすなどの取り組みが成果をあげていることが窺える。

図 4-10 に会社からの離職状況を示す。離職者は「1 年以内」が 7 名、「3 年以内」が 14 名で在職者が 367 名となった。この項目は前回の平成 25 年度調査から導入された項目で、平成 25 年度調査では入社後「1 年以内」7 名、「3 年以内」23 名、在職者 484 名であった。在職者に対する「1 年以内」の離職者の割合は、前回調査時より多くなっているが、在職者に比べて離職者数が少ないため 1 名の多寡の影響が大きく、有意な差で離職者が増・減していると判断できるものではない。

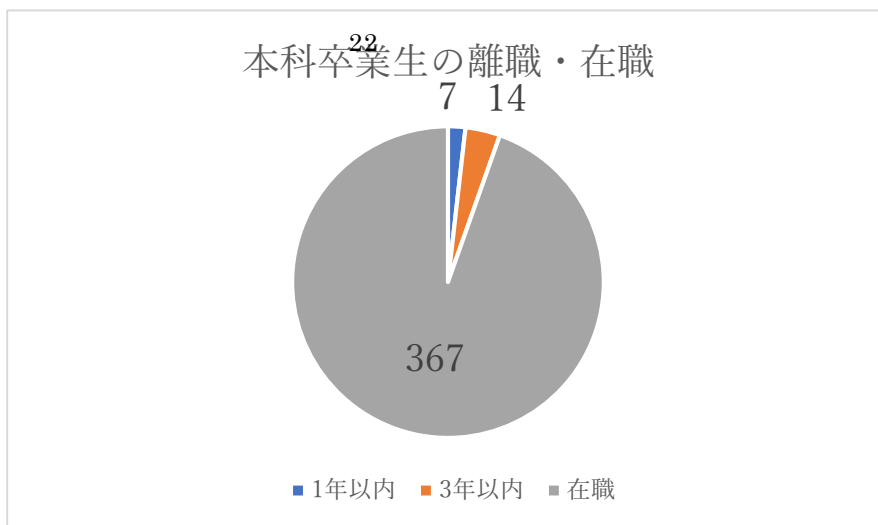


図 4-10 離職・在職状況：本科卒業生

4.3. 専攻科修了生求人企業からの回答

専攻科修了生への求人企業 46 社から回答を得た。図 4-11 に業種別回答数を示す。数が多い順に製造業，建設業，その他，サービス業となっているが，この傾向割合とも本科卒業生求人企業や過去の調査と同様である。回答者の所属部署について図 4-12 に示す。多い順に総務・人事，経営・社業全般となり，こちらも本科卒業生求人企業や過去の調査結果と同様である。無回答の企業もあったが図 4-13 に専攻科修了生の在籍状況を示す。今回回答した企業の過半数は専攻科修了生を受け入れたことが無い。回答企業数 46 社中，専攻科修了生が在籍していない企業からの回答は 26 社と 56%となった。企業から見た修了生の資質に関する問に 13 社から 15 社は，「分からない」と回答したが，在籍していない企業にもかかわらず「分からない」以外で回答した企業が 10 社余りあることになる。業界内での情報や他社との業務で本校専攻科修了生と接した印象などに基づいて回答していると思われる。

「分からない」を除いた回答を集計すると，専門基礎学力に対しては「満足」とする回答が最も多かったが，それ以外の学習・教育目標において普通とする回答が最多となった。満足度の低下がみられる。語学力・プレゼン能力および創造力・指導力の項目で「やや不足」とする回答があった。これは本科卒業生と異なる傾向であり，専攻科修了生には求めているものが異なっていることが窺える。

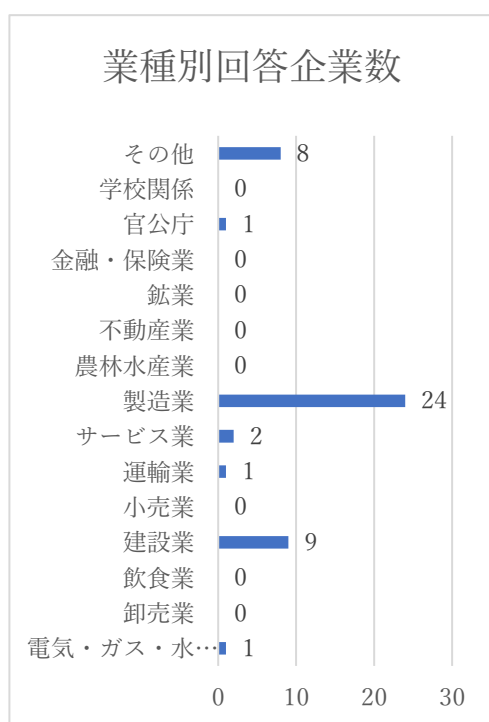


図 4-11 業種別回答企業数



図 4-12 回答者の所属部署

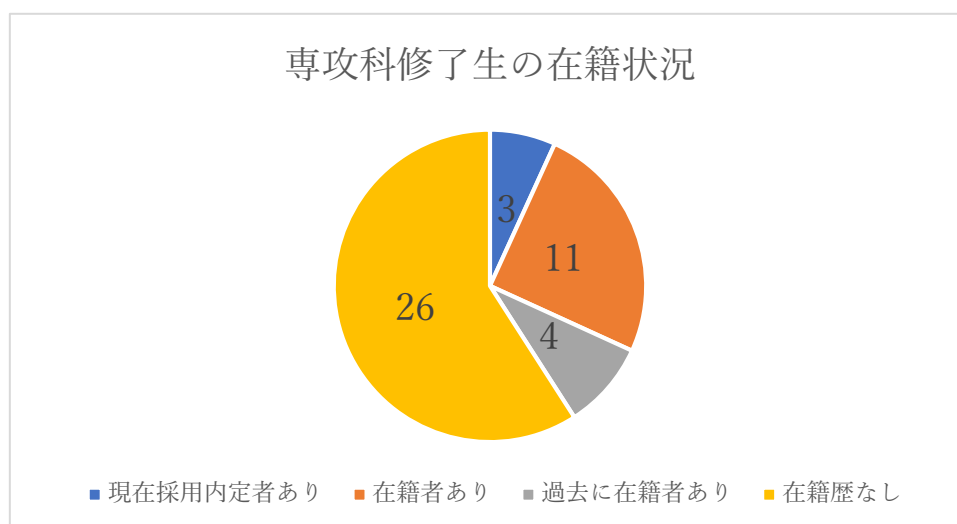


図 4-13 専攻科修了生の在籍状況

図 4-14 は、本校の学習・教育目標 A～F に関して、専攻科修了生の資質について就職先企業が「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不足」および「不足」の 5 段階で評価した結果を示す。回答企業の過半数は専攻科修了生を受け入れたことがないため「分からない」とする割合が高い。以下は「分からない」を除いて考察を行う。

学習・教育目標 A から F まで、すべての項目で最多は「普通」であるが、「満足」とする回答が 1/3 程度ある。学習・教育目標 A から D までに否定的な回答はないが、学習・教育目標 E, F については「やや不足」とする回答がある。「やや不足」より「満足」とする回答の方が多いことから、専攻科修了生の個々の能力の差や企業業務ごとの重要性の違いに由来していることが考えられる。専攻科修了生に対して企業が求めている能力は図 4-15 に示した。企業が求める能力は、専門基礎学力、専門応用力の割合が高く、実験実習能力、創造力・指導力が次に高い。その他の能力はほぼ同等であった。平成 22 年度、平成 25 年度の結果と比較すると順位は異なるが上位 2 つの項目は共通している。創造力・指導力に対する期待値は、年度進行に伴い低下しているが、本科卒業生に比べて創造力・指導力を求めている結果となった。他の項目に比べて語学力・プレゼン力に対する希求が低めとなっている。これを「企業があまり求めているから語学力・プレゼン力の教育に力を入れなくて良い」と放置するのは適切ではない。専攻科修了生からの「専攻科修了生が特に必要な能力」への回答（図 4-16）では、全員が「E 語学力・プレゼン能力」「F 創造力・指導力」の項目を重要視していることから、より高みを目指す教育上の工夫を実践することが期待されている。

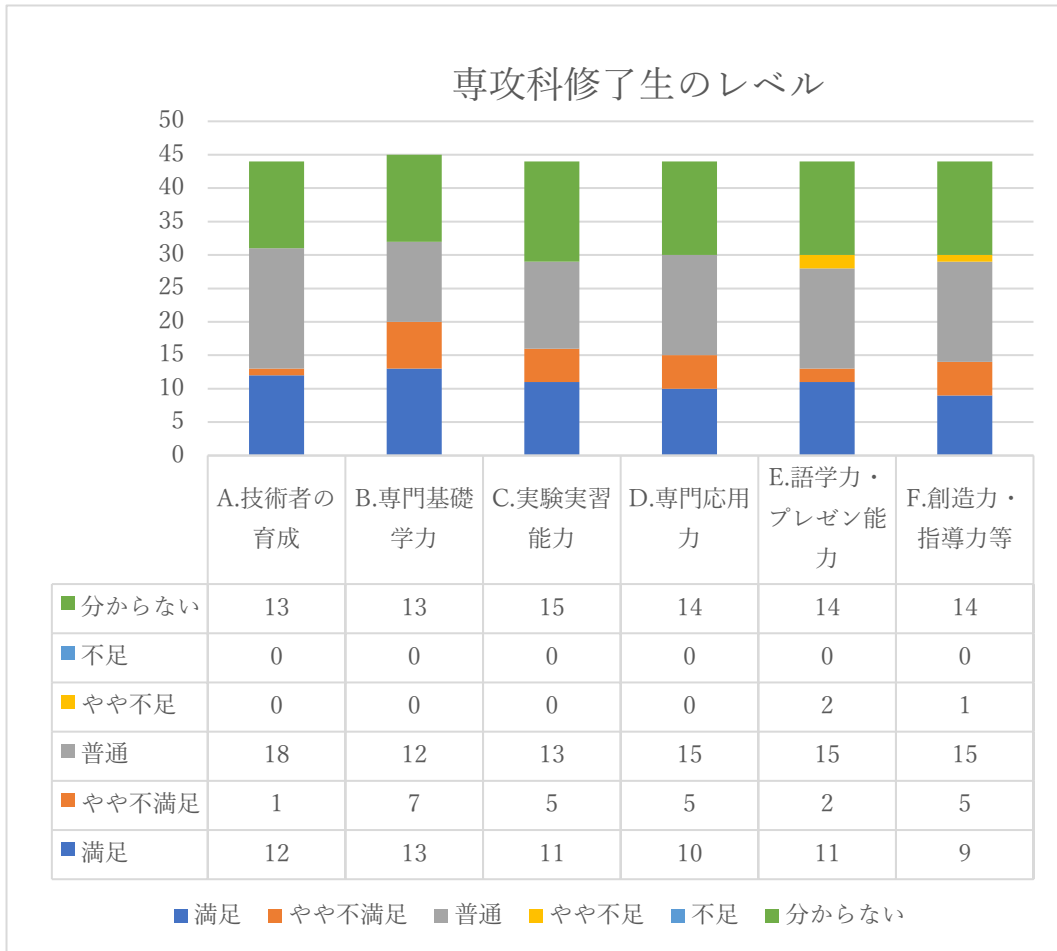


図 4-14 専攻科修士のレベル

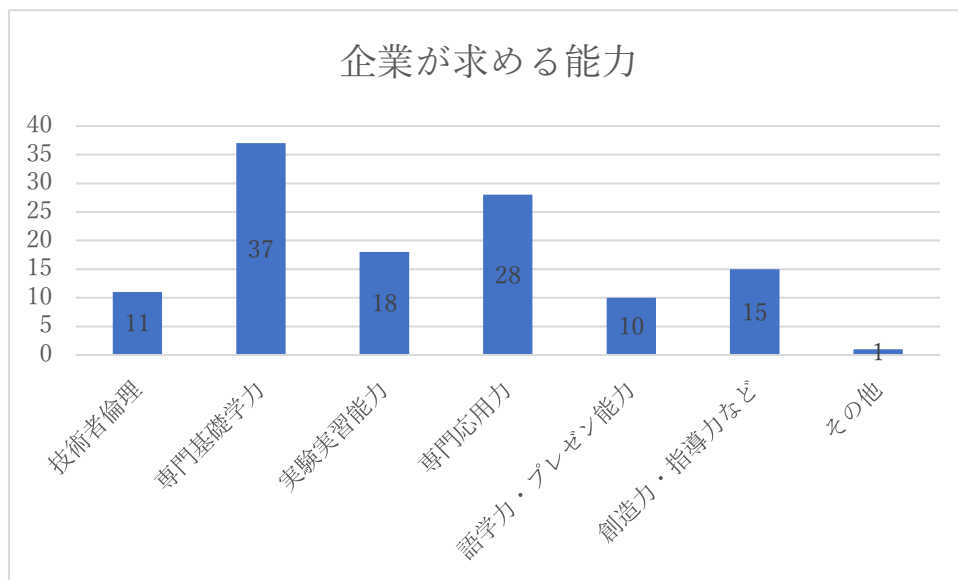
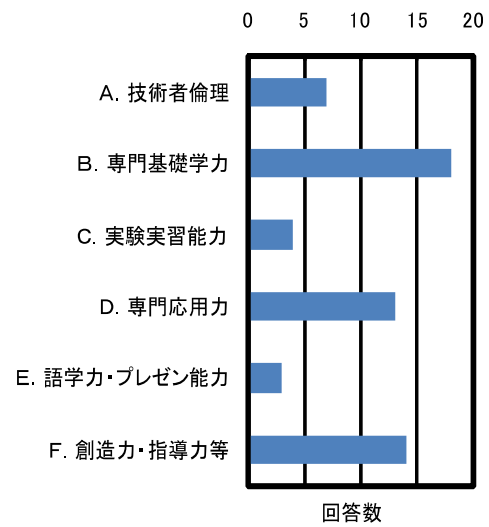
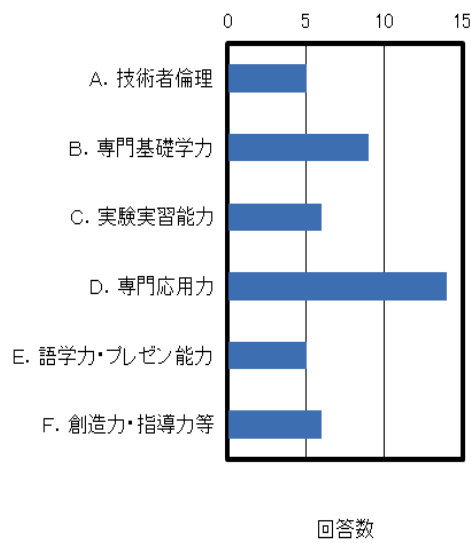


図 4-15 企業が求める能力：専攻科修士



参考 専攻科修了生に企業が求める能力 左は平成 25 年度調査，右は平成 22 年度調査

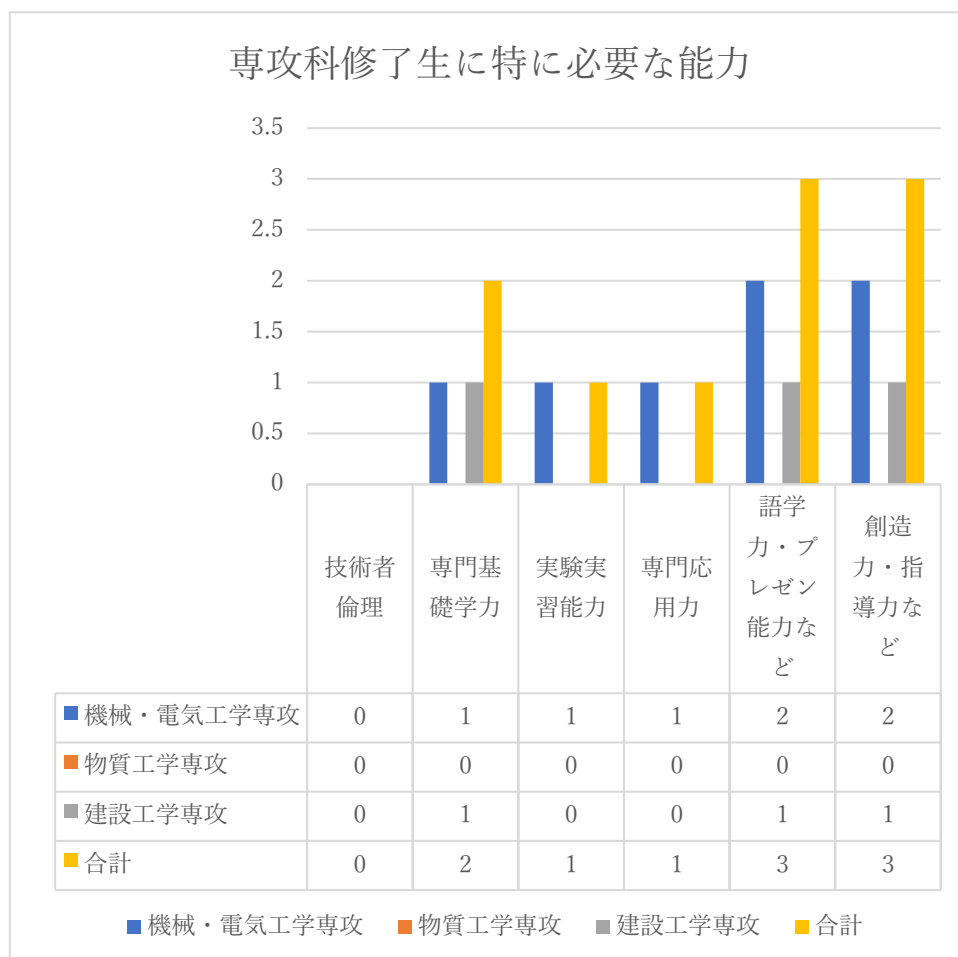


図 4-16 専攻科修了生に特に必要な能力：専攻科修了生からの回答

図 4-17, 図 4-18, 図 4-19 に企業が, 専攻科修了生を本科卒業生, 大学学部卒業生, 大学院修了生と比較した印象を示す。最大回答数は 18 社だが, 項目ごとに回答数が異なった。「総合的に」の項目にある「その他」2 件の内訳は「この質問には回答しかねる」「採用内定者 1 名のみのため比較できない」であった。この回答から回答数のばらつきは, 社内で具体的に比較できる場合には明確に回答し, そうでない場合には回答をしていない可能性が窺える。明確に回答されたものだけを考察することにする。

高専本科卒業生との比較では, 「同等」が最多であるが, 「優秀」とする回答が 30% から 50% を占める結果となった。特に「D 専門応用能力」では本科卒業生より優秀とする回答が同等を上回った。

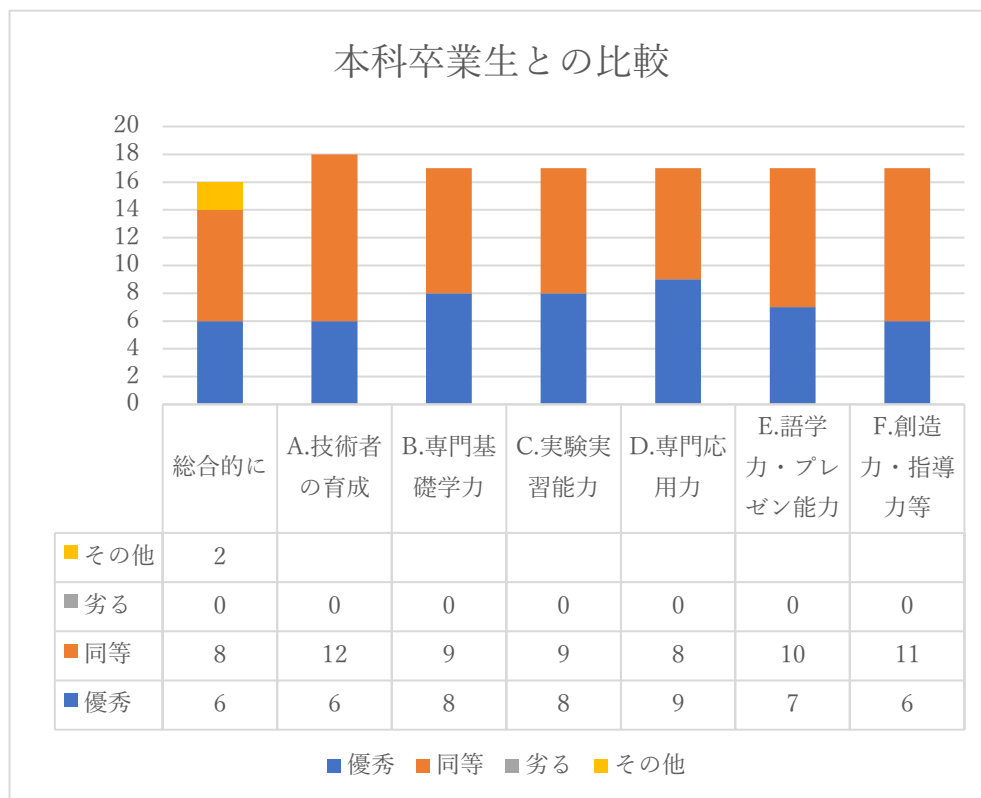


図 4-17 本科卒業生と比べた専攻科修了生の印象

一方, 大学学部卒業生との比較では, 専門知識に関連が強い学習・教育目標 A から D に関して, 「優秀」とする回答が 1/3 から 1/2 程度となった。これらの項目に「劣る」と回答したのは同一の 1 社のみで, 当該企業担当者が参照した本校専攻科修了生固有の特性である可能性が考えられる。学習・教育目標 E, F に関しては本科卒業生に関しても低めの評価となる傾向があったが, 専攻科修了生でも他の学習・教育目標と比べて相対的に低めの評価となっている。大学院修了生との比較では, 最多は「同等」とする回答であるが, 次いで「劣る」とする回答が多い。C 実験実習能力では, 「劣る」とする回答より「優秀」とする回答がわずかに上回ったことは好材料であり, この項目の能力を高めることが高専専攻科最大の特徴となることが期待できる。

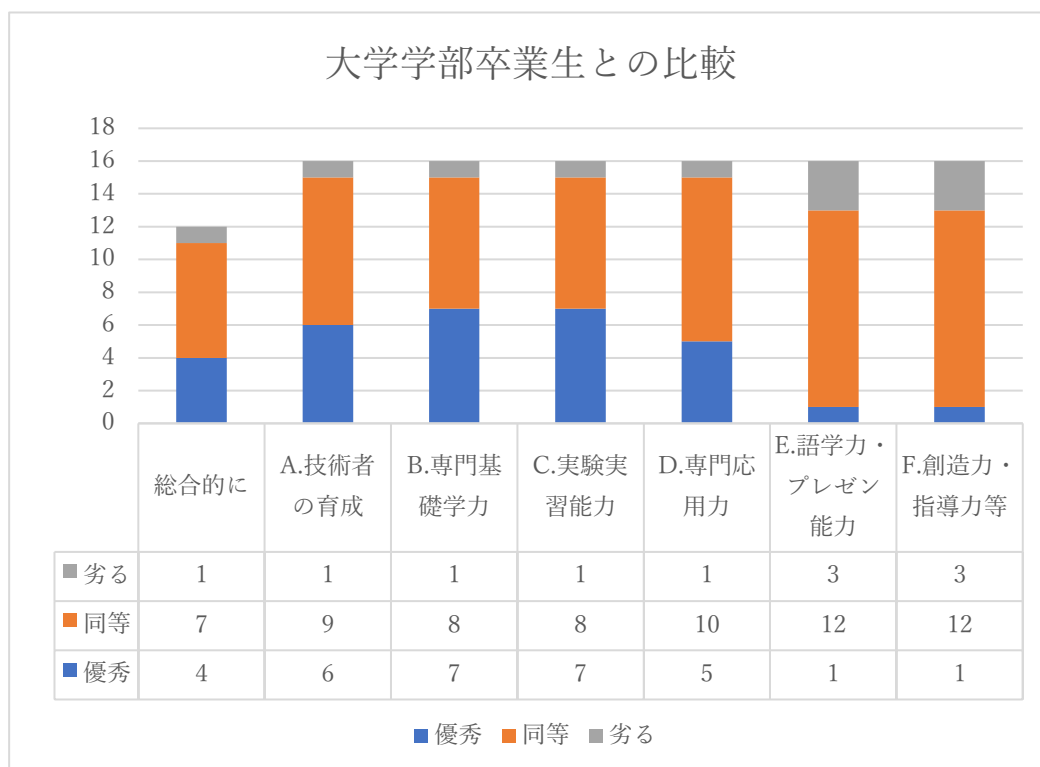


図 4-18 大学学部卒業生と比べた専攻科修了生の印象

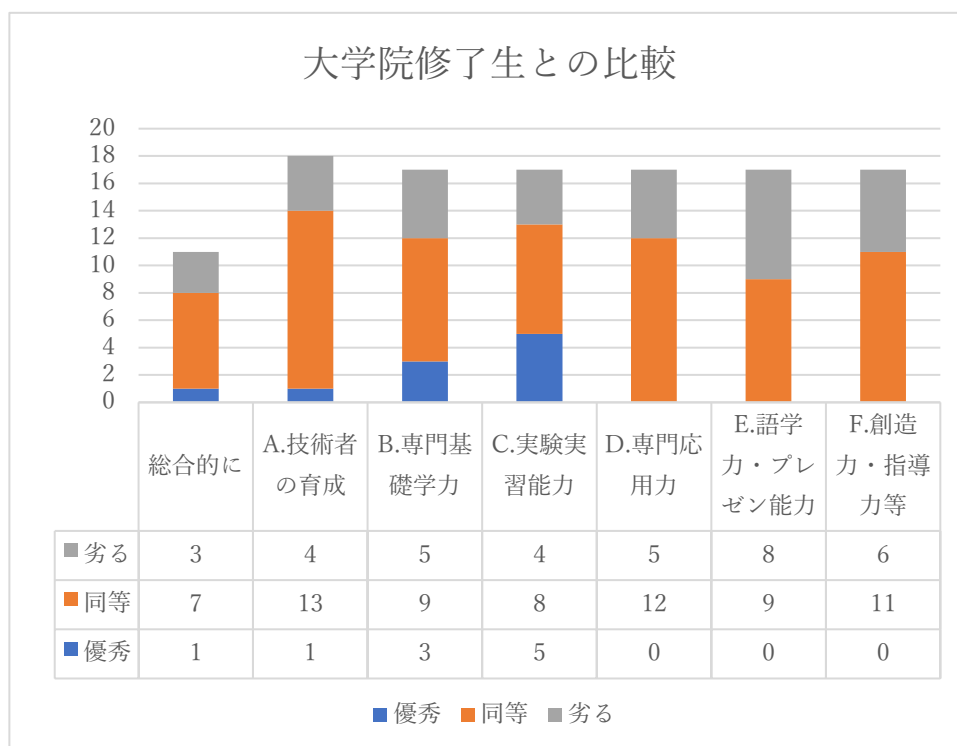


図 4-19 大学院修了生と比べた専攻科修了生の印象

過年度の調査結果と比較すると本科卒業生と比べた企業からみた専攻科修了生の総合的な評価では、「優秀」が42%と平成25年度の86%よりも大きく低下している。個別の能力については、おしなべて「優秀」の評価が45%から50%と向上しており、平成25年度以前にあった、全体的に「優秀」だが、語学力・プレゼン能力と創造力・指導力の項目だけは「同等」が大多数(80%程度)という傾向と異なる。TOEIC IP 試験を年に複数回行い、平成26年度専攻科入試より TOEIC スコアを専攻科入試の英語試験に代替え可能とし、平成28年度からは専攻科入試の英語試験を全廃し TOEIC スコアや実業英語検定結果に全面移行するなど、段階的に英語力強化を行ってきて、語学力の底上げができてきていること、プレゼン経験を増やす取り組みが成果を上げていることが窺える。

総合的な評価では大学生よりも「優秀」という評価が33%あった。個別には、技術者倫理、専門基礎学力および実験実習能力の3つの能力においては大学生よりも「優秀」という評価が4割前後あり、大学生より「劣る」という評価6.3%より多かった。専門応用力への評価は平成22年度、平成25年度ともに「優秀」より「劣る」とする回答が多かったが、今回調査では「優秀」とする回答31%に対して、「劣る」とする回答6.3%と、優秀とする回答の方が多かった。大学学部卒業生と遜色ないレベルまで改善されていると判断できる。

語学力・プレゼン能力と創造力・指導力等については平成25年度調査では大学生よりも「優秀」という評価は全くなく、「劣る」という評価が2割前後あったが、今回調査では「劣る」とする回答19%に対して、「優秀」が6.3%、他は「同等」とする回答であった。従来専攻科修了生の弱点とされて来た項目の状態改善が進んでいることが窺える評価となった。

大学院修了生との比較で、総合的に「優秀」の評価は9.1%、同等の評価は64%、「劣る」の評価は27%であった。平成25年度の結果と比べると、全体的に「優秀」の評価がやや減り、「劣る」の評価が上昇している。やはり語学力・プレゼン能力で「劣る」の評価が47%にまで達しているが、それでも53%は大学院修了生と同等の評価を得ていることは好材料である。

図4-20に会社からの離職状況を示す。前回の平成25年度調査では離職者0であったが、今回の調査では「3年以内」の離職者が1名となった。全体的な人数が少なく1名の影響が大きく、有意な差で離職者が増・減していると判断できるものではない。

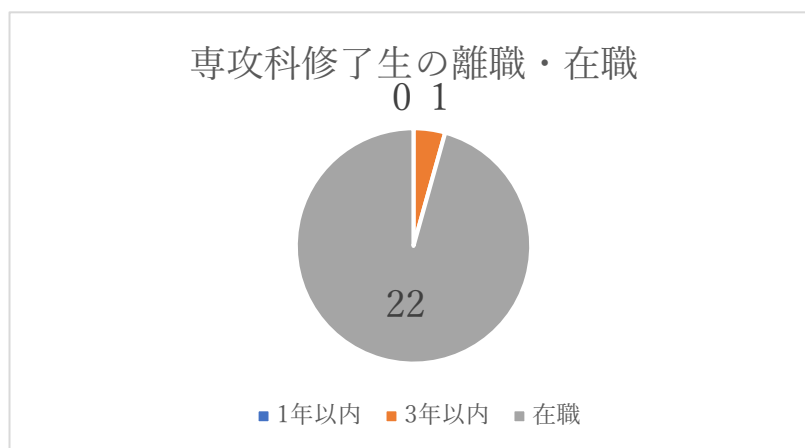


図 4-20 離職・在職状況：専攻科修了生

4.4. JABEE 認定についての回答

JABEE 認定プログラムに関して、専攻科修了生に対しては「JABEE プログラム終了認定は、あなたにとってメリットがありますか」、専攻科修了生企業に対しては「本校専攻科が JABEE 認定プログラムであることをご存知ですか」と質問した。回答は専攻科修了生 4 名(機械・電気専攻 3 名, 建設工学専攻 1 名), 企業 46 社から得た。専攻科修了生の回答すべてが「特にメリットはない」であった。企業は、46 社中 22 社が「知っている」、24 社が「知らない」と回答し、知らないが過半数となった。

本校専攻科のカリキュラムが JABEE 認定プログラムであることは、公式 HP や学校紹介パンフレットなどで広報しているが、十分に認知されていない、もしくは求人元企業の興味の対象外であることが懸念される。今後 JABEE 認定継続の必然性も含めた検討が必要である。

5. まとめと意見

5.1. まとめ

- (1) 本科卒業生・専攻科修了生アンケートでは、アンケート回収率向上と調査費用削減を狙って GoogleApps のフォーム機能を利用した Web アンケートを初めて実施した。回収率は、本科卒業生で 8.5%, 専攻科修了生で 18%, 人数ベースの総合で 8.9% であった。従来の紙ベースでの回収率 17% を大きく下回ることとなった。近年インターネット利用に関連した詐欺事件が多発しており、これらの社会的問題が悪影響を及ぼした可能性がある。オーソライズされたアンケート調査であることを担保する方法論など改善検討が必要である。一方、費用の面では回答返送費用が完全削減できたため改善できた。
- (2) 企業に対するアンケートは、従来の卒業生・修了生就職先企業のみを対象としたものから、企業合同説明会参加企業全社 (150 社) を対象としたものに変更した。本科卒業生求人企業 71 社, 専攻科修了生求人企業 46 社, 合計のべ 117 社から回答を得ることができた。企業数ベースでの回答率は 44% で従来の 36% を大幅に超える回答率となった。
- (3) 本科卒業生・修了生へのアンケート結果から、次のことが分かった。
本科卒業生に対して学習・教育目標別に現在の業務に役立ち具合を問う質問への回答では、「役立った」「やや役立った」と肯定的な回答が過半数となったのは、基礎学力、専門基礎学力の修得、実験・実習能力の修得、専門応用力の修得、基礎語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力であった。「普通」が最多で、ついで肯定的な回答が多く、否定的な回答が少数となったのが社会との関わりの中での徳性豊かで風格高い人間・技術者の育成、創造力・指導力や問題解決能力の修得であった。

専攻科修了生でも同様な傾向だが、創造力・指導力や問題解決能力の修得が全員肯定的な回答である点が異なった。専攻科修了生は本科生と比べて指導力を発揮する場面が多いことが窺える。

(4) 本科卒業生求人企業へのアンケートの結果から、次のことが分かった。

卒業生の持つ資質については、「普通」以上の評価がこれまでと同様に 90%以上で高い評価を受けている。

卒業生に求める能力の上位は、専門基礎学力、基礎学力、実験実習能力、技術者倫理および専門応用力であり、これらは平成 25 年度と同様の傾向である。創造力・指導力への期待値が平成 22 年度以降、平成 25 年度、今回と割合が低下している傾向がある。学年人口の約半分が大学に進学している現在、高専本科卒業生に対するリーダー的役割が低下していると思われる。

語学・プレゼン能力については今回の調査では最も低く、企業からは専門基礎学力、基礎学力への要望が高い。本科卒業生からの回答では、語学・プレゼン能力が必要とする回答が最も高く、過去の調査同様に、企業が求めるものと卒業生自身が必要と感じているものが乖離した状態が続いている。

工業高校卒業生と比べた企業の評価は、全体としては「優秀」の評価が高い(90%)。

他高専との比較では、全般的には「同等」以上の評価が高いが、1社から「劣る」の回答があった。

大学卒業生との比較では、「同等」以上の評価は 89%で、平成 25 年度の 76%よりも大幅に向上した。ただし平成 22 年度は 83%と本年度と同程度であり、前回調査時の評価が低かったのが 6 年前の水準に戻ったと判断するのが妥当である。特に専門基礎学力および専門応用力で「劣る」の評価が大きく減少しており、専門教育の立て直しが順調であることが窺える。

(5) 専攻科修了生求人企業へのアンケート結果から、次のことが分かった。

回答企業数 46 社中、専攻科修了生が在籍していない企業からの回答は 26 社と 56%となった。企業から見た修了生の資質に関する問い 13 社から 15 社は、「分からない」と回答したが、在籍していない企業にもかかわらず「分からない」以外で回答した企業が 10 社余りあることになる。業界内での情報や他社との業務で本校専攻科修了生と接した印象などに基づいて回答していると思われる。

「分からない」を除いた集計では、専門基礎学力に対しては「満足」とする回答が最も多かったが、それ以外の学習・教育目標において普通とする回答が最多となった。満足度の低下がみられる。語学力・プレゼン能力および創造力・指導力の項目で「やや不足」とする回答があった。これは本科卒業生に対するものと異なる傾向であり、専攻科修了生には提案力やリーダーシップが求めていることが窺える。

本科卒業生と比べた企業からみた専攻科修了生の総合的な評価では、「優秀」が 42%と平成 25 年度の 86%よりも大きく低下している。個別の能力については、おしなべて「優秀」の評価が 45%から 50%となり、平成 25 年度以前にあった、全体的に「優秀」だが、語学力・プレゼン能力と創造力・指導力の項目だけは「同等」

が大多数(80%程度)という結果と比べて大きく改善した。TOEIC IP 試験を専攻科試験に活用可能とするなど段階的に英語力強化を行ってきて、語学力の底上げができてきていること、プレゼン経験を増やす取り組みが成果を上げていることが窺える。

総合的な評価では大学生よりも「優秀」という評価が 33%あった。特に技術者倫理、専門基礎学力および実験実習能力の 3つの能力においては大学学部卒業生と遜色ないレベルと評価されていると判断できる。

語学力・プレゼン能力と創造力・指導力等については過年度調査より明確に向上しており、専攻科修了生の弱点とされて来た項目の状態改善が進んでいることが窺える評価となった。

大学院修了生との比較で、総合的に「優秀」の評価は 9.1%、同等の評価は 64%、「劣る」の評価は 27%であった。平成 25 年度の結果と比べると、全体的に「優秀」の評価がやや減り、「劣る」の評価が上昇している。語学力・プレゼン能力で「劣る」の評価が 47%にまで達しているが、それでも 53%は大学院修了生と同等の評価を得ていることは好材料である。

- (6) 本校専攻科カリキュラムが JABEE プログラム認定であることについては、専攻科修了生の回答すべてが「特にメリットはない」、企業の過半数が「知らない」と答えており、JABEE 制度や認定について社会的な認知度向上策の検討、本校としてプログラム継続の要不要も含めた検討が求められる。

5.2. アンケートへの意見

(1) 本科卒業生から

- 高専以外の学校との交流等の機会をもって、コミュニケーション能力の向上を目指してみると良いと思います。(H26 年度 Z 卒業生)
- 高知高専独自の文化は必要 (H22 年度 M 卒業生)
- 機械工学科についてですが、教育内容を具体的にどの職種の何に使えるかを教える必要があると思います。(就職後に気付かせるのも悪くないとは思いますが) (H24 年度 M 卒業生)
- H22E 卒業生) 電験 3 種を実務経験でとれるように学科取得をする (H22 年度 E 卒業生)
- 大学卒よりも、1~3 年以内での離職率が高いように感じるので、就職率のみを気にするのではなく適切な進路指導をしてあげてほしいです (将来設計の授業や卒業生の講演等) (H22 年度 E 卒業生)
- 電気工事士等、授業の中で資格取得の取り組みをするとよいと思う。(H26 年度 E 卒業生)
- ディベート力、多数の前でのプレゼン能力など、コミュニケーション能力向上のための授業が必要だと就職後感じた。資格は就職した業種にもよるが、もっと奨励するべき。(H24 年度 C 卒業生)

(2) 専攻科修了生から

- 私自身、専攻科修了後に大学院に進学し、博士学位を取得予定です。もし学生の中で、世界の最先端での研究開発を担う研究者・技術者を志望する人がいれば、ぜひとも大学院への進学を勧めてほしい。いずれも修士以上の学位が必要。正直、専攻科を修了しても研究者・技術者に必要とされる教養や専門的な知識、それらの礎が絶対的に不足しているように感じます。もちろん、就職してからでも学位を取得することは可能ですが、できるだけ若いうちに経験してほしい。高専専攻科生のもつポテンシャルは十分に高いと信じていますので、修士・博士学位取得を目指す環境の中で切磋琢磨して己を高める、意欲的な学生にはそのような道筋を示してあげてほしい。(H22年度ME修了生)
- 大学および大学院卒業者と比較し、グループでのディスカッションの経験が少ないと感じた。2.特別研究等で発表資料は作成するが、プレゼンテーションそのものの効果的な作り方や訴求力・表現力を高めるための展開の仕方・話し方の教育が必要だと感じた。(H26年度ME修了生)
- 今の高専生活は楽しくなさそう(縛りが多い) (H26年度Z修了生)

(3) 本科卒業生求人企業から

- 優秀な学生を送って頂き、感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。
- 先日は、合同説明会、ありがとうございました。
- 女性の採用も積極的に行っています(寮あり)
- 企業合同説明会には今年で4回目の参加となりましたが、知名度の低い当社にとっては、直接学生の皆さんと話が出来、まず社名から知ってもらえるいい機会です。年々ブースを訪れてくれる学生さんも増え、また2～3年生の参加も増えてきており、早くから進路について考える良い機会になっているのではと感じます。今後も、継続的に参加させていただければと思います。また、当社は、5～6年間インターシップの受入れを行っており、実際に会社の雰囲気を感じたり、現場での仕事を体験してもらうことにより、当社も知ってもらう事はもちろんですが、広い意味で建設業における「もの造り」の楽しさや、やりがい等を感じてもらえればと考えます。昨年4月、環境都市デザイン学科より、1名当社へ入社いたしました。同期社員の中でもリーダーシップをとり、日々元気に業務に取り組んでいます。当然足りないところや失敗もありますが、諸先輩方に可愛がられ、少しずつ力を付けて行っているのは頼もしく感じます。
- 空港が近くアクセスが便利なので合説に行きやすい。東京へもインターンへ来てほしい。
- 高知高専のレベルが高いのは理解しています。1人でいいので内定の実績をつくりたい。
- 近年は御校からの受験者自体が少なかったですが、先生方のお力添えもあり、

学内合税などでは、接触が多くなってきております。これからもご縁をつないでいきたく、よろしく願いいたします。

- 高知高専生を採用できる様、次回も説明会に参加したいと考えています。次回もどうぞよろしく願いいたします。
- 高知にも開発している会社があるので、目を向けてみると高知の活性化につながりますので、ぜひ地元にも目を向けてもらいたいです。
- 今後も、専門性に加えて、社会性や多様な価値観を備えた学生の育成に取り組んで頂きたいです。
- 今後ともよろしく願いいたします。

(4) 専攻科修了生求人企業から

- ぜひ一人で良いので内定の実績を作りたい
- たくさんの学生さんに来ていただけ、積極的に質問等があり、大変良かったです。今回はありがとうございました。
- 特にございませぬ。引き続きよろしく願いいたします。
- 弊社では、今までに専攻科修了の方の採用をしていませんので、十分な回答が出来ません。申し訳ありません。
- 今後ともよろしく願いいたします。

6. 付録

付録 1 本科卒業生への専門学科ごとの質問内容

機械工学科 (M科)

| 専門基礎学力の修得 | 実験・実習能力の修得 | 専門応用力の修得 |
|-----------|-------------------|----------|
| M: 応用数学 | M: 材料学実験 | M: ターボ機械 |
| M: 応用物理 | M: 材料力学実験(材料強度実験) | M: 熱機関 |
| M: 材料学 | M: 熱力学実験(熱工学実験) | M: 環境工学 |
| M: 材料力学 | M: 機械工作実験 | M: 計測工学 |
| M: 流れ学 | M: 流体工学実験 | M: 生産工学 |
| M: 熱力学 | M: 計測制御実験 | M: 機械加工学 |
| M: 機械デザイン | M: 電気工学実験 | M: 卒業研究 |
| M: 機械力学 | M: 機械工作実習 | |
| M: 制御工学 | M: 設計製図 | |
| | M: 機械力学実験 | |
| | M: 創造設計実験 | |
| | M: 3D CAD 学習 | |

| | | |
|--|-------------------------|--|
| | M: レーザーロボット実習 M: CAD | |
|--|-------------------------|--|

電気情報工学科 (E科)

| 専門基礎学力の修得 | 実験・実習能力の修得 | 専門応用力の修得 |
|---|---|---|
| E: 応用数学 E: 応用物理系 E: 電磁気学系 E: 電気回路系 E: 機器・電力系 E: 電子回路系 E: 通信系 E: 制御系 E: 情報系 E: 材料・電子デバイス系 E: 機械工学系 | E: 計測技術 E: 機器・電力系 E: 電子系 E: コンピュータ・制御系 E: 通信系 | E: 電力・電気機器関係 E: 電子通信関係 E: 情報関係 E: 卒業研究 |

物質工学科 (C科)

| 専門基礎学力の修得 | 実験・実習能力の修得 | 専門応用力の修得 |
|---|---|---|
| C: 応用数学 C: 応用物理 C: プログラミング C: 生物学 C: 化学工学 C: 反応工学 C: 無機化学 C: 有機化学 C: 分析化学 C: 物理化学 C: 安全工学 | C: 分析化学実験 C: 無機化学実験 C: 有機化学実験 C: 物理化学・化学工学実験 C: 材料化学実験 C: 生物工学実験 | C: 環境工学 C: 材料化学 C: 生化学 C: 卒業研究 |

環境都市デザイン工学科 (Z科)

| 専門基礎学力の修得 | 実験・実習能力の修得 | 専門応用力の修得 |
|-------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| Z: 応用数学 Z: 応用物理 Z: 構造力学 | Z: 測量実習 Z: 建設材料実験 Z: 水理実験 | Z: 橋梁工学 Z: 施工管理学 Z: 環境工学 |

| | | |
|--|---|--|
| Z: 水理学 Z: 地盤工学 Z: 建設材料学 Z: コンクリート構造学 Z: 都市計画 Z: 測量学 Z: 建築概論 Z: 環境都市デザイン概論 | Z: 構造実験 Z: コンクリート実験 Z: 土質実験 Z: 環境実験 Z: 設計製図 Z: CAD | Z: 防災工学 Z: 水環境工学 Z: 環境アセスメント工学 Z: 海岸工学 Z: 建築計画 Z: 交通工学 Z: 建築構造 Z: 建築環境 Z: 建築設備 Z: 建築史 Z: 建築施工 Z: 建築法規 |
|--|---|--|

付録 2 専攻科修了生への専攻ごとの質問内容

機械・電気工学専攻 (ME 専攻)

| 専門応用力の修得 | 実験・実習能力の修得 |
|---|--------------|
| 応用情報処理 データベースシステム 環境工学特論 生命工学(生命科学) 材料科学 生産工学特論 ME: ロボット工学 ME: エネルギー変換工学 ME: デジタル制御 ME: 画像処理論 ME: 強度設計学 ME: 電気電子回路工学 ME: センサ工学 ME: シミュレーション工学 ME: 流体力学 ME: パワーエレクトロニクス特論 ME: 物性工学 ME: 伝熱工学 ME: 工学基礎演習 ME: 特別実験 | 特別実験 特別研究 |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

物質工学専攻（C専攻）

| 専門応用力の修得 | 実験・実習能力の修得 |
|--|--------------|
| 応用情報処理 データベースシステム 環境工学特論 生命工学(生命科学) 材料科学 生産工学特論 C: 天然物有機化学 C: 有機合成化学 C: 反応工学特論 C: 分析化学特論 C: 応用機器分析 C: 生物科学工学 C: セラミックス化学 C: 高分子材料化学 C: 触媒工学 C: 反応速度論 C: 化学結合論 C: 分離操作工学 | 特別実験 特別研究 |

建設工学専攻（Z専攻）

| 専門応用力の修得 | 実験・実習能力の修得 |
|--|--------------|
| 応用情報処理 データベースシステム 環境工学特論 生命工学(生命科学) 材料科学 生産工学特論 Z: 固体力学 Z: 構造解析特論 Z: 応用水理学 Z: 地震工学 Z: 防災工学特論 | 特別実験 特別研究 |

| | |
|--|--|
| Z: 建設材料学特論 Z: 基礎工学特論 Z: 地盤工学特論 Z: 計画システム分析 Z: 水環境工学特論 Z: 海岸工学 Z: 建設工学演習 | |
|--|--|

付録 3 卒業生・修了生へのアンケート調査協力依頼文例

高知工業高等専門学校での教育等に関するアンケートのお願い

本科卒業生・専攻科修了生 各位

拝啓 歳末の候□時下ますますご清祥の段□お喜び申し上げます。

さて□高知工業高等専門学校では□より高度で実践的な教育・研究を行うため□教育内容などの改善を継続的に進めてきております。

この一環として3年に一度□本科卒業生・専攻科修了生の皆様から見た会社の印象および高専での教育内容などにつきまして□ご意見をお伺いし□その結果を今後の教育内容□教育プログラムなどの改善に反映していきたいと考え□アンケートを実施しております。

つきましては□何かとご多忙中のところ誠に恐縮でございますが□本校の教育内容□教育手法などの改善のために□皆様の忌憚のないご意見をお伺いいたしたく□下記アンケートサイトより□ご意見をくださいますようお願い申し上げます。

末筆ながら□皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具

平成 28 年 12 月

高知工業高等専門学校長 浜中 俊一

追伸 誠に勝手ながら□整理の都合上□平成 29 年 2 月 28 日（火）までにご回答くださるようお願い申し上げます。

回答方法：

以下のサイトに PC やスマートフォンなどでアクセスしてください。その際に必要なユーザ ID とパスワードは以下のとおりです。

初回アクセス時にライセンスに「同意する」必要があります。その後の「アカウント復旧オプションの確認」では何も入力せず「完了」を押してください。回答締め切り後はユーザ登録をリセットします。

ユーザ ID ()

パスワード ()

問合わせ先 : 高知工業高等専門学校 学生課教務係
TEL 088-864-5623
FAX 088-864-5536

付録 4 卒業生求人企業へのアンケート調査協力依頼文

高知工業高等専門学校での教育等に関するアンケートのお願い

高知高専企業合同説明会参加企業 各位

啓蟄の候、貴社におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、高知工業高等専門学校では、より高度で実践的な教育・研究を行うため、教育内容などの改善を継続的に進めてきております。

この一環として3年に一度、本校本科卒業生・専攻科修了生の印象や本科・専攻科の教育内容などにつきまして、ご意見をお伺いし、その結果を今後の教育内容、教育プログラムなどの改善に反映するために、アンケート調査を実施しております。

つきましては、ご多忙中のところ誠に恐縮でございますが、本校の教育内容、教育手法などの改善のために、人事ご担当の皆様からの忌憚のないご意見をお伺いいたしたく、別紙アンケート調査用紙により、ご回答下さりますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴社のますますのご発展をお祈り申し上げます。

平成 29 年 3 月

高知工業高等専門学校長 浜中 俊一

追伸 誠に勝手ながら、整理の都合上、平成 29 年 3 月 31 日（金）までにご回答くださるようお願い申し上げます。

問合わせ先 : 高知工業高等専門学校 学生課教務係
TEL 088-864-5623
FAX 088-864-5536

出典「平成 28 年度卒業生・修了生・企業アンケート報告書」

「平成30年度第2回保護者会の実施状況及び聴取された保護者からの意見・要望等がわかる資料」

保護者各位
 高知工業高等専門学校
 渡中 俊一
 平成30年 9月 7日

平成30年度 第2回 保護者会の開催について（ご案内）

初回の様、保護者の皆様にはまずまずご清浄のことと、お慶び申し上げます。
 さて、保護者の皆様と個別面談等を通して学生の学業や生活面に関する情報交換を行い、相互理解をより一層深めるため、第2回保護者会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙中とは存じますが、ご出席いただければ幸いです。ご都合が合わない場合は、

1. 日程

〇個別面談
 1, 2, 3, 5年生 4年生
 10月20日(土) 9:00~17:00 10月27日(土) 9:00~17:00
 10月21日(日) 9:00~17:00 10月28日(日) 9:00~17:00

〇海外研修旅行事前説明会(1年生、2年生対象)
 10月20日(土)、21日(日) (両日とも同じ内容を説明、同様の案内文書をご覧ください)

1年生 ⇒ 11:30~12:10
 2年生 ⇒ 12:30~13:00

〇クラス懇談会(1年生対象)
 10月20日(土)、21日(日) (両日とも同じ内容を説明)

1年生 ⇒ 12:20~12:50

〇コース個別相談会(1年生、2年生対象)
 コースごとのブースに別添で、コースカリキュラムやコース選択に関する保護者様からのご質問・ご相談に応じます。スタッフ数や対応の時間に限りがございますので、複数の保護者様とご質問・回答を共有して頂く形式で実施させていただきます。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

10月20日(土)、21日(日)

10:00~12:00、14:00~16:00

場所：キャリアサポートルームA

〇校内外各団体企画(保護者はじめ参加対象)

10月20日(土) 11:00~13:00 (同様の案内文書をご覧ください)

〈留意点〉

- 1年生と2年生は、3年次に実施予定の海外研修旅行事前説明会、コース個別相談会、クラス懇談会(1年生のみ)を開催(両日とも同じ内容を説明)します。両者の案内文書、返信用ハガキをご覧ください。
- クラス懇談会はコースごとに3日連続で各学年一人参加で行い、1クラス全体の出席(コース、成績)や「学校・学年として取り組む」「その進路行動の意向」を行います。また、懇談会や懇談会が同席者です。個別面談の有る方に個別面談を行います。個別面談の別添は、クラス懇談会後に成績をお渡しします。
- 4年生は、研修旅行直後のため、10月27日(土)、28日(日)開催となります。
- 5年生は、ご自身の保護者の方といたしますので、返信用ハガキは同封しておりません。面談を希望される方は、学生を通じて国際係項目を学務担当までご連絡ください。

2. 1年生、2年生クラスメイトミーティング(3~5年生は個人面談となります)

| 1年生 | 2年生 |
|----------------------|----------------------|
| 9:30 個人面談 | 8:00 個人面談 |
| 10:00 コース個別相談会 | 10:00 コース個別相談会 |
| 11:30 海外研修旅行事前説明会 | 12:30 海外研修旅行事前説明会 |
| 12:10 クラス懇談会 | 13:30 クラス懇談会 |
| 13:50 個人面談 | 13:50 個人面談 |
| 14:00 コース個別相談会 | 14:00 コース個別相談会 |
| 15:00 | 15:00 |
| 17:00 | 17:00 |

3. 面談室および控え室

| クラス | 個別面談室 | 控え室 | 担任(面談) | 副担任 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-----|----|
| 1年1組 | | | | | |
| 1年2組 | | | | | |
| 1年3組 | | | | | |
| 1年4組 | | | | | |
| 2年1組 | | | | | |
| 2年2組 | | | | | |
| 2年3組 | | | | | |
| 2年4組 | | | | | |

出典「平成 30 年度 第 2 回 保護者会の開催について（ご案内）」

| クラス | 個別面談者 | 控え室 | 担任 (直務) | 副担任 | 備考 |
|-----|-------|-----|------------|-----|----|
| N3 | | | | | |
| R3 | | | | | |
| I3 | | | | | |
| V3 | | | | | |
| T3 | | | | | |
| M4 | | | | | |
| M5 | | | | | |
| B4 | | | | | |
| B5 | | | | | |
| C4 | | | | | |
| C8 | | | | | |
| Z4 | | | | | |
| Z5 | | | | | |

SJD 棟(ルーベキラボ)サイエンス学科(機械・田舎の教育学科)
 N:エレクトロニクス・新機ゲーム R:ロボティクスコース
 V:まちづくり・防災ゲーム E:新学科・生命コース
 M:機械工学科 I:電気情報工学科 C:物質工学科 Z:環境都市デザイン工学科

4. その他
 (1) 欠席について、回答の返信用ハガキに必要事項を記入の上、9月28日(金)までに先生ご宛に必ず届くようにご提出下さい。なお、担任への連絡事項がありましたら、ハガキの備考欄にご記入下さい。また、遠隔地等特別な事情で時間的に連絡がおりの方は、担任に直接ご連絡いただくか、ハガキの備考欄にその旨お書き添え下さい。
 (2) 出席の日時は調整のうえ学校責任から学生を通じてお知らせいたします。なお、出席希望日と選出した場合は、ご希望に添えないことがありますのでご了承下さい。
 (3) 控室に到着する前夜を希望される場合は、ソーシャルデザイン工学科講義棟1階の保護室までお越し下さい。(10月20日(土)のみ)
 (4) 当日、カレシジメシステムカードをご持参の保護者の方は、ソーシャルデザイン工学科講義棟1階学生課窓口にお持ちください。後の券が押印いたします。

1～3, 5年 10月20日21日
 4年 10月27日28日
 保護者会 報告

| | 1日目 人数 (人) | 2日目 人数 (人) | その他の 日数 |
|-----|------------|------------|------------|
| 1-1 | 17 | 20 | |
| 1-2 | 26 | 12 | |
| 1-3 | 11 | 13 | |
| 1-4 | 26 | 14 | |
| 2-1 | 21 | 13 | |
| 2-2 | 18 | 14 | 5 |
| 2-3 | 27 | 12 | |
| 2-4 | 16 | 17 | |
| N3 | 14 | 4 | |
| R3 | 15 | 10 | |
| I3 | 14 | 15 | |
| V3 | 17 | 14 | |
| T3 | 20 | 9 | 1 |
| M4 | 24 | 13 | 2 |
| E4 | 22 | 16 | 1 |
| C4 | 20 | 13 | |
| Z4 | 25 | 11 | 4 |
| M5 | 1 | 0 | |
| E5 | 5 | 0 | |
| C5 | 2 | 2 | |
| Z5 | 1 | 0 | |
| 計 | 342 | 222 | 13 |

合計 577人

その他コメント・担任意見

○事務局係
 【1年】「分からないから聞いてくれるのに適切に答えてくれない」「理解の点で成績が悪かった」ということを聞かされた。「平等の学習状況だ」と思われるが、保護者は点が低い理由や内部を知りたがった(物理のみ、非常に成績が悪い学生で、個人面談では先生に不機嫌がある)。ソーシャルデザイン入門の成績が悪い学生の保護者が「どのような学生なのか」とどの問い合わせ先か2件あった。
 (学生に聞く)と「自分のことを作文する」という内容だったような・・・自分の事を表現出来ない学生は成績が悪い傾向? (担任意見)
 ・英語科6,3だが、補習を受けたが、ついていない。(担任意見)
 ・「頑張る学生英検を TOEFL」を知らない保護者が多く、話すとかなり前のありで受験が上がる案が出た。
 ・受験した再受験(英語)の問題をもらいたい。親としても指導したい。

○学生課係
 【1年】
 ・自転車に乗る学生へむけて、ヘルメットの装着を促すチラシを学校からしてもらえないか。
 【2年】
 (担任意見)今回、コース選択のこともあったので、時間を10分に短縮し、学生も帰るので三者面談で、保護者を交えた。保護者と学生の意見の風通しを確保できたので、2年のこの時期の保護者会は、担任の方針によっては三者面談が有効かもしれない。
 【3年】
 朝、保護者が車で送ってくる際に、学校に入るまで学生を降ろしている。そのため、長崎のあたりで、バイクの学生が危険なので今年度に入ってからでのより安全な方法をよく見かけるようになった。

○養護係
 病になし

○台湾研修旅行について
 【2年】海外研修旅行のレベルアップをお願したい。
 【3年】台風の時期を外して欲しい。(10月など)夏休み中に行くのであれば、研修旅行後、学校が始まる迄、1週間程度欲しい。(疲労回復や学校へ行く準備など)
 【3年】・台湾研修旅行において、冊子の様子についてSNS等であればうれしかったとの意見がありました。

○その他
 【1年】
 ・新築校舎の敷地はどのようなところになるか?と教員に聞かれ、(各自であるが、セキュリティを希望する)保護者は保護者にくそモチベーションを促すのに苦労している状況だ。(担任意見)
 ・息子が「うなづきのクルーゾウ」で「お前はもう死んでいる」と言う楽曲になんて不機嫌を言っていた。(担任意見)
 (クルーゾウで自分の一番内情が理解できず、クルーゾウ内で内情を売った様子であるが、自殺が強く、孤立の様子。(担任意見))
 ・新築校舎の敷地練習でゲームを使用するが、コンタクトレンズにしていた方がいいか?
 【4年】
 ・要し金申請情報などは、学生への周知だけでなく保護者へも連絡して欲しいとありがたい。

出典「保護者会 報告」

「平成30年度後援会総会の実施状況及び聴収された保護者からの質問・要望事項の一例がわかる資料」

○平成30年後援会総会・寮生支援保護者会総会

〔 日 時 平成30年6月2日(土) 14:00～
場 所 高知工業高等専門学校専攻科棟 4階 会議室 〕

次 第

- 1 会長あいさつ
 - 2 校長あいさつ
 - 3 議長・副議長選出
 - 4 議事
 - 報告事項
 - 1. 後援会支部の役員について…………… 資料1(席上配付)
 - 審議事項
 - 1. 平成29年度後援会会務報告について…………… 資料2
 - 2. 平成29年度後援会決算報告及び学寮経費決算報告について…………… 資料3・4
 - 3. 平成29年度後援会会計監査報告及び学寮経費会計監査報告について……………
 - 4. 平成30年度後援会予算(案)及び学寮経費予算(案)について…………… 資料5・6
 - 5. 平成30年度後援会・寮生支援保護者会役員の選出について…………… 資料7(席上配付)、8
 - 新旧役員紹介
 - 学校の現況等報告
 - その他
- 【そのほかの資料】
- ・平成30年度学生数…………… 資料9
 - ・平成30年度校務分掌…………… 資料10
 - ・平成30年度入学志願者状況／平成28年度学生の異動状況…………… 資料11
 - ・平成30年度行事予定表…………… 資料12
 - ・学生生活関係の近況報告…………… 資料13
 - ・平成29年度学生会決算及び平成30年度学生会予算…………… 資料14
 - ・学寮関係の近況報告…………… 資料15
 - ・支部総会等での質問・要望事項…………… 資料16
 - ・高知工業高等専門学校後援会規則
 - ・高知工業高等専門学校寮生支援保護者会会則
 - ・キャンパスガイド

出典「平成30年度後援会総会・寮生支援保護者会総会議事次第」

高知高専後援会支部総会等での保護者からの質問・要望事項

教務関係

- 台湾研修の日程について、台湾研修から帰ってきた後、遠方の寮生については、そのまま開寮まで寮にいられるようにしていただきたい、また今後はそのような旅行日程で計画していただきたい。(土佐清水支部)

(回答)

本年度は、出発前日と帰ってきた日について、宿泊希望調査を行って対応させていただくことといたしました。

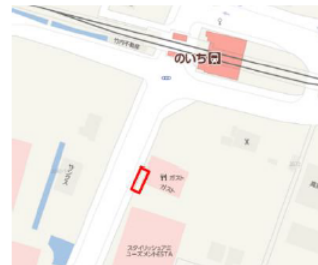
学生生活関係

- 増便されたスクールバスについて (高知北支部)

野市発便が増便されたようですが、詳細なルートと、学生数や乗降時間など現在の使用状況を教えて欲しい。

(回答)

通学バスは、高知市内からの入学志願者増を目的に、平成 27 年度に試行的に運行を始めました。当初から、東部方面からも運行して欲しいとのご要望を多くいただいて参りましたが、利用人数、運行経費等の関係で実施できない状況です。野市便は、少しでもこのご要望に近づけないかと計画しました。予定人数より若干少なかったのですが、最終的に 13 名の方が利用されることとなり、本年度、試行的に運行しています。今後の運行については、利用希望調査を行って判断していくこととなります。



往路 ごめん・なはり線 野市駅発 8:15－学校着 8:25

復路 学校着 16:30－ごめん・なはり線 野市駅着 16:40－高知方面へ

学校着 18:45－ごめん・なはり線 野市駅着 18:55－高知方面へ

通学バスのお問い合わせは、お気軽に学生課修学支援係までお電話ください。088-864-5625・5626

- スクールバスの寮生の利用について (高知北支部)

スクールバスの週末便 (金曜日など) に乗車人数に余裕があれば、有料で寮生が乗せてもらうことはできないでしょうか？

(回答)

今回いただきましたご要望については、これまでも片道だけとか、雨の日だけといったご要望について対応を検討してきた経緯がありますが、現在は 1 年間ご利用いただける方を原則にご利用いただく運用となっています。今回のご要望はこれらに似ているように思いますのでその枠組みに入れて検討していきたいと思っております。今後は乗車人数に余裕が出ることはないよう、より慎重に計画しますのでご理解をお願いいたします。

- ケガをしてバイク・自転車通学ができない時などに短期間通学バスに乗れるようにしてほしい (香南支部)

(回答)

香南市や安芸方面からは学校前で下車できる公共交通機関がありませんので、ケガをしてバイク・自転車通学ができない時は、自家用車やタクシーで通学せざるを得ない状況になるかと思っております。ほかにも利用されたい事情ができるかと思っておりますので、その際は、学生課修学支援係までご相談下さい。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「高知高専後援会支部総会等での保護者  
からの質問・要望事項より抜粋」

「平成 30 年度夏季地区会の実施状況及び聴取された保護者からの質問事項・意見等の一例がわかる資料」

平成30年度 夏季地区会日程・出席予定者等

報告資料 1 0 H30第 5 回運営会議  
2018.7.19(木)開催

2018/6/29 現在

| 地区名<br>(出席支部)     | 実施日時     |            | 開催場所(予定)                                   | 学校発<br>時間(予<br>定) | 出席予定者 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 備考   |      |        |
|-------------------|----------|------------|--------------------------------------------|-------------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|
|                   | 月日(曜日)   | 時間         |                                            |                   | 校長    | 教務主任 | 学生主任 | 1・2年 | N    | R    | I    | V    | T    | M    | E    |      | C    | Z      |
| 中央箕部地区会<br>(南西支部) | 7月22日(日) | 14:00<br>～ | グレーステイル<br>(863-3131)<br>南箕部大塚甲1504-8      | 13:30             | 校長    | 教務主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 |        |
| 中央西部地区会<br>(土佐支部) | 7月28日(土) | 14:00<br>～ | グランドイール<br>(892-3150)<br>土佐市高岡甲730-1       | 12:30             | 校長    | 教務主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 |        |
| 西部地区会<br>(中村支部)   | 9月1日(土)  | 14:00<br>～ | JA高知はた農協会館<br>(0880-34-5959)<br>四万十市右山五呂町  | 10:30             | 校長    | 教務主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 1泊2日行理 |
| 西部地区会<br>(吉野支部)   | 9月9日(土)  | 14:30<br>～ | 一摩司会館<br>(0897-55-4157)<br>香南市香我妻町世本396-81 | 13:50             | 校長    | 教務主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 |        |
| 中央地区会<br>(高知西支部)  | 9月9日(日)  | 14:00<br>～ | 高知グリーンズホテル<br>(883-2323)<br>高知市南室永町4-2     | 13:00             | 校長    | 教務主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 | 学生主任 |        |

地区会式次第

- 全体会(45分)
  - 支部長(地区代表)挨拶
  - 学校代表挨拶
  - 自己紹介(保護者、学校側)
  - 学校の方針および実情報告(教務、学生生活、習字、学校行事、その他)
  - 質疑応答
  - 地区(各支部)活動報告及び質疑
- 1・2学年合同、3年コース別、4・5年学科別懇談会(45分)
  - ※議題数が限られるため、議題割りは上表の色の組み合わせとする。
  - 1・2学年 各学年会代表1名ずつで2～3名(基理数教員が選出)
  - 3学年 コース別1名(コースコアメンバーから各コース長が旧学科長と調整し選出)
  - 4・5学年 科・専攻別1名(4～5年学年会メンバーから、旧学科長がコース長と調整し選出)
  - コース、科・専攻別リレジュレーション、各クラスの状況、教務・進学状況、その他

全般

- ・ 2 年ではクラスだよりは発行しないのか（中央東部）
- ・ 子供から学校の食堂がおいしいと聞いていてぜひ試食したいが、学食の試食体験を企画していただけないか。（中央東部）
- ・ 卒業式にスクリーンをお願いします。（証書授与のとき校長先生側から見た子供の姿を映像で流して欲しい。その映像を記念に収めたい。）（中央地区）
- ・ 提出物や学校の状況などは保護者が確認することはできないのか？（中央地区）
- ・ カレッジメンバーズカードについて説明して欲しい（中央地区）

入試関係

- ・ 特になし

教務関係

■授業関係

- ・ 3 年生のテストの実施科目が多い（中央東部）
- ・ 学生同士の教え合いの場をもっと作ってほしい。寮で勉強会を実施しているように。（中央西部地区）
- ・ 1 年生の物理や数学では習熟度別授業を行っているが、2 年生では行っていないのか？また、英語は習熟度別授業を行っていないのか？（東部地区）
- ・ 英検の指導を行ってもらえるか？（東部地区）
- ・ ある先生の授業中の声が聞こえないということでピンマイクを付けて授業をしたと聞いたが、全体で対応されたのか？そのクラスだけの対応か？（中央地区）
- ・ 夏休みの課題は成績に反映されるのか？（中央地区）

■進級・卒業・単位・資格修得関係

- ・ 国家資格（1 級、2 級建築士）について（中央地区）

■コース関係

- ・ 3 年生のコース分けについて詳細を知りたい（親の同意が必要かどうかや最終アンケートの実施日など）（中央東部）
- ・ 親がコース説明の資料を見ても良く分からない。学生から親にも話さない。もっと授業数だったり、単位数だったり、実際につける職種だったり、具体的な情報がほしい。どのコースに行くとどれくらいレベルが上がるかなども情報がほしい。（中央西部地区）
- ・ 一度コースを選んでしまったら、他のコースに移ることはできないのか（中央東部）
- ・ 3 年になったらコースは変更できないのか？（中央地区）
- ・ N と R の合同授業が多いことについて。（中央東部地区）
- ・ 授業時間数の多さ、課題の多さが大変と子供から聞いている。（中央西部地区）
- ・ （コース選択にあたり、）コースによっては大変そう（例えば T コース）ではあるが、そのような情報は学生に伝わっているか？（中央地区）
- ・ コースによって学生数に 20 名以上の差があるが影響はないか（西部地区）
- ・ 現 3 年生は、自然に自分達の希望どおりになったのか？何も指示などはなかったのか。（中央地区）
- ・ （コース希望調査結果で希望コースの順位が分かるが、希望コースを優先するか、順位を優先するか迷っている。）クラスで下位になったときのデメリットは何か？（中央地区）
- ・ 情報セキュリティコースでの持ち物について（中央地区）
- ・ 情報セキュリティコースでのノートパソコンについて、学習上必要なのでは（中央地区）

~~~~~（略）~~~~~

出典「平成 30 年度後援会夏季地区会での質問事項、意見等より抜粋」

「各者の意見が自己点検・評価に反映されていることを示す資料」

9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積と評価体制

本校における教育活動の実態を示す主なデータである成績評価関係資料は、準学士課程・専攻科課程の全学年を対象として、定期試験問題及び模範解答を学生課教務係に保存蓄積している。また、本科・専攻科全学年を対象として、定期試験の答案用紙等の全数を各学科で保管している。さらに日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育プログラム対象科目については、学習・教育目標の達成を示すための資料を科目ごとに小箱（ボックス）に入れて図書館に保管し、全教員が自由に閲覧可能とし、特に学科長と教務委員が資料の内容をチェックする体制になっている。

学校全体の日常的な教育点検は、主に教務委員会、教育改善推進委員会（平成26年度まで）、アクティブラーニング教育センター（平成27年度以降）等で行われる。学生の学習・教育目標達成度の評価・検討は、全教員が出席して年度末に開催される進級判定会議（1～4年生）、卒業判定会議（5年生）及び修了判定会議（専攻科2年生）において行われる。また、参与会（外部からの第三者組織所属の有識者の会）による点検・評価に加え、自己点検・評価委員会が、校内の各種委員会に自己点検項目を提示し、報告を受けることにより、点検・評価結果が取りまとめられ、今後どのような教育の改善に取り組むべきかの指針を与え、各種委員会、学科、教員にフィードバックされる体制となっている。

学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取

学生からの意見の聴取を行う取り組みとしては、授業評価アンケートを全開講科目対象として平成12年度から全学的に実施している。平成15年度からは本校で独自開発したウェブアンケートシステムを用いて調査をしており、平成20年度以降は年度内に2回の調査を行い、年度途中で授業改善項目の把握等に役立っている。結果は学内LANを活用して全教員及び全学生にウェブ開示している。また、教員の意見は、教員の自己申告書（学生の授業評価アンケート結果等を参考にした自己検証を含む）や教員相互評価等で聴取している。

学外関係者の意見は、参与会（年1回開催）、求人企業アンケート調査（3年ごとに実施）、卒業生アンケート調査（3年ごとに実施）、保護者会（年2回開催）、後援会（年3回開催）、地区会（年1回開催、5地区）等を通じて聴取している。

聴取した意見等をもとに、教務委員会、教育改善推進委員会（平成26年度まで）、アクティブラーニング教育センター（平成27年度以降）、個人評価委員会、自己点検・評価委員会等が、教育の状況に関する点検・評価を中期計画・年度計画に基づき行い、最終的に自己点検・評価委員会が報告書としてまとめている。

~~~~~（略）~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.49」

## 「学習環境に対する要望にもとづいた対応が行われたことを示す資料-1」

## 8. 教育環境（施設、設備）

## 施設・設備の整備と活用

教室・研究室・実験室がある全ての建物、及び全ての学生寄宿舍建物の耐震補強工事、屋上の手すり取付け工事を完了している。教室は合計20室あり、いずれも70㎡以上の広い面積を確保している。倉庫や資料室等のように一時的に利用する部屋を除き、全ての教室と教員研究室に冷暖房設備を設置済みである。また、全ての教室にはプロジェクター及びスクリーンを設置している。さらに、専攻科や選択科目の授業などにも対応できるよう講義室やゼミ室、アクティブラーニング室、また、実習工場や各種の実験室も整備しており、教室や実験室及び実験設備の稼働率は、概ね有効に活用されている。

情報処理教育、情報システム開発演習、計算機援用設計演習及びアクティブラーニング活用教育のために情報処理センター、専攻科棟2階パソコン室及び図書館に合計165台のパソコンを設置し、多数のソフトウェアを導入して校内の要望に込えている。また、数値計算専用のコンピュータ・クラスタの維持管理を行っており、専門科目の演習や卒業研究、専攻科特別研究で活用されている。

図書館には112席の開架閲覧室をはじめ、地域連携センター、コモンズルームがあり、図書利用以外にも多目的に使用している。

運動施設は、運動場や体育館、プール、球技コート、武道場等を整備して、主に体育の授業や課外活動に供し、学外への貸し出し等でも利用されていることに加え、隣接する物部川の河川敷の一部を借り上げて野球練習場として整備し使用している。

学生寮は、本校の教育施設の一部であり、集団生活を通じて人間形成を助長し、教育目的の達成に資することを目的として設置運用しており、平成29年4月現在全校学生の約51%の439名が入寮している。校外への学生の移動手段として、46人乗りのスクールバスも整備している。また、女子学生の増加に伴い、女子便所の増築や女子用更衣室の整備を行い女子学生の日常生活に支障を来たさないよう対策を図っている。学内共通使用の施設や設備は、学内LAN上でのグループウェアを使って、学内のどこからでも使用予約やその予約状況の確認ができ、施設設備の利用効率を向上させているのに加え、学校施設の有効活用に関する規則を制定し、校舎等教育研究施設の有効活用を図っている。

建物のバリアフリー化に関しては、ほとんどの建物でスロープを設置済みである。また、学科共用棟・ソーシャルデザイン工学科講義棟・機械工学科棟・環境都市デザイン工学科棟にはエレベーターを、図書館・教室棟については椅子式階段昇降機が設置されており、車椅子利用者でも全ての階にアクセス可能である。学生寄宿舍では、6号館（女子寮）に車椅子対応のトイレ、及び浴室を整備済みで1階での生活が可能である。

使用電力の低減のため、ソーシャルデザイン工学科講義棟屋上に定格40KWの太陽光発電設備を設置している。平成28年度の年間発電実績は37,014.8kWhであった。また、学校全体の環境負荷低減のため、環境マネジメント委員会を設けており、エネルギー使用量・紙などの消耗品の使用量・廃棄物処理や化学薬品の適切な管理について毎年検討を行っている。

施設・設備を原因とした災害の防止を含めた教職員の安全衛生の確保のために安全衛生委員会を組織しており、適宜校内巡視による施設及び設備の安全点検を行って安全性の向上に務めている。また、学生生活委員会は、学校安全計画を策定して生徒等の安全の確保を図るため、安全衛生委員会と合同で施設及び設備の安全点検を行うほか、学生に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導を行っている。全学生及び教職員の参加する防災訓練の実施や安全確保全般にわたる事項は、校長を責任者とするリスク管理室で企画し実行している。

学生に対する安全教育の実施例として、各学科の実験・実習科目において、最初の授業に実験実習安全必携を配布し、実験等における安全教育安全教育を行っている。また、生活面に関する安全教育の実施例として、学校および学生寮において火災に対する防災訓練に加え、南海地震を想定した避難訓練を毎年行っている。

交通安全教育は、1～3年次の特別活動において警察に依頼して行っている。3年生以上のバイク通学生を対象とした実技講習会も実施している。また、交通安全週間に合わせ毎年4月及び9月に正門前で標語を掲げ、交通安全指導を行っている。

教育研究にふさわしい環境整備への配慮・対応については、年に一回、校内重点点検を実施して構内の美化活動や安全な環境整備に努めている。キャンパス全体の整備計画は、主に施設マネジメント委員会で議論されており、将来計画は平成28年度にキャンパスマスタープランとしてまとめられている。

## ICT環境の整備と活用

モデルコアカリキュラムを中核とした高専教育の「質保証への転換」を支援するため、全高専でのICT活用が必須条件であるとの認識から、高専機構では情報戦略マスタープランに情報基盤部門のマイルストーンを定めている。そのマスタープランに基づき、高知高専では平成30年度から実運用に入る高専統一ネットワーク整備に合わせて、平成27年6月から校内通信ケーブルのリプレースの詳細設計に入り、リプレース工事を平成27年12月から翌年3月にかけて実施した。その際、南海トラフ地震の津波で浸水被害が予想される平屋の情報処理センターから、サーバー室を専攻科棟4階に移設し、校内各棟及び学寮地区とサーバー室を結ぶ光回線をすべて再敷設した。平成28年4月開始の学術情報ネットワーク SINET5 への切換工事は、この新サーバー室を起点として実施し、外部回線としての調達を完了した。SINET5の基幹回線の帯域は100Gbpsであるが、切換当初の平成28年4月では1Gbpsとしてスタートしている。なお、校内の建物間は冗長化された2Gbpsの光回線で結ばれている。各棟内の有線LAN回線は各室に一つの情報コンセントを設置することを原則として整備を進めた。高専機構の標準仕様では無線LANアクセス・ポイントの設置数は40台であるが、高知高専では講義室だけでなく実験室や演習室、学寮地区への増強を図るために既設のもとと合わせて180台の態勢でスタートさせた。無線LANへの接続はノートパソコンを中心とする携帯情報端末を申請に基づいて許可するものであり、MACアドレス認証での接続のみを許可している。許可台数は3,078台である。高専統一基盤システム一式の導入切換工事は平成29年9月に実施して試験運用を開始した。導入切換工事に前後して、校内で独自に運用していた高知高専公式ホームページサーバー及び旧学科ホームページサーバーは機構本部が管理するクラウドに移設した。

高知高専公式ホームページは新学科の発足に先立ち、平成27年9月にオープンソース系のコンテンツ管理システムに移設したうえで全面改訂し、運用体制も刷新した。高専機構の管理するeラーニ

ングシステムへのコース，ユーザ及びコース管理者の登録管理体制を確立して，すべての科目の事前登録を平成27年度から実施している。平成28年10月から開始された情報セキュリティ管理の厳密化に対応すべく，校内の情報セキュリティ関連規程の改訂と関連手続の整備を実施し，また，校内のグループウェア管理態勢を再整備した。教職員に対する情報セキュリティ関連の注意喚起や講習会は定期的実施しており，また，学生に対する情報セキュリティ関連のeラーニングも年1回実施して情報セキュリティに関する意識や基礎的な理解の向上に務めている。

## 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の資料の収集と活用

本校図書館には，自然科学や工学をはじめ，人文，歴史など10分野の図書や学術雑誌を収集し管理している。開架閲覧室は，閲覧定員が112席で，平日の午前8時30分から午後7時までと土曜日の午前9時から午後1時まで開館している。図書館ホームページは，インターネット経由で蔵書検索や文献等の検索も出来るよう整備している。蔵書情報の検索用等に計6台のパソコンと視聴覚機材用にテレビビデオ/プレーヤー1セットを設置し，学生に開放している。

平成29年度5月現在の蔵書数は，100,988冊（内，洋書は約11%），雑誌約210種，視聴覚教材約193件であり，毎年図書を追加し充実させている。図書等の整備は，学生の意見箱や直接あるいは図書委員を通じての要望，話題性やトピック性，系統性等を配慮して図書館教職員の判断や各学科の教員の意見をもとに行っている。平成28年度の入館者数は45,346人で，貸し出し冊数は22,974冊であった。

図書館の運営や利用に関しては，図書館規程が定められており，図書館長が図書館を統轄している。

また，学生図書委員会を組織化し，図書の整理・整頓などの活動の他，各委員はクラスからの要望を汲み上げるパイプ役を担っている。この委員会の活動を基に「図書館だより」を発行している。図書館主催のイベントとして，一般学生と一緒に書店で購入図書を選ぶブックハンティング，文芸コンクールなどを企画し，図書の利用促進の取り組みを行っている。さらに，一般市民等学外者の利用や文献複写サービスなども実施している。電子ジャーナル・電子データベース及び図書館相互利用等による学術情報・文献等の提供や学術紀要発行による学術研究成果の発信も行っている。最近では，国語・英語・社会科等のアクティブラーニング授業の実施に，図書館閲覧室や資料を利用することも多くなってきた。

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.46-p.48」



自己点検・  
評価委員会  
自己評価

|                                                                                                                              |          | 平成30年度「年度計画」進捗状況                    |                                   | 再掲                    |    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------|----|
| (職別番号)                                                                                                                       | キーワード    | 年度計画                                | 担当委員会又は担当部署 (○=主担当)               | 事務担当係 (○=主担当係)        | 再掲 |
| <b>(6) 教育環境の整備・活用</b>                                                                                                        |          |                                     |                                   |                       |    |
| <b>ア 安全で快適な教育環境の整備</b> 安全安心かつ快適な教育環境を整備するため、キャンパス整備、老朽化施設の改修や南海トラフ地震への対応等を実施するほか、老朽化設備の更新を実施する。環境に配慮した取組を実施する。実施する内容は、次のとおり。 |          |                                     |                                   |                       |    |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)ア① | ① 学校安全計画の作成                         | ○ 学生生活委員会、<br>教務委員会、寮務委員会、リスク管理室  | ○ 修学支援係、教務係、生活支援係、総務係 | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)ア② | ② キャンパス整備計画の更新及び営繕要求採択事業の進捗状況       | ○ 施設マネジメント委員会、教務委員会、学生生活委員会、寮務委員会 | ○ 施設係、教務係、生活支援係       | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)ア③ | ③ 老朽化及び地震対策の基幹整備（給水）又は図書館改修の概算要求の実施 | ○ 施設マネジメント委員会、リスク管理室、教務委員会、寮務委員会  | ○ 施設係、教務係、生活支援係、修学支援係 | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)ア④ | ④ キャンパス整備計画に基づく営繕要求の実施              | ○ 施設マネジメント委員会、教務委員会、学生生活委員会、寮務委員会 | ○ 施設係                 | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)ア⑤ | ⑤ 設備整備マスタープランの策定及び更新                | ○ 施設マネジメント委員会                     | ○ 施設係                 | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)ア⑥ | ⑥ 光熱水量等調の作成                         | ○ 環境マネジメント委員会                     | ○ 施設係                 | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)ア⑦ | ⑦ 環境目標の設定                           | ○ 環境マネジメント委員会                     | ○ 施設係                 | A  |
| <b>イ 安全管理の講習会等</b> 学生・教職員の体験・実習等における安全を確保するため、高知高専学校安全計画に基づき、安全必修の配付や講習会等を実施する。実施する内容は、次のとおり。                                |          |                                     |                                   |                       |    |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)イ① | ① 実験実習時の安全講習の実施                     | ○ 教務委員会                           | ○ 教務係                 | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)イ② | ② 消防署が実施する救命講習への参加                  | ○ 学生生活委員会、安全衛生委員会                 | ○ 修学支援係、総務係           | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)イ③ | ③ 交通安全指導の実施                         | ○ 学生生活委員会、安全衛生委員会                 | ○ 修学支援係、総務係           | A  |
| 継続                                                                                                                           | I 1(6)イ④ | ④ ストレスチェックの実施                       | ○ 安全衛生委員会                         | ○ 総務係                 | A  |
| 新規                                                                                                                           | I 1(6)イ⑤ | ⑤ メンタルヘルス講習会                        | ○ 安全衛生委員会                         | ○ 総務係                 | A  |

「学生による授業評価（教育・学習の達成度に関する評価、満足度評価を含む）にもとづいた対応が行われたことを示す資料-1」

### 授業内容、教材、教授技術等の継続的改善

学生による授業評価アンケート結果に基づき、非常勤講師を含む全教員は各自の評価結果に対して、授業内容等を自己分析しコメントを提示している。評価結果及びコメント内容は、学内LANを通じて全学生、全教員に公開している。また、本科で開講されている全授業を対象に教員の授業参観期間が設けられており、授業参観コメントに基づく教員同士の相互評価も行われ、授業改善等に継続的に役立っている。

個々の教員の具体的な教育改善活動状況については、教育改善推進室（平成26年度まで）、アクティブラーニング教育センター（平成27年度以降）が調査を行い、授業評価アンケート結果等を受けて、授業手法の工夫や対話型の授業を取り入れるなど多くの授業改善が実践されている。また、各教員は教育研究活動等に係る自己申告書や教育に関する事項（授業等）について年度終了後に自己目標に対する達成度を自己検証し報告することになっており、学校として教員の教育改善活動状況を把握する体制が整っている。

~~~~~（略）~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.50」

「学生による授業評価(教育・学習の達成度に関する評価、満足度評価を含む)にもとづいた対応が行われたことを示す資料-2」

| | | キーワード | 年度計画 | 担当委員会又は担当部署 (○=主担当) | 事務担当係 (○=主担当係) | 平成30年度「年度計画」進捗状況 | 再掲 |
|------------------------|----------|-------------------|--|-----------------------------------|----------------|--|----|
| イ 学習到達度試験の実施・分析 | | | | | | | |
| 継続 | I 1(2)イ① | 【到達度試験の分析】 | 教育の基礎となる科目(数学、物理、一般化学)の学習到達度を調査し、教育内容・方法の改善を図る。また、学生自らが自己の学習到達度を把握することにより、学習姿勢を形成すること | ◎ 教務委員会 | ◎ 教務係 | ・ CBT (「数学」「物理」「一般化学」) による到達度試験を実施した。「数学」「物理」は1～3年生全員、「一般化学」は1・2年生全員が受験した。 | A |
| 継続 | I 1(2)ウ① | 【英語力の向上】 | ① 4・5年生「TOEIC補習」 | ◎ 教務委員会 | ◎ 教務係 | ・ 4年生と5年生を対象に「TOEIC補習」を継続開講している。 | A |
| 継続 | I 1(2)ウ② | | ② 「グローバル高専専業」第4ブロック英語教育法検討部会への参加。 | ◎ 教務委員会 | ◎ 教務係 | ・ 10月に開催される会議へ教員1名が参加した。 ・ 1月21日(月)～1月25日(金)に台湾国立聯合大学から教員を1名招聘し、英語による授業を実施した。 | A |
| 継続 | I 1(2)ウ③ | | ③ 1・2年生「英語補習」、3年生「実力強化英語演習」(前学期の開講は中止、後学期は開講。前学期の代替措置としてオフィスアワー設置)、4年生に「英語特論」(大学編入学対策)を継続開講した。 | ◎ 教務委員会 | ◎ 教務係 | ・ 1年生と2年生に「英語補習」、3年生に「実力強化英語演習」(前学期の開講は中止、後学期は開講。前学期の代替措置としてオフィスアワー設置)、4年生に「英語特論」(大学編入学対策)を継続開講した。 | A |
| 継続 | I 1(2)ウ④ | | ④ TOEIC Bridgeの受験(2・3年生対象) | ◎ 教務委員会 | ◎ 教務係 | ・ 英語の実力試験として、2年生と3年生は「TOEIC Bridge」を1月に実施した。 | A |
| 継続 | I 1(2)ウ⑤ | | ⑤ TOEIC L&R IPの受験(4年生対象) | ◎ 教務委員会 | ◎ 教務係 | ・ 英語の実力試験として、4年生は「TOEIC L&R IP」を1月に実施した。 | A |
| 継続 | I 1(2)ウ⑥ | | ⑥ TOEIC受験環境の改善のためのTOEICの賛助会員の継続 | ◎ 教務委員会 | ◎ 教務係 | ・ TOEIC受験環境の改善のため、TOEICの賛助会員を継続した。 ・ 「TOEIC L&R IP」試験を実施して、5月12日(土)24名(内本科生19名)が受験した。第2回目を9月29日(土)に実施し、43名(内本科生37名)が受験した。 | A |
| 継続 | I 1(2)ウ⑦ | | ⑦ 専攻科入学試験へのTOEIC・実用英検スコア利用の継続 | ◎ 入試委員会 | ◎ 教務係 | ・ 専攻科入学試験へのTOEIC・実用英検スコア利用を継続するとともに、TOEICスコア換算法について検討を行った。 | A |
| 工 授業評価・学校評価 | | | | | | | |
| 継続 | I 1(2)工① | 【授業評価】【学校評価】 | 教育課程の改善を図るため、卒業生を含めた学生による授業評価、教員相互による授業評価等の学校評価を実施し、その結果を学内で共有し教員FDとして活用する。学生による授業評価の調査内容を教育点検を主眼としたものに改定する。 | ◎ 教務委員会・AL ◎ 教務委員会 ◎ 教育センター | ◎ 教務係 | ・ 学生による授業評価アンケートの質問を教育目標の達成状況を計るための調査内容に改定した。 ・ 学生による第1回目の授業評価アンケートを6月18日(月)～7月5日(木)に実施し、教員がコメントを入力して7月17日(火)～7月26日(木)の間に学生に開示した。また、第2回目の授業評価アンケートを12月10日(月)～12月21日(金)に実施した。 ・ 5年生、専攻科2年生を対象に2月から3月にかけて学習教育目標達成度評価アンケートを実施した。 ・ 学習教育目標達成度評価アンケートの調査結果を報告書として取りまとめ、学内で共有する | A |
| オ 競技会・コンテストへの参加 | | | | | | | |
| 継続 | I 1(2)オ① | 【高専競技会・コンテストへの参加】 | ① 四国地区高専体育大会への参加 | ◎ 学生生活委員会 | ◎ 修学支援係 | ・ 四国地区高専体育大会12種目に190名が参加した。団体種目では、卓球、サッカー、剣道(男子)、剣道(女子)、硬式野球、ハンドボールが優勝し、総合準優勝した。個人競技では、陸上、卓球、剣道、水泳、バドミントンの5種目において1位～3位に入賞する好成績を挙げた。 ・ 全国高等専門学校弓道大会へ男子団体2位、男子個人1位、女子個人2位の成績を挙げた。 | A |
| 継続 | I 1(2)オ② | | ② 全国高専体育大会へ出場 | ◎ 学生生活委員会 | ◎ 修学支援係 | ・ 全国高専体育大会は8種目に出場し、卓球が男子シングルス優勝、剣道男子団体が優勝、陸上1500Mが2位に入賞するなど好成績を挙げた。 ・ 全国高等専門学校弓道大会へ男子団体、男子個人、女子個人が出場した。 | A |
| 継続 | I 1(2)オ③ | | ③ 四国地区総合文化祭への参加 | ◎ 学生生活委員会 | ◎ 修学支援係 | ・ 四国地区高専総合文化祭(12月15日(土)～16日(日)、三豊市)へ学生137名が参加した。 | A |
| 継続 | I 1(2)オ④ | | ④ 英語プレゼンテーションコンテストへの参加 | ◎ 学生生活委員会 | ◎ 修学支援係 | ・ 英語プレゼンテーションコンテスト(1月26日(土)～27日(日)、神戸市)へ参加し、シングル部門でCOCE T賞を受賞した。 | A |
| 継続 | I 1(2)オ⑤ | | ⑤ 四国地区ロボットコンテストへの参加 | ◎ 学生生活委員会 | ◎ 修学支援係 | ・ 高専ロボットコンテスト2018四国地区大会(10月7日(日)、香川高専高松)へA・Bチームが参加した。 | A |
| 継続 | I 1(2)オ⑥ | | ⑥ 全国高専プログラミングコンテストへの参加 | ◎ 学生生活委員会 | ◎ 修学支援係 | ・ 10月27日(土)～28日(日)に徳島市で開催される全国高専プログラミングコンテスト(阿南高専主管)の競技部門へ学生3名が参加した。 | A |

自己点検・評価委員会
担当委員会等
自己評価

「3年生に対するアンケート調査」

| | | （識別番号） | キーワード | 年度計画 | 担当委員会又は担当部署（◎＝主担当） | 事務担当係（◎＝主担当係） | 平成30年度「年度計画」進捗状況 | 再掲 |
|---|----|---------|---------------------|---|------------------------------|--|--|----|
| <p>ウ 特に、女子学生志願者確保に向けた取組み オープンキャンパス、各種学校説明会等において、女子志願者向けに本校の取組等を積極的にPRする。また、科学教室「リケジョ☆ひろば」や本校女子学生・OGを中心に組織された「はちきん蘭士会」の活動を推進するとともに、活動内容をホームページ等で紹介し女子中学生へ広報を行う。</p> | | | | | | | | |
| | 継続 | I1(1)ウ① | 【女子学生志願者確保の取組み】 | ① 女子学生で組織された「TGK」の活用 | ◎男女共同参画推進室 | ◎総務係 | ・TGKの活動状況を高知化学シンポジウム2018（10月13日（土））、2018年日本化学会中国四国支部化学教育研究発表会（11月17日（土）・18日（日））、2018年度高専女子フォーラムin関西（12月23日（日））で発表、情報交換を実施した。 | A |
| | 継続 | I1(1)ウ② | | ② 科学教室「リケジョ☆ひろば！」の開催 | ◎男女共同参画推進室・広報戦略室 | ◎総務係、教務係 | ・11月10日（土）本校星際祭、11月18日（日）オーテピア高知みらい科学館で実施した。 | A |
| | 継続 | I1(1)ウ③ | | ③ 学生・OGを中心とする組織「はちきん蘭士会」の活動推進 | ◎学生生活委員会 | ◎修学支援係 | ・南国市の各保育園で保育士対象に「災害用伝言ダイヤル・Web171教室」を女子学生3～9名が講師となり、6月20日（水）、7月4日（水）、8月7日（火）、11月14日（水）、12月5日（水）、12月12日（水）に実施した。 ・8月7日（火）に本校で、地域の自主防災組織と南国市役所職員に女子学生10名が防災教室を実施した。 ・9月2日（日）に高知みらい科学館において、女子学生6名が「高知高専presents防災教室」を実施した。 ・10月20日（土）開催の、「建設フェア四国 2018in高松」サンポート高松に、女子学生30名が「どぼじよと作ろう！工作教室」「どぼじよと学ぼう！液化化宝探し」に参加した。 | A |
| | 継続 | I1(1)ウ④ | ④ WEB等を活用した情報発信 | ◎広報戦略室 | ◎総務係 | ・本校公式ホームページをスマートフォン対応に改修し、3月より公開した。 ・男女共同参画推進委員長が、平成30年度全国高専フォーラム（8月20日（月））において、高知高専の女子学生入学比率向上に向けた取組みについて講演を行った。 | A | |
| <p>エ 高専教育に相応しい人材を選抜する適切な入試の実施 アドミSSIONポリシーに基づき優秀な人材を選抜するため、適切な推薦選抜及び学力入試を実施する。また、引き続き、本校検査会場の外、県内外に検査会場を設け、広く優秀な人材の確保に努める。</p> | | | | | | | | |
| | 継続 | I1(1)エ① | 【適切な入試の実施】 | ① 県外検査会場での合同入試の実施 | ◎入試委員会 | ◎教務係 | ・三好検査場（三好市保健センター）・岡山検査会場（岡山大学）・東京検査場（オフィス東京）の3合同検査会場での学力入試を実施した。大阪検査場（大阪カーデンパレス）は受検者がいなかったため実施せず。 | A |
| | 継続 | I1(1)エ② | | ② 必要に応じて入試制度の見直しを行う | ◎入試委員会 | ◎教務係 | ・入試制度の見直しについては、入試委員会において国の指針、県内公立高校の入試制度状況等を確認しながら検討する。 ・学科再編に伴い、編入学試験の検査科目等の見直しを行った。 ・帰国生徒特別選抜について検討を行い、2020年度入試から実施することとした。2月にHPに実施予告を掲載した。 ・専攻科学力入学試験合否判定の申し合わせについて、他高専の基準を調査し、一部見直しを行った。 | A |
| <p>オ 入学志願者の維持・確保</p> | | | | | | | | |
| | 継続 | I1(1)オ① | 【志願者学力の維持】【志願者数の維持】 | 新入生に対する志願動機等アンケート調査を実施し、志願動機等の分析結果を学生確保施策へ反映させ、入学志願者数の維持に努める。 | ◎教務委員会 | ◎教務係 | ・学生確保施策の一つとして、新入生を対象に志願動機アンケート調査を4月16日（月）に実施し、動機分析を行った。志願動機としては、就職実績（58%）、施設設備の充実（53%）等が多数であった。【平成30年度女子学生率23%】※163名中、37名 ・この結果を踏まえ、本校の特色、強み等について学校紹介において説明し、入学志願者数の維持に努めている。 | A |
| <p>(2) 教育課程の編成等</p> | | | | | | | | |
| <p>ア 学科・専攻科の改組 高専教育の高度化・グローバル化等に対応するため、産業界における人材需要、高知県の産業振興計画、学生のニーズの変化などを踏まえ、高知高専の特色を生かした学科の再編やコース制の導入を行なうとともに、専攻科の見直しを行なう。実施する内容は、次のとおり。</p> | | | | | | | | |
| | 継続 | I1(2)ア① | 【学科の改組・専攻科の改組案】 | ① 専攻科の改組に向けて検討を行う。 | ◎学科再編推進室 ・企画委員会 ・教務委員会 | ◎総務係、教務係 | ・他高専に対する情報収集を行いつつ、専攻科の改組に向けた検討を開始した。1専攻4コース制の原案をもとに、3つのポリシーなどや教育課程等の検討に着手した。 ・高専専攻科と大学の連携教育プログラムについて、県内の大学と意見交換を開始した。 ・平成33年度専攻科改組に向けてワーキンググループを立ち上げ作業を開始した。 ・専攻科改組の概要とスケジュールについて機構本部において説明を行った。 ・ワーキンググループで各コース別の新カリキュラムの検討を行った。 | A |
| | 新規 | I1(2)ア② | | ② 3年生に対するアンケート調査を実施し、コース選択の理由・時期等の分析を行った。この結果をコース説明の時期や方法等に反映させた。 | ◎学科再編推進室 ・企画委員会 ・教務委員会 | ◎総務係、教務係 | ・3年生に対するアンケート調査を4月9日（月）に実施し、コース選択の理由・時期等の分析を行った。この結果をコース説明の時期や方法等に反映させた。 | A |

担当委員会等
自己評価

自己点検・
評価委員会

「卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価にもとづいた自己点検・評価が行われていることを示す資料」

学生が行う学習達成度評価等から判断する教育の成果・効果

年度末に準学士課程5年生及び専攻科2年生の学生本人による学習等達成度評価を実施し、教育改善推進委員会（平成26年度まで）及びアクティブラーニング教育センター委員会（平成27年度以降）が、その分析を行った。評価は、5点を最高、1点を最低とする五段階評価アンケートにより行った。

準学士課程5年生、専攻科課程2年生ともに、卒業・修了時に身につけるべき学力や資質・能力に対する各項目の評価はおおむね3点以上あり良好だが、アンケートの中で、準学士課程の「Q.5 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力」に関しては、3点未満の結果となった学科がある。なお、ここでQ.5は学習・教育目標（E）に対応している。

学生による達成度評価では、3未満で回答された項目がわずかにあったが、全体的には達成できたことを示す3以上の評価であることから、本校の教育の成果や効果が上がっているものと判断できる。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.38」

「教員会で卒業（修了）時の学生による満足度評価の結果が説明・報告されたことを示す資料」

### 平成30年度 第1回教員会議事概要

日 時 平成30年4月4日（水） 13：30～15：25

場 所 専攻科棟4階 会議室

・会議に先立って、校長から、平成30年4月1日付けで採用された教員2名と職員1名(事務部長)の紹介の後、それぞれ挨拶がされた。

#### 1. 議 題

##### (1) 平成30年度校務分掌

校長から、資料1に基づき、平成30年度校務分掌の説明があった。

##### (2) 平成30年度行事予定

教務主事から、平成30年度行事予定の説明があった。

##### (3) 主事室等からのお願いと連絡

###### ①教務関係

教務主事から、教務関係連絡事項について説明があった。

###### ②専攻科関係

専攻科長から、専攻科関係連絡事項について説明があった。

###### ③学生生活関係

学生主事から、学生生活関係連絡事項について説明があった。

###### ④学生相談室関係

学生相談室長から、学生相談室関係連絡事項について説明があった。

###### ⑤キャリア支援室関係

キャリア支援室長から、キャリア支援室関係連絡事項について説明があった。

###### ⑥寮務関係

寮務主事から、寮務関係連絡事項について説明があった。

###### ⑦情報処理センター関係

情報処理センター長から、資料2に基づき、情報処理センター関係の説明があった。

###### ⑧地域連携センター関係

地域連携センター長から、資料3に基づき、地域連携センター関係の説明があった。

###### ⑨アクティブラーニング教育センター関係

アクティブラーニング教育センター長から、資料4に基づき、アクティブラーニング教育センター関係の説明があった。

##### (4) 平成30年度の夏季一斉休業日の取扱いについて

総務課長から、資料5に基づき、平成30年度の夏季一斉休業日についての説明があった。

出典「平成30年度 第1回教員会議事概要より抜粋」

## 達成度評価結果

GoogleFormsを使った  
WEBアンケート

128(のべ142)人が回答

M : 38

E : 22

C : 26

Z : 24

SME : 9

SC : 4

SZ : 5

本科

回答率

73%

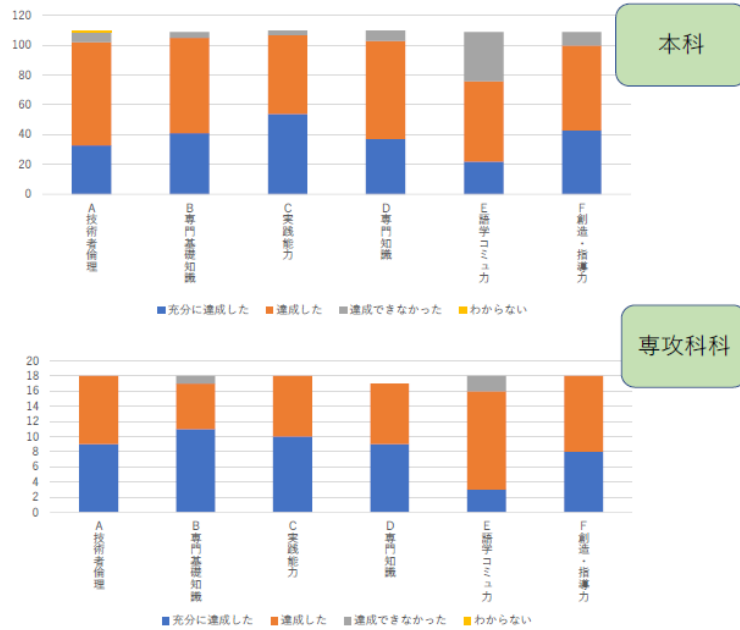
専攻科

回答率

95%

資料4

H30第1回教員会  
2018.4.4(水)開催



出典「平成30年度第1回教員会 資料」

「卒業（修了）生から聴取した意見にもとづいた本校の教育の成果・効果について自己点検・評価が行われていることを示す資料」

~~~~~ (略) ~~~~~

卒業（修了）生や進路先等の関係者から聴取した意見にもとづく、教育の成果・効果

本校教育の自己点検として、3年おきに準学士課程卒業生・専攻科修了生及び彼らの求人企業を対象としたアンケート調査を実施している。これにより本校の教育成果や、卒業（修了）後の成果などについて調査・検討している。平成28年度では、平成22, 24, 26年度の準学士課程卒業生及び専攻科課程修了生全員を対象とした。ただしこれらの年度で準学士課程卒業かつ専攻科課程修了するものに関しては、専攻科課程修了生として調査した。

準学士課程卒業生（回答数35名）に「準学士課程の教育」について、項目別に、「役立った・やや役立った（やや満足）・普通・あまり役立たなかった・全く役立たなかった」の5段階評価で調査した。全項目で75%以上の卒業生が「普通」以上の評価を付けた。特に基礎学力、専門基礎学力、実験実習能力、専門応用力では過半数が「役立った／やや役立った」と回答しており、教育の目的が達成できていることが伺える。専攻科課程修了生対象（回答数4名）の調査では、全質問に対して全員が「普通」以上（普通、やや役立った、役立った）で回答したが、「風格高い人間・技術者の育成」に関しては全員が普通と回答した。「専門基礎学力」、「実験実習能力」、「専門応用力」、「創造力・指導力等」では過半数が「役立った／やや役立った」と回答しており、教育の目的が達成できていることが伺える。

本校主催で学内実施した企業合同説明会参加企業を対象として（回答数89社）に「準学士課程卒業生のレベル」について、項目別に、「満足・やや不満足（やや満足）・普通・やや不足・不足」の5段階評価で調査した。

大半の質問項目で90%以上の企業が「普通」以上と評価した。「高専生の弱点」と指摘されがちな、「基礎語学力・プレゼンテーション（プレゼン）能力」でも80%であった。

大学学部卒者との比較では、多くの項目で同等以上の能力があると認められている。「語学力・プレゼン能力」では過半数の企業から同等以上（同等+優秀）と判断された。以前の平成22年度では劣るが過半数、平成25年度調査で、同等以上が半数程度だったことから、近年の授業などで発表機会を増やす取り組みなどが成果を上げていると判断できる。

専攻科課程修了生求人企業（回答数46社）への調査では、「基礎語学力・プレゼンテーション（プレゼン）能力」でやや不足2件、「創造力・指導力」でやや不足1件の回答があったが、その他の質問項目では全ての企業が「普通」以上と評価した。

大学学部卒者との比較では、多くの項目で同等以上の能力があると認められている。「語学力・プレゼン能力」では「普通」以上の評価が調査開始以来、初めて過半数を超えた。高専生は大学生に比べて英語が苦手と感じる学生が多い、プレゼン力が弱い、と言われてきたが、近年英語系科目の授業改善やTOEIC受験推進をはじめとした語学教育の重点強化、アクティブラーニングなど双方向的対話授業増による発表の機会を増やしてきた取り組みが成果として明確に現れてきたと言える。しかしながら「劣る」とする評価が20%含まれており、継続的な努力が必要であることも分かった。

本校として期待する教育の成果や効果が高く評価されていることを示す結果を得ており、本校の教育の目的が達成できていると判断できる。

「卒業生・修了生の求人企業から聴取した意見にもとづいた本校の教育の成果・効果について自己点検・評価が行われていることを示す資料」

~~~~~ (略) ~~~~~

**卒業（修了）生や進路先等の関係者から聴取した意見にもとづく、教育の成果・効果**

本校教育の自己点検として、3年おきに準学士課程卒業生・専攻科修了生及び彼らの求人企業を対象としたアンケート調査を実施している。これにより本校の教育成果や、卒業(修了)後の成果などについて調査・検討している。平成28年度では、平成22, 24, 26年度の準学士課程卒業生及び専攻科課程修了生全員を対象とした。ただしこれらの年度で準学士課程卒業かつ専攻科課程修了するものに関しては、専攻科課程修了生として調査した。

準学士課程卒業生(回答数35名)に「準学士課程の教育」について、項目別に、「役立った・やや役立った(やや満足)・普通・あまり役立たなかった・全く役立たなかった」の5段階評価で調査した。全項目で75%以上の卒業生が「普通」以上の評価を付けた。特に基礎学力、専門基礎学力、実験実習能力、専門応用力では過半数が「役立った/やや役立った」と回答しており、教育の目的が達成できていることが伺える。専攻科課程修了生対象(回答数4名)の調査では、全質問に対して全員が「普通」以上(普通、やや役立った、役立った)で回答したが、「風格高い人間・技術者の育成」に関しては全員が普通と回答した。「専門基礎学力」、「実験実習能力」、「専門応用力」、「創造力・指導力等」では過半数が「役立った/やや役立った」と回答しており、教育の目的が達成できていることが伺える。

本校主催で学内実施した企業合同説明会参加企業を対象として(回答数89社)に「準学士課程卒業生のレベル」について、項目別に、「満足・やや不満足(やや満足)・普通・やや不足・不足」の5段階評価で調査した。

大半の質問項目で90%以上の企業が「普通」以上と評価した。「高専生の弱点」と指摘されがちな、「基礎語学力・プレゼンテーション(プレゼン)能力」でも80%であった。

大学学部卒者との比較では、多くの項目で同等以上の能力があると認められている。「語学力・プレゼン能力」では過半数の企業から同等以上(同等+優秀)と判断された。以前の平成22年度では劣るが過半数、平成25年度調査で、同等以上が半数程度だったことから、近年の授業などで発表機会を増やす取り組みなどが成果を上げていると判断できる。

専攻科課程修了生求人企業(回答数46社)への調査では、「基礎語学力・プレゼンテーション(プレゼン)能力」でやや不足2件、「創造力・指導力」でやや不足1件の回答があったが、その他の質問項目では全ての企業が「普通」以上と評価した。

大学学部卒者との比較では、多くの項目で同等以上の能力があると認められている。「語学力・プレゼン能力」では「普通」以上の評価が調査開始以来、初めて過半数を超えた。高専生は大学生に比べて英語が苦手と感じる学生が多い、プレゼン力が弱い、と言われてきたが、近年英語系科目の授業改善やTOEIC受験推進をはじめとした語学教育の重点強化、アクティブラーニングなど双方向的対話授業増による発表の機会を増やしてきた取り組みが成果として明確に現れてきたと言える。しかしながら「劣る」とする評価が20%含まれており、継続的な努力が必要であることも分かった。

本校として期待する教育の成果や効果が高く評価されていることを示す結果を得ており、本校の教育の目的が達成できていると判断できる。

「外部有識者で構成された参与会での意見やアドバイスを本校教育・管理運営等に反映させていることがわかる資料」

**外部評価**

本校では、外部評価として参与会及び日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査を実施している。

(1) 参与会 (参与会規則)

外部アドバイザーシステムとして1年に1回程度開催している。参与は、本校の教職員以外の者で、本校の基本理念に理解があり、高等専門学校教育に関し、広く、かつ、高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱(平成28年度の参与会委員名簿)している。参与は、本校の運営に関し、校長の求めに応じて意見を述べるものとしており、本校の研究の目的の達成状況を確認、改善を図るための意見を伺うことができる。平成28年度で19回を数えるが、毎回、報告書を作成し、平成18年度からは本校ウェブサイトでの公開も行っている。

~~~~~ (略) ~~~~~

外部有識者等の意見や第三者評価の結果の反映

本校では、外部有識者を構成員とする総合的な点検・評価組織として、平成9年度から参与会を設け、毎年開催している。会では、参与のそれぞれの社会的立場(大学教育、工学教育、企業の立場、地域教育等)からの意見やアドバイスを、直接本校の教育・管理運営等の改善策に反映させている。

また、参与会は本校の全教職員に公開されている。日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査を受審しており、本校の教育・管理運営等の改善策に反映させている。その他、学生や保護者、地域の企業からの直接的な意見も積極的に取り入れ、点検・改善に生かしている。学生は授業評価アンケート、保護者は保護者会・後援会、また、企業、卒業生からの要望はそれぞれ対象のアンケート調査を行い、その調査結果を取りまとめ、各種委員会にフィードバックし、点検・改善を行っている。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.64-p.66」

## 「参加会の意見等にもとづいて改善に向けた取組を行った事例を示す資料」

| H29 参加会<br>審議事項 | 高知高専の最近の特色ある取組みについて                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | <p><b>第3期中期計画策定の基本方針</b><br/> <b>《高知高専の基本戦略》</b><br/>           高専機構第3期中期計画の下<br/>           『魅力と特色のある高専としての存在感の確保』・『グローバル時代を生き抜くたくましい技術系人材の育成』</p> <p><b>《高知高専の重点戦略》</b></p> <p>①優秀な志願者確保対策の推進。<br/>           ②地域に目を向けた活動の強化と存在感の確保。<br/>           ③グローバルスキル獲得に向けた基礎力の涵養。<br/>           ④社会的・職業的自立を目指したキャリア支援の強化。<br/>           ⑤心身の健康維持のための学生支援の推進。<br/>           ⑥外部資金の充実による研究推進と安定運営の確保。<br/>           ⑦大地震に備えた地震、津波対策の強化。</p>               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                 | <p>参加からの意見<br/>(平成29年度)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>平成30年度取組状況</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                 | <p>・ソーシャルデザイン工学科での、コース選択について2年間を掛けてコース説明し、計4回の希望調査をしながら決定していくことは、5年生の高専としていいシステムだと思う。今後、コース説明等きめ細やかな学生支援を続けてほしい。</p> <p>・ソーシャルデザイン工学科への大括の取組は、遠回りになるかもしれないが高専のワンステップアップの保証となるのではないかと期待している。</p> <p>・ソーシャルデザイン工学科への大括り化のシステムはいいと思うが、一次産業に携わる学科ができればよかった。</p>                                                                                                                                                                                            | <p>学生向けのコース説明会は、2年生を対象として8月6日(月)に各コース長から進路、コースに相応しい素質等についての説明が行われ、また個別相談会を9月25日(火)、26日(水)に開催した。1年生には1年生研修時にコースガイダンスを、また特別活動においてコース説明会(7月2日(月))を実施した。保護者向けには保護者会時にコース説明会(6月)と個別相談会(10月)を実施し、コース説明会には延べ145名の参加があった。</p> <p>2年生の希望コース選抜本調査を1月16日(水)締切で実施した。全員が3年生から第一希望のコースに進める予定である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                 | <p>・今までの高専のスタイルで育ててきた実践力のある子どもたちのような卒業生を確保していくことが大事だと思う。</p> <p>・地域社会、民間企業、行政と直接的に携わりながら進める授業はすばらしいと思う。高知大学の地域協働学部のお世話もしているが、地域密着型の授業というのは、今のご時世にマッチした教育方針なので、高専の教育システムの特徴になると思う。</p> <p>・大学は知識優先で、高専は技術力だと思う。就職先では大学卒以上の評価があると思うので、高専卒と言う事に自身を持ってよう教えてあげてほしい。</p> <p>・高知高専で行っている実施事業について、要請をすれば協力してくれる企業はたくさんあると思うので、うまく活用するのいいと思う。</p> <p>・アクティブラーニング教育について、いろいろな取組のなかで、駄目になった取組を情報共有することが、取組改善に有効だと思う。</p> <p>・ロボコンコンテストは、テレビ等でも放送され、知名度は高いと思う。</p> | <p>カリキュラムを3年次からはコース分野における専門領域の知識と、それらに対応した実践的な技術を実験・実習や卒業研究を通じて修得し、地域や世界が抱える諸課題を解決する能力を修得できるよう編成(カリキュラムポリシー)した。来年度4年生後学期に「地域協働演習(選択科目)」を開講し、その到達目標に「高知県(高知市、南国市、香南市、香美市等)の現状・課題・可能性を理解したうえで、それらに自らがいかに取り組んでいくことができるかを考え、グループワークを通じて提案することを目指す。」を掲げ、地域が抱える諸課題を解決する能力を修得できる取り組みを開始する。この科目と「校外実習(インターンシップ)」2単位を修得すると4年終了時に「地方創生推進士」の資格を得ることもできるようになる。</p> <p>情報セキュリティ人材育成事業(K-SEC)で作成した教材を活用し、高専4.0イニシアティブ事業で高知市の小学校、高知みらい科学館、高齢者(情報セキュリティ弱者)向けのプログラミング講座等を実施した。</p> <p>高知県工業会と連携して、県内企業研究会(建設系・製紙系企業も参加)を11月6日(火)に開催し、多くの低学年生も参加した。また1年生を対象に県内企業見学会を12月に実施した。本校の県内就職率はこの2年間18%と高い水準にキープ。</p> |
|                 | <p>・質保証は必要ないとおもう。人間力(企画力・創造力など)をどう育てるかと言う事が大事だと思う。</p> <p>・質の保証をするのは不可能であり必要ないと思う。今行っている事業などの成果が、質の保証及び入学確保に繋がると思う。</p> <p>・質保証については、教育プログラムにどれだけ時間を割いたか、学生と一緒に研究し、学生が学会発表等することで保証出来るのではないか。</p> <p>・質保証について、試験などの成績で判断しがちであるが、就職は成績優秀者が有利とは限らないので、学生が窮屈にならない程度でお願いしたい。</p>                                                                                                                                                                            | <p>学習成果や備えるべき能力(アウトカムズ)に対する到達度を効果的かつ効果的に評価できる方法の構築(CBT、実験実習スキル・分野横断的能力評価指標)と学生が期待されるアウトカムズへ到達することを支援する教員による教育内容や教育方法の検討と共有について検討を行っている。CBT(Computer Based Testing)は本年度数学、物理、一般化学の3科目実施した。昨年度までの3年生対象の到達度試験(数学・物理)レベルを期待したが、そのレベルには達していないとの評価もあり、これから結果のまとめを行い、活用について検討を進める。また実験実習スキル・分野横断的能力評価指標について、MCC項目に対応する実験テーマの設定とそれに対応する実験手順書と実験スキル評価シートの作成の検討を依頼した。</p>                                                                                                                                                                                                                            |
|                 | <p>・自己点検評価については、作成が大変なのでシンプルで簡単なものにすればいいのではないか。</p> <p>・自己点検評価書の作成では、1高専は規模が小さいので、絶対数を書くより、何倍になったとか何%増などの記載をすると効果が分かりやすい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>平成29年度の自己点検評価書は平成29年度までの機関別認証評価の評価項目・評価基準にそった内容で作成した。平成30年度から機関別認証評価の評価項目等が変更され本校は平成31年度に受審することから、その実施状況を踏まえたうえで、次回作成の平成34年度(2022年度)までに自己点検項目の内容、形式等について検討する予定としている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                 | <p>・セキュリティ人材育成事業について、どんなレベルのセキュリティ人材を想定して育成しているかイメージを明確にしてほしい。</p> <p>・情報セキュリティ人材育成事業について、補助金が終了した後は、高専機構全体の事業であるため、機構に人件費等の要求をすればいいと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>学生それぞれの輩出先に応じた技術の取得を目指している。</p> <p>①セキュリティ専門技術者として必要な高度な技術を持った人材、②情報系技術者が持つべきセキュリティ技術を持った人材、③他の工学分野の技術者が持つべきセキュリティ技術を身につけた人材であり、全高専の卒業生数を100%とすると、それぞれ1%未満、20%、80%を想定し、全ての高専生にセキュリティ技術を身につけさせることを目指している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                 | <p>・卒業生等のアンケートについて、校友会の会報や広報誌で説明し回収率を上げることが可能と思う。</p> <p>・卒業生アンケートの回収率が低いので、今後分析・評価をするにあたり回答率アップを考えていく必要があると思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>・11月に発行した校友会会報にアンケート回収への協力依頼が掲載された。</p> <p>・卒業生アンケート回収率アップの対策として、在学中のアンケート調査と卒業後のアンケート調査を同様な仕組みにすることで、卒業生に高知高専からの正式な調査であることが分かるような工夫の検討を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

出典「平成30年度 参加会【資料3】」

## 「JABEE 評価結果を本校教育・管理運営等に反映させていることがわかる資料-1」

## 外部評価

本校では、外部評価として参与会及び日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査を実施している。

~~~~~ (略) ~~~~~

(2) 日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査

平成 12 年に本校 4 学科に修業年限 2 ヶ年の専攻科が設置され、平成 14 年(建設工学教育プログラム)、15 年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には日本技術者教育認定機構(JABEE)によって本校全専攻の教育システム及びその内容が国際水準であると認定された。その後、平成 16 年(建設工学教育プログラム)、平成 17 年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には中間審査を受審し、平成 19 年(建設工学教育プログラム)、平成 20 年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には継続審査を受審し、日本技術者教育認定機構(JABEE)によって継続認定された。さらに、平成 23 年(物質工学教育プログラム)には中間審査を受審し、平成 24 年(建設工学教育プログラム)には継続審査を受審し継続認定された。また、平成 26 年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)には再び継続審査を受審し、日本技術者教育認定機構(JABEE)によって継続認定され、平成 29 年(機械・電気工学教育プログラム及び物質工学教育プログラム)の継続認定を申請している。

「JABEE による外部評価の状況」

| | 認定 | (中間審査) | 継続審査 | (中間審査) | 継続審査 | (中間審査) |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 建築工学教育プログラム | 平成 14 年 | 平成 16 年 | 平成 19 年 | — | 平成 24 年 | |
| 機械・電機工学教育プログラム | 平成 15 年 | 平成 17 年 | 平成 20 年 | — | — | 平成 29 年 |
| 物質工学科教育プログラム | 平成 15 年 | 平成 17 年 | 平成 20 年 | 平成 23 年 | — | 平成 29 年 |

~~~~~ (略) ~~~~~

## 外部有識者等の意見や第三者評価の結果の反映

本校では、外部有識者を構成員とする総合的な点検・評価組織として、平成 9 年度から参与会を設け、毎年開催している。会では、参与のそれぞれの社会的立場(大学教育、工学教育、企業の立場、地域教育等)からの意見やアドバイスを、直接本校の教育・管理運営等の改善策に反映させている。

また、参与会は本校の全教職員に公開されている。日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査を受審しており、本校の教育・管理運営等の改善策に反映させている。その他、学生や保護者、地

域の企業からの直接的な意見も積極的に取り入れ、点検・改善に生かしている。学生は授業評価アンケート、保護者は保護者会・後援会、また、企業、卒業生からの要望はそれぞれ対象のアンケート調査を行い、その調査結果を取りまとめ、各種委員会にフィードバックし、点検・改善を行っている。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成 30 年 3 月発行 p. 64-p66」

| 自己点検・評価委員会等 自己評価 | | 自己点検・評価委員会 | |
|---|----------------|------------|-------------|
| 担当委員会等 自己評価 | 自己点検・ 評価委員会 | 再掲 | 再掲 |
| 平成30年度「年度計画」進捗状況 | | | |
| 事務担当係 (◎=主担当係) | | 再掲 | |
| 担当委員会又は担当 部署 (◎=主担当) | | 再掲 | |
| 年度計画 | | 再掲 | |
| キーワード | | 再掲 | |
| 継続的かつ継続的に教員の質の向上を図るため、教員の総合的な評価を行う。 | | 再掲 | |
| 継続 | I 1(3)キ① | ◎人事・労務係 | ◎個人評価委員会 |
| 継続 | I 1(3)キ② | ◎人事・労務係 | ◎個人評価委員会 |
| 継続 | I 1(3)キ③ | ◎人事・労務係 | ◎個人評価委員会 |
| 継続 | I 1(3)キ④ | ◎教務係 | ◎教務委員会 |
| <p>① 教育・研究、地域振興、管理運営の活動報告</p> <p>② 自己目標と達成状況の作成、報告</p> <p>③ 教員相互評価の実施</p> <p>④ 学生による授業評価の実施</p> | | | |
| <p>・「高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動に係る評価及び運用に係る要項」に基づき、教員全員に前年度に係る教育・研究、管理運営の活動報告に係る自己申告書を5月未までに提出させた。その結果については機構の教員顕彰推薦及び学内教員表彰の推薦の基礎として活用するとともに、研究費配分の基礎資料とした。</p> <p>・全教職員を対象として、本年度に計画する自己目標を申告させるとともに、前年度目標の達成度を自己検証したもについて報告させ、学校として把握している。</p> <p>・全教員を対象として、6月20日(水)～7月20日(金)までの間、教員相互評価を無記名で実施した。教育活動、学生生活指導、教育・研究を通じた貢献、管理運営に積極的に取り組んでいる等を評価基準とした。</p> <p>・学生による授業評価アンケートの質問を本年度からは教育目標の達成状況を計るための内容に一新し、第一回目を6月から7月に、第二回目を12月に実施した。</p> <p>・教員による相互授業参観を7月から8月にかけて実施した。後学期は9月から12月にかけて実施した。</p> <p>・5年生、専攻科2年を対象に2月から3月にかけて学習教育目標達成度評価アンケートを実施した。</p> | | | |
| ア モデルコアカリキュラムに基づく教育 モデルコアカリキュラム本案に基づくシラバスに明記した、各授業の到達目標ルーブリックに対応した成績評価を検討する。 | | | |
| 新規 | I 1(4)ア① | ◎教務係 | ◎教務委員会 |
| 新規 | I 1(4)ア② | ◎教務係 | ◎教務委員会 |
| <p>① CBTによる到達度試験の導入</p> <p>② 到達目標に対応した試験問題等の検討</p> | | | |
| <p>・CBT(「数学」「物理」「一般化学」)による到達度試験を実施した。「数学」「物理」は1～3年生全員、「一般化学」は1・2年生全員が受験した。</p> <p>・「到達目標」と「試験内容」との関連を明確にする「目標-試験関連シート」の検討を行っている。</p> <p>・モデルコアカリキュラム項目に対応する実験テーマについて、対応する実験手順書と実験スキル評価シートを作成した。</p> <p>・地域協働演習の分野別実習スキルシートを作成し、来年度使用することとした。</p> <p>・到達目標に対応した情報セキュリティ教材をK-SEC公式サイトに掲載した。</p> | | | |
| イ 認証評価・JABEE評価、在学中の資格取得の推進 教育の質の保証向上を図るため、外部機関による評価を実施し、指摘事項等の改善をする。実施する内容は、次のとおり。 | | | |
| 継続 | I 1(4)イ① | ◎企画係 | ◎自己点検・評価委員会 |
| 継続 | I 1(4)イ② | ◎教務係 | ◎教務委員会 |
| <p>・建設工学のJABEE教育プログラムの通常審査を受審することとし、自己点検書を作成し6月未提出した。10月28日(日)から10月30日(火)に現地審査を受け、3月8日に6年間の認定可否が決定された。</p> <p>・JABEEプログラムの活動実績の点検・評価、及び平成31年度の計画の承認を自己点検・評価委員会(3月14日開催)において行った。</p> <p>・平成31年度に機関別認証評価を受審することとし、機関別認証評価専門部会及び作業部会の各部長が校長より指名され、作業部会において自己評価書作成作業を行っている。</p> <p>・8月21日(火)に大学改革支援・学位授与機構主催の機関別認証評価説明会及び自己点検評価担当者等に対する研修会に教員4名、事務職員6名を参加させた。</p> <p>・各委員会等に年度計画進捗状況の報告及び自己評価を依頼し、3月14日(木)開催の自己点検評価委員会において自己評価を行った。</p> <p>・学生が在学中に資格取得した技能審査について、一般科目18種のうち情報系11種を専門科目とした。変更に伴い、一般科目においては7種、専門科目においては37種を種別・等級等に応じて単位を認定した。</p> | | | |

「平成30年度（平成29年度）の設置計画履行状況等調査結果で指摘事項（意見）が
付されなかったことを示す資料」

設置計画履行状況等調査の結果について （平成30年度）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜（略）〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○指摘事項が付されなかった大学等（国立85校、公立25校、私立214校）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜（略）〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

| | | | | | |
|----|---------|------|-------------|----|------------|
| 国立 | 山梨大学 | 国立高专 | 茨城工業高等専門学校 | 私立 | 平成国際大学 |
| | 山梨大学大学院 | 国立高专 | 津山工業高等専門学校 | 私立 | 武蔵野学院大学大学院 |
| 国立 | 信州大学 | 国立高专 | 阿南工業高等専門学校 | 私立 | 開智国際大学 |
| | 信州大学大学院 | 国立高专 | 高知工業高等専門学校 | 私立 | 城西国際大学 |
| 国立 | 岐阜大学 | 国立高专 | 有明工業高等専門学校 | | 城西国際大学大学院 |
| | 岐阜大学大学院 | 国立高专 | 北九州工業高等専門学校 | 私立 | 聖徳大学大学院 |

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜（略）〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

出典「設置計画履行状況等調査の結果について（平成30年度）」

設置計画履行状況等調査の結果について （平成29年度）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜（略）〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○意見が付されなかった大学等（国立78校、公立20校、私立106校）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜（略）〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

| | | | | | |
|----|---------|------|-------------|----|------------|
| 国立 | 信州大学 | 国立高专 | 津山工業高等専門学校 | 私立 | 聖路加国際大学大学院 |
| | 信州大学大学院 | 国立高专 | 阿南工業高等専門学校 | 私立 | 聖心女子大学 |
| 国立 | 岐阜大学 | 国立高专 | 高知工業高等専門学校 | 私立 | 創価大学 |
| | 岐阜大学大学院 | 国立高专 | 有明工業高等専門学校 | 私立 | 拓殖大学大学院 |
| 国立 | 静岡大学 | 国立高专 | 北九州工業高等専門学校 | 私立 | 多摩美術大学 |

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜（略）〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

出典「設置計画履行状況等調査の結果について（平成29年度）」

「平成30年度の自己点検・評価において、実施方針（PDCAサイクル）に従い活動したことを示す資料」

【審議事項】

- (1) 高知高専 将来構想(中期計画)・平成29年度 年度計画進捗状況について
校長から、審議資料1に基づき、高知高専 将来構想（中期計画）・平成29年度年度計画進捗状況について説明があり、審議の結果、了承された。

出典「平成30年度 第1回 運営会議議事概要より抜粋」

【報告事項】

- (1) 平成29年度地域連携センター事業実績及び平成30年度地域連携センター事業計画について
地域連携センター長から、報告資料1に基づき、平成29年度地域連携センター事業実績及び平成30年度地域連携センター事業計画について報告があった。
- (2) 国立高等専門学校機構 校長・事務部長会議について
校長から、報告資料2に基づき、国立高等専門学校機構校長・事務部長会議について報告があった。

- (3) 平成30年度年度計画について
報告資料3に基づき、平成30年度年度計画が承認され、校長から年度計画の達成に向けて学校全体で取組むよう指示があった。

出典「平成30年度 第3回 運営会議議事概要より抜粋」

◎ 議 事

- 1) 平成30年度年度計画進捗状況（9月末）について

濱中委員長より資料1に基づき年度計画進捗状況の説明がされ、審議の結果了承された。委員長から引き続き年度計画に従って実施するよう依頼がされ、次回は12月末時点での進捗状況報告及び自己評価の提出を求める予定であることが説明された。

出典「平成30年度 第6回 自己点検・評価委員会議事概要より抜粋」

3. 配付資料

資料1 平成30年度年度計画進捗状況表（12月末）

4. 議 事

- 1) 平成30年度年度計画進捗状況（12月末）について

- 2) その他

出典「平成30年度 第9回 自己点検・評価委員会議事概要より抜粋」

【審議事項】

- (1) 高知高専 将来構想(中期計画)・平成30年度 年度計画進捗状況について
教務主事から、審議資料1に基づき、高知高専 将来構想(中期計画)・平成30年度年度計画進捗状況について説明があり、審議の結果、了承された。

出典「2019年度 第1回 運営会議議事概要より抜粋」

~~~~~ (略) ~~~~~

**評価結果の改善**

本校においては、平成26年4月1日に策定した「第3期中期計画・年度計画 PDCA サイクル」により、「Plan:計画」、「Do:実施及び運用」、「Check:点検・検証」、「Action:改善・見直し」などに関して、運営会議、企画委員会、自己点検評価委員会、関係委員会により毎年業務の改善・見直しを実施する仕組みが構築されている。

企画委員会及び自己点検評価委員会の審議事項は、それぞれの規則に明記されている。

実務的な流れとしては、「中期計画・年度計画 PDCA サイクルに係る年間スケジュール」により実施されている。本校の特長的な点としては、年度当初に作成した年度計画のExcel表に、関係委員会等が事項ごとに進捗状況や実施予定を追記していき、関係委員会等で自己評価点(AA, A, B, Cの4段階評価(AA:計画を上回って実施できた, A:計画どおり実施できた(実施予定), B:計画が十分に実施できていない, C:計画が全く実施できていない)による評価を行い、さらに自己点検評価委員会でそれらについて評価を行う。これら一連の運用管理を、年度計画のExcel表により行うことで、情報共有が図られ、進捗管理がスムーズに行われている。さらに、次年度にも継続されていくことにより、PDCAサイクルが効率的かつ継続的に行われている。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.65」

「前回の機関別認証評価における「改善を要する点」として指摘された事項」

基準1 高等専門学校の目的

- 1-1 高等専門学校の目的（高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等）が明確に定められており、その内容が、学校教育法に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであること。また、学科及び専攻科ごとの目的が明確に定められていること。
- 1-2 目的が、学校の構成員に周知されているとともに、社会に公表されていること。

【改善を要する点】

- 準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標の表記において、違いが不明瞭であり、特に準学士課程の学生にとって、具体的な目標がわかりにくい形となっている。
- 完成教育としての準学士課程の位置付けが不明瞭である。
- 準学士課程における卒業時に身に付ける学力・資質・能力の学生の周知状況が十分とは言えない。

~~~~~ (略) ~~~~~

**基準5 教育内容及び方法****(準学士課程)**

- 5-1 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。
- 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。
- 5-3 豊かな人間性の涵養に関する取組が適切に行われていること。
- 5-4 成績評価や単位認定、進級・卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。

**(専攻科課程)**

- 5-5 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。
- 5-6 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。
- 5-7 教養教育や研究指導が教育の目的に照らして適切に行われていること。
- 5-8 成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。

**【改善を要する点】**

- 準学士課程、専攻科課程を含め、複数年度に渡る同一内容の試験問題の出題、成績評価の根拠が不明瞭な科目が散見される。

## &lt;準学士課程&gt;

- 準学士課程の1年次から3年次に配置された授業科目のシラバスには、学習・教育目標との関連が明記されていない。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「平成24年度 機関別認証評価の評価結果より抜粋」

「準学士課程の学習・教育目標が新しく整備され、それが明示されていることがわかる資料」

【教育方針】

学生自らすすんで実践することによって、学問的・技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる。

ソーシャルデザイン工学科

■ディプロマポリシー

高知工業高等専門学校（略称；高知高専）では、「学生自らすすんで実践することによって、学問的・技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる。」の教育方針に基づき教育課程を編成し、以下の能力を備えた人材を育成する。

（育成する人材像）

技術や情報が急速に高度化・多様化する現代のダイナミックな変化に即応できるよう、幅広い分野の知識・技術に触れ、自ら選択した特定領域の専門知識と他分野の知識を複合・融合できるハイブリッド型の知識・技術を備えた人材を育成する。また、倫理観と社会的責任感をもって主体的に行動でき、地域や世界が抱える課題を解決するための、判断力、実行力、チーム力などの人間力を備えた人材を育成する。

（学習・教育目標）

- (A) 倫理観と社会的責任感をもって行動できる
- (B) 幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる
- (C) 専門領域の知識・技術を修得し、地域社会に貢献できる
- (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる
- (E) 地域や世界が抱える課題解決のための創造力と技術力、チーム力が発揮できる

（卒業認定）

教育方針に基づく教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位（準学士（工学））を授与する。

【エネルギー・環境コース】

電気・電子システム技術の中心となる、生活を豊かにする情報通信技術とエレクトロニクス、生活を支える環境に優しい電気エネルギー技術やその環境技術を幅広く学び、高度情報化社会を支えるハードウェア、ソフトウェアからシステムまでをデザインできる実践的な技術を修得し、これからの社会をリードする電気・電子・情報通信システム産業及びエネルギー関連産業を担う人材を育成する。

~~~~~（略）~~~~~

出典「高知高専 HP:

<https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019psd1.pdf>」

## 5. 議題等

### 【審議事項】

(1) 3つのポリシーの改正について

教務主事から、審議資料1に基づき、3つのポリシーの改正について説明があり、審議の結果承認された。

(2) 平成31年度労使協定について

事務部長から、机上配付資料に基づき、平成31年度労使協定案について説明があり、審議の結果承認された。

出典「平成30年度 第12回 運営会議議事概要より抜粋」

「ディプロマ・ポリシーが学生に周知されていることがわかる資料」



出典「学生便覧 表紙」

はじめに

■ディプロマポリシー（ソーシャルデザイン工学科）  
 高知工業高等専門学校（略称：高知高専）では、「学生自らすすんで実践することによって、学問的・技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の厚い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることが目指される。」の教育方針に基づき教育課程を編成し、以下の能力を備えた人材を育成する。

（育成する人材像）

技能や情報が急速に高度化・多様化する現代のダイナミックな変化に対応できるよう、幅広い分野の知識・技術に触れ、自ら選択した特定領域の専門知識と複合的な知識を複合・融合できるハイブリッド型の知識・技術を備えた人材を育成する。また、倫理感と社会的責任感をもって主体的に行動でき、地域や世界が抱える課題を解決するための、判断力、実行力、チーム力などの人間力を備えた人材を育成する。

（学習・教育目標）

- (A) 倫理感と社会的責任感をもって行動できる
- (B) 幅広い知識・技術を融合・協調・相乗である
- (C) 専門領域の知識・技術を修得し、地域社会に貢献できる
- (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる
- (E) 地域や世界が抱える課題解決のための創造力と技術力、チーム力が発揮できる

（卒業認定）

教育方針に基づき「教育課程を修め、規定する期間以上在学し、最終な成績評定に基づき所定の単位を取得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位（准学士（工学））を授与する。」

出典「学生便覧 p.1」

~~~~~ (略) ~~~~~

教育目的の学校の構成員への周知

本校の教育方針，教育目的については「学生便覧」に掲載されている。また専攻科の目的，教育方針は「学生便覧」及び「専攻科学生の手引」に掲載されている。さらに，教育目的及び学習教育目標は本校ウェブサイトにも掲載している。

「学生便覧」と「専攻科学生の手引」は毎年度当初に開かれる教員会において全教員にも配布し目的の周知が図られている。新任教員には，採用時に学生便覧等を配布し教育方針等を確認させるとともに，年度当初に開催される新任教員ガイダンスにおいて教務主事から本校の教育目的の説明が直接行われている。また，毎年度当初に開かれる教員において校長が説明を行うことにより本校の教育方針の確認を行っている。

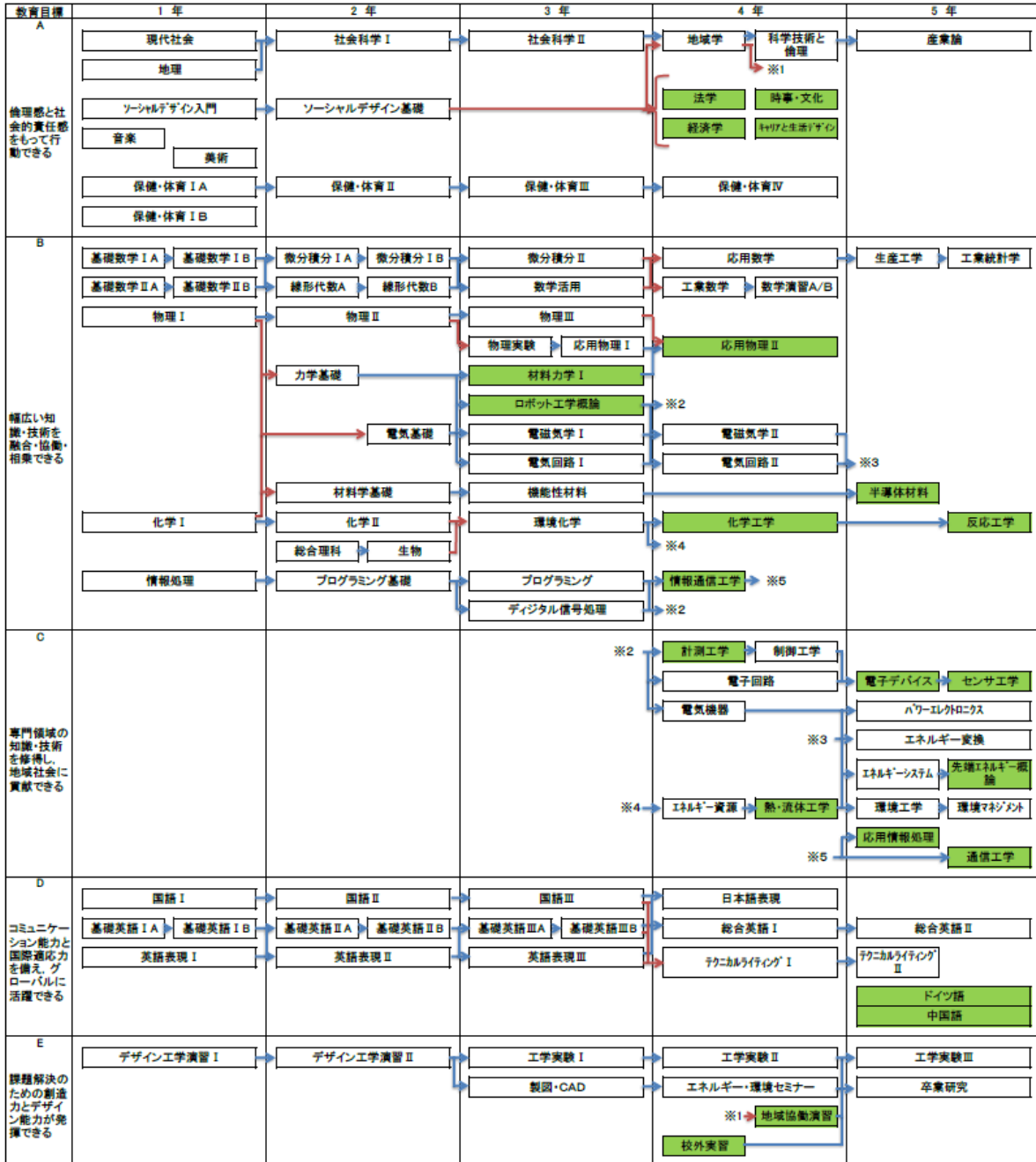
準学士課程の全学生に対しては「学生便覧」が配布され，担任を通じて教育目的の説明が行われている。また，準学士課程の全学生が出席する年度当初の始業式において，校長及び教務主事が本校の教育方針について説明を行っている。「学生便覧」は冊子として配布されているだけでなく，全学生及び全教員に貸与されている携帯情報端末からも簡単に閲覧できるようになっており，学生が本校の教育目的を確認するための利便性が図られている。専攻科学生には「専攻科学生の手引」を配布し，目的の周知を図っている。専攻科学生に対しても，毎年度当初に行われる全専攻科生オリエンテーションにおいて，校長及び専攻科長が教育方針，専攻科の教育目的の説明を行っている。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.8」

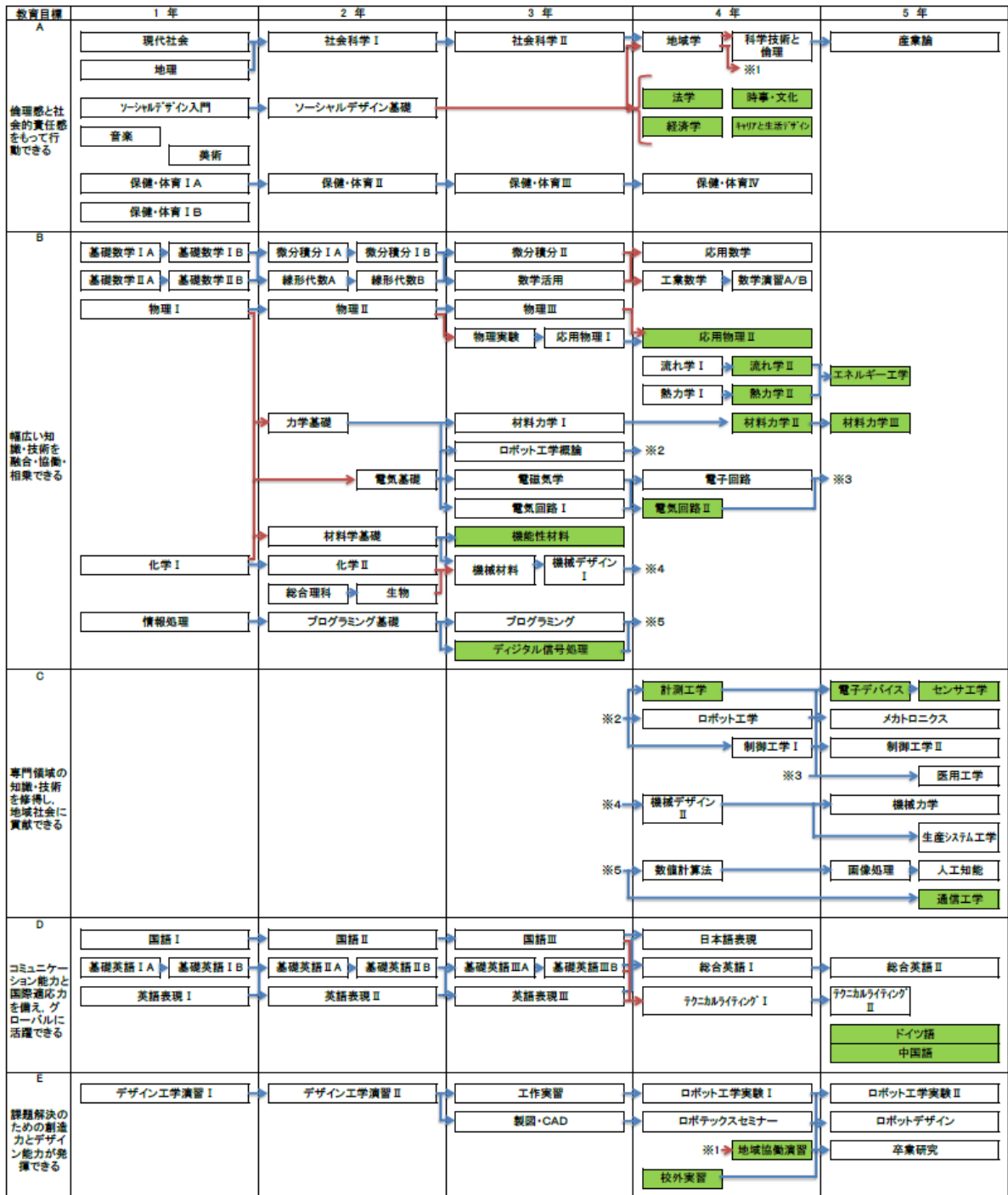
「準学士課程における授業科目と学習・教育目標との関連がわかる資料」

高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科エネルギー・環境コース科目関連図



：選択科目

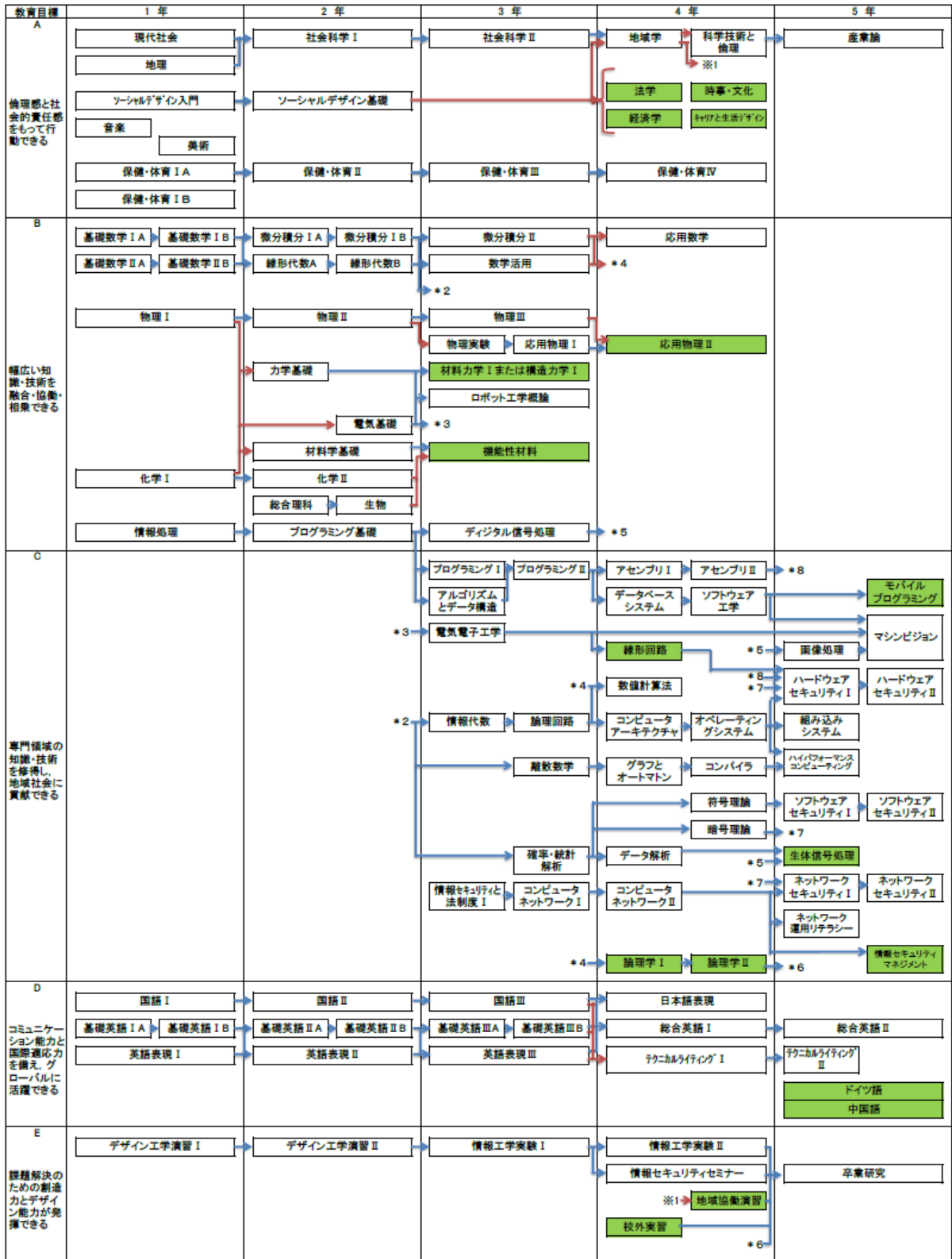
高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科ロボティクスコース科目関連図



：選択科目

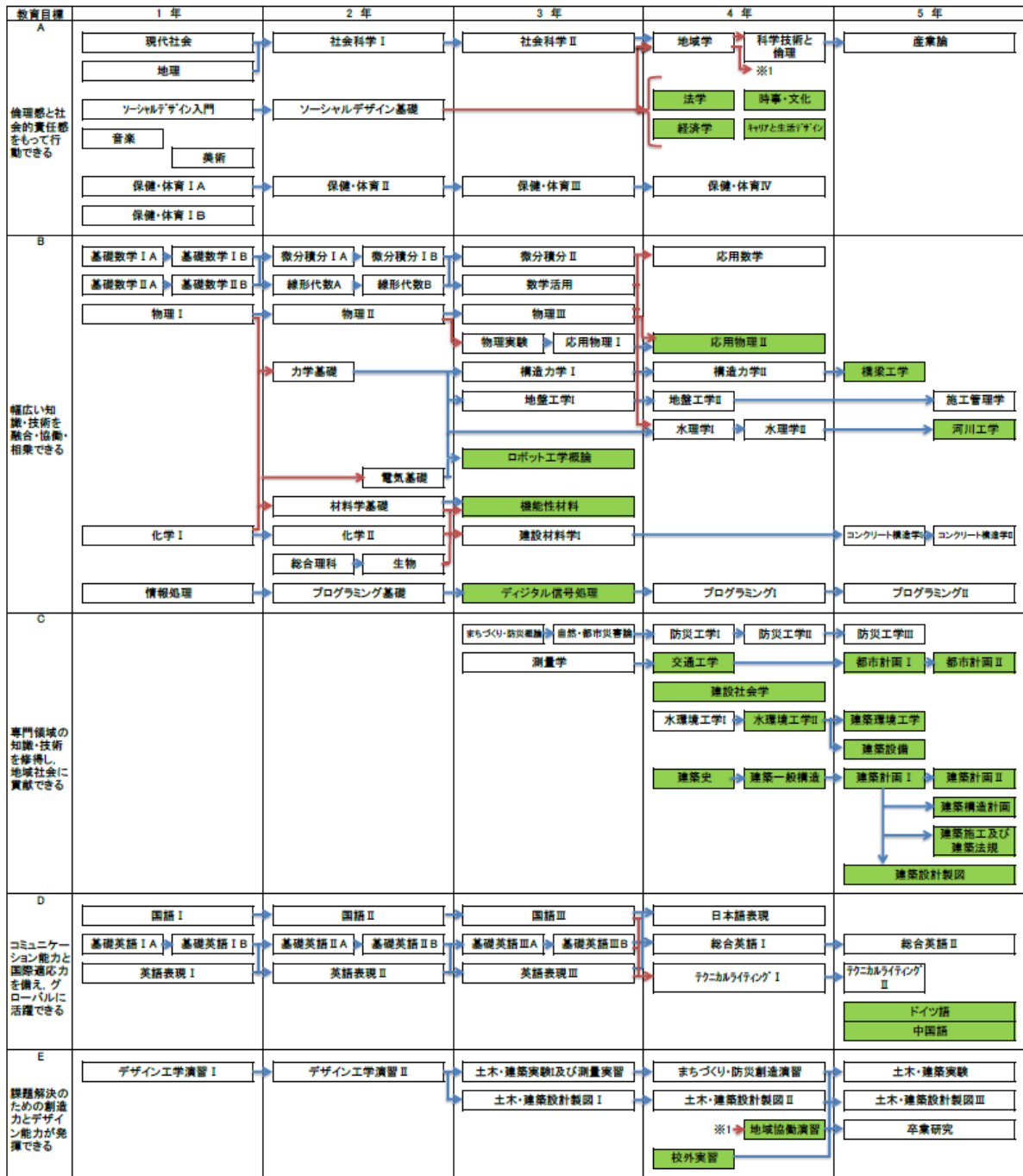


高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学情報セキュリティコース科目関連図



選択科目

高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科まちづくり・防災コース科目関連図



緑色背景 : 選択科目

出典「ソーシャルデザイン工学科科目関連図」

「成績評価において、到達目標、ルーブリック、評価割合等を明記したシラバスを活用していることを示す資料」

~~~~~ (略) ~~~~~

5. 授業及び学業成績

カリキュラムについては、①本科と専攻科7年一貫の教育プログラム、②中学校学習指導要領改訂を考慮した教授内容、③JABEEの指定する学習保証学習時間の確保などにご留意ください。

~~~~~ (略) ~~~~~

### (2) 学業成績の評価

授業科目の成績評価は、試験・実技・作品・提出物・論文等の成績及び平素の学習状況等を総合的に考慮して評価してください。評価方法についてはシラバス（評価割合）に明記して最初の授業で学生に周知してください。

学業成績は、前学期中間、前学期末、後学期中間及び学年末とも学年始めからの総合評価とし、100点満点で表示してください。

※3時間以上の連続科目については、成績処理電算システム（Campus Assist）に時数を入力する際、1.1倍の値を入力してください。

※免除科目学生については、成績、遅刻、欠課の欄は全て空白でお願いします。（教務係にて入力いたします）

なお、同一学年で開講される同一科目の学年成績は、担当教員が異なることによる学級間の不公平を生じないように、授業科目毎に学年で統一して評価してください。

（注）授業科目の学級平均は70点以上となるよう、授業内容や出題レベルなどご配慮ください。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「2019年度 第1回教員会 配布資料 教務関係留意事項 p.3-p.4」

<準学士課程>

~~~~~ (略) ~~~~~

### シラバスの作成と活用

教育課程の編成は教務委員会で審議される。その趣旨に沿ったシラバスの記載内容は、毎年統一した様式で作成されている。シラバスには、科目基礎情報（授業科目、科目番号、科目区分、授業の形態、単位の種別と単位数、開設学科、対象学生、開設期、時間/週、教科書/教材、担当者）に加え、到達目標、評価（ルーブリック）、学科の到達目標項目との関係、教育方法等、授業計画、評価割合が記載されており、到達目標に対し、達成度の評価基準・方法を記述している。年に2回、学生による授業評価アンケートが実施され、それにはシラバスどおりの講義が実施されたかに関する質問事項(Q2, Q9)があり、その結果は教員と学生にもウェブサイトで開示されている。

本校では、平成27年度からはWebシラバスシステムを導入しているが、平成30年度シラバス（平成29年度作成）以降は、高専教育の質保証となるモデルコアカリキュラム（本案：平成29年5月に確定）の学習内容とも対応させたシラバスとしている。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.25」

<専攻科課程>

~~~~~ (略) ~~~~~

### シラバスの作成と活用

シラバスは毎年作成しており，本校のウェブサイトからの参照が可能である。シラバスの作成方法は統一されており，各授業において，最初の授業時にシラバスのコピーを配付し，授業開始にあたってその内容を説明することを授業担当教員に義務付けている。

教育課程における当該科目の位置づけ及び関連科目との連続性を受講学生が把握できるようにしている。1単位の講義及び演習においては，それぞれ30及び15時間の自学自習を行うようにしている。例えば「構造解析特論」では，60時間以上の自学自習を義務づけさせる取組みとして，毎回課題レポートを課している。

年度末に行う学生による授業評価アンケートでは，シラバスどおりに授業が行われたかを問う質問項目があり，その結果は学生にも公表される。また教員は，この結果をもとに授業進捗のチェックや成績評価においてシラバスを活用し，授業の改善や次年度のシラバスに反映している。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.31」

「評価結果にもとづいて改善に向けた取組を行った事例を示す資料」

~~~~~ (略) ~~~~~

## 外部有識者等の意見や第三者評価の結果の反映

本校では、外部有識者を構成員とする総合的な点検・評価組織として、平成9年度から参与会を設け、毎年開催している。会では、参与のそれぞれの社会的立場(大学教育、工学教育、企業の立場、地域教育等)からの意見やアドバイスを、直接本校の教育・管理運営等の改善策に反映させている。

また、参与会は本校の全教職員に公開されている。日本技術者教育認定機構(JABEE)による継続審査を受審しており、本校の教育・管理運営等の改善策に反映させている。その他、学生や保護者、地域の企業からの直接的な意見も積極的に取り入れ、点検・改善に生かしている。学生は授業評価アンケート、保護者は保護者会・後援会、また、企業、卒業生からの要望はそれぞれ対象のアンケート調査を行い、その調査結果を取りまとめ、各種委員会にフィードバックし、点検・改善を行っている。

| 「管理運営に具体的に反映された事例」 |                                                                                                                                                                    |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| No.                | 事 項                                                                                                                                                                |
| 1                  | 平成25年度に開催された参与会において得られた「中学卒業後すぐに専門的な学科に所属させるより、間口を広げて、学年進行と共に専門化していく方がよい。」との意見を参考に、平成28年度より学科改組を行い、学科を1学科として1・2年生は全員が基礎教育を学び、3年生からコース(5コースより)を選択して専門的知識を学ぶ制度に変更した。 |
| 2                  | 平成25年度に開催された参与会で、「入学者確保する上で、交通アクセスの不便さを解消する必要があるのでは」とのご意見を参考に、平成27年4月から、スクールバスの運行を開始した。                                                                            |
| 3                  | 平成26年度に開催された参与会で、「高知高専が開発した「つながっタワー」を全国に発信してほしい」とのご意見を頂き、ものづくり日本大賞に応募し、内閣総理大臣賞を受賞した。                                                                               |
| 4                  | 平成27年度に開催された参与会で、「グローバル化の進展によりユニークな発想がもてる学生が育つ事を期待する」とのご意見を頂き、オーストラリアの語学研修を継続し、3年次での台湾における海外研修を新たに計画し、現在は、研修時における現地での学生交流も視野に台湾聯合大学と協定を結ぶなどの準備を進めている。              |
| 5                  | 平成27年度に開催された参与会で、「高知高専としての独自性や文化を大切にしてほしい」とのご意見を契機に、平成29年度“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ事業へ「地域をフィールドとして展開するIoT技術教育」と「学外と連携するセキュリティ人材育成プログラム」の二つの事業を申請し採択された。                |

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.65-p.66」

「本校における三つの方針が策定されたことが分かる資料」

議題

1. [redacted]との調印式報告及び海外インターンシップへの参加について
[redacted]から、資料に基づき、[redacted]との調印式報告及び海外インターンシップへの参加について報告があった。

2. 本校における三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の策定について
[redacted]から、資料に基づき、本校における三つの方針の策定について、説明があった。
なお、11月中に作成例が機構本部から示される予定であるので、示されてから策定することとなった。

出典「第11回 学科再編推進会議 議事概要より抜粋」

議題

1. 三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）策定について
[redacted]から、資料1に基づき三つの方針策定について説明があり、審議の結果コース単位ではなく、学科単位で策定していくことが承認された。

出典「第12回 学科再編推進会議 議事概要より抜粋」

議題

1. 高知高専における三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）について（案）（ソーシャルデザイン工学科長）
資料 1. 高知高専における三つの方針について（案）

出典「第13回 学科再編推進会議より抜粋」

議題

1. 高知高専における三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）について（案）（ソーシャルデザイン工学科長）
資料 1. 高知高専における三つの方針について（案）

出典「第14回 学科再編推進会議より抜粋」

議題

1. 学科再編推進室メンバーについて

から別紙1に基づき、平成30年度の学科再編推進室メンバーの確認がなされ、次年度も同様の体制で実施したい旨の説明があった。

2. 各部会について

別紙2により組織された各部会長から進捗状況についての報告があり、併せて内容確認等の協力依頼があった。

【点検・評価検討部会】

から別紙3に基づき、3つのポリシーについて新学科と旧学科（継続4学科）の作成についての説明があった。新学科のコースについては、各コース長に内容を確認いただき、修正等がある場合は3月11日までに部会長に連絡するよう依頼があった。

【運営体制検討部会】

から別紙4に基づき、ソーシャルデザイン工学科学士の学年進行に伴い、開講計画立案の際に生じるコース間教員調整等の問題点について説明があった。今後検討や実施が必要とされる事案（学科会議の定例化、電子ツールを使用するの情報共有化、卒業研究や地域協働演習等）について問題提起がなされた。

【専攻科改組検討部会】

から別紙5に基づき、専攻科改組についての概要説明があった。昨年末機構本部でのヒアリングを経て、3月末を目途に検討を進めている修正案の方向性が示された。

出典「第17回 学科再編推進会議 議事概要より抜粋」

5. 議題等

【審議事項】

(1) 3つのポリシーの改正について

教務主事から、審議資料1に基づき、3つのポリシーの改正について説明があり、審議の結果承認された。

(2) 平成31年度労使協定について

事務部長から、机上配付資料に基づき、平成31年度労使協定案について説明があり、審議の結果承認された。

出典「平成30年度 第12回 運営会議議事概要より抜粋」

「ソーシャルデザイン工学科として定めているディプロマ・ポリシー」

ソーシャルデザイン工学科**■ディプロマポリシー**

高知工業高等専門学校（略称；高知高専）では、「学生自らすすんで実践することによって、学問的・技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる。」の教育方針に基づき教育課程を編成し、以下の能力を備えた人材を育成する。

（育成する人材像）

技術や情報が急速に高度化・多様化する現代のダイナミックな変化に即応できるよう、幅広い分野の知識・技術に触れ、自ら選択した特定領域の専門知識と他分野の知識を複合・融合できるハイブリッド型の知識・技術を備えた人材を育成する。また、倫理観と社会的責任感をもって主体的に行動でき、地域や世界が抱える課題を解決するための、判断力、実行力、チーム力などの人間力を備えた人材を育成する。

（学習・教育目標）

- (A) 倫理観と社会的責任感をもって行動できる
- (B) 幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる
- (C) 専門領域の知識・技術を修得し、地域社会に貢献できる
- (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる
- (E) 地域や世界が抱える課題解決のための創造力と技術力、チーム力が発揮できる

（卒業認定）

教育方針に基づく教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位（準学士（工学））を授与する。

【エネルギー・環境コース】

電気・電子システム技術の中心となる、生活を豊かにする情報通信技術とエレクトロニクス、生活を支える環境に優しい電気エネルギー技術やその環境技術を幅広く学び、高度情報化社会を支えるハードウェア、ソフトウェアからシステムまでをデザインできる実践的な技術を修得し、これからの社会をリードする電気・電子・情報通信システム産業及びエネルギー関連産業を担う人材を育成する。

【ロボティクスコース】

介護や福祉、災害救助をはじめ、医療・福祉・農業・食品加工分野など社会で実際に活用・実装が期待されているロボットテクノロジーについて幅広い知識を身に付けるとともに、基幹産業として今後の発展が期待されているロボット関連産業を担い、地域社会でこれらの産業を育成できる幅広い知識と技術を持ち、人々の社会生活をデザインできる人材を育成する。

【情報セキュリティコース】

高度情報化社会で重要となる情報関連技術について、基礎から応用まで幅広い知識を身に付けるとともに、情報通信、ネットワーク、ハードウェアを含めたコンピュータシステム、特に情報セキュリティに関する知識と実践的な技術を修得し、人々の健全で安心・安全な暮らしと豊かな社会をデザインするとともに、その実現に貢献できる専門的・学際的な人材を育成する。

【まちづくり・防災コース】

土木・建築を主とした幅広い専門知識を融合し、社会基盤としての「まちづくり・住まいづくり」ができ、また地震・洪水などの自然災害から人々の暮らしを守る防災技術をもち、防災関連産業の振興や防災関連技術の発展に寄与でき、地球全体を視野に入れた環境を総合的にデザインできる人材を育成する。

【新素材・生命コース】

化学や生物学の基礎から応用までの幅広い知識をもとに、化学工業・環境・情報通信・精密機器分野などで利用されている高機能材料並びに医薬品製造・食品産業・環境分野などで生物の機能を活かす生命科学に関する知識と実践的な技術を修得し、地域社会からグローバル社会において、これからの未来を支える新素材及び生命科学関連産業の担い手になるべく、人類に有益なモノをデザインできる人材を育成する。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「高知高専 HP: <https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019psd1.pdf>」

## 「継続4学科として定めているディプロマ・ポリシー」

## 継続4学科

## ■ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

上記の教育方針に基づき、学習・教育目標の以下の3つの項目に掲げた知識及び能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. 基本的人格と社会的責任（技術者倫理）
2. 基礎的技術の習得と専門的技術の活用（技術者知識）
3. 豊かな創造力と行動力（技術者能力）

## 【機械工学科】

5年一貫教育による早期・実践的技術者教育の特色のもとに、以下の学習・教育目標を掲げている。

## 1. 基本的人格と社会的責任（技術者倫理）

(A) 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者

- ① 地球環境と人間社会の相互関係を認識し、技術的活動が環境に与える影響について学ぶこと
- ② 人間社会の要素である経済・文化・宗教について認識し、地球規模での人間・文化・技術的活動の依存関係を学ぶこと

## 2. 基礎的技術の修得と専門的技術の活用（技術者知識）

(B) 早期一貫教育による数学・自然科学や機械工学に関する専門的な知識・技術

- ① 数学の基礎知識をもとに、応用数学に関する知識を理解すること
- ② 物理、化学等の基礎知識をもとに、物理学に関する知識を理解すること
- ③ 機械工学の各分野における専門的基礎知識・技術を理解すること
- ④ 機械工学と電気工学の融合領域を学ぶための専門基礎となる電気基礎、電気・電子工学、制御工学、計測工学、プログラミングや実験科目に関する知識・技術を理解すること

(C) 実験・実習を重視して培われた実践的技術

- ① 具体的な現象に対して、装置などを用いて適切なデータ収集・処理ができること。さらに、得られた結果を、専門的知識や方法により分析し、考察できること

(D) 環境、福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー、制御・情報、設計を含む知識・技術

- ① 環境問題の改善に役立つ知識・技術を学ぶこと
- ② 福祉の増進に役立つ制御・情報に関連した知識・技術を学ぶこと
- ③ 機械の技術的な要請や課題に対し、幅広い視点に立った設計に関わる知識・技術を学ぶこと

(E) 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力

- ① 日本語でわかりやすく実用的な文章が書けること。また、相手の話を正しく理解し、それに適切に応答できること
- ② 英語の基本構造(文法)を確実に身に付け、一般のおよび専門的な英文も辞書さえあれば「読み」、「書き」できること
- ③ 「聞く」、「読む」の技能に重点をおいた実践的な英語能力を身につけること
- ④ 外国語の勉強を通して、日本語との発想や論理の違いを理解すること

## 3. 豊かな創造力と行動力（技術者能力）

(F) 豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力

- ① 機械工学に関する専門的知識や実践的技術を基礎として、学術的な研究課題に対する自主的な調査・計画・研究等を行えること
- ② 機械工学に関する基本的な専門知識の上に、より高度で専門的な機械工学に関する総合知識を理解し、技術的諸問題に自ら取り組み解決ができること
- ③ 要求される課題に対して必要な技術や科学を使いこなすことのできる豊かな創造力と企画力を持つこと

### 【電気情報工学科】

5年一貫教育による早期・実践的技術者教育の特色のもとに、以下の学習・教育目標を掲げている。

#### 1. 基本的人格と社会的責任（技術者倫理）

##### (A) 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者

- ① 地球環境と人間社会の相互関係を認識し、技術的活動が環境に与える影響について学ぶこと
- ② 人間社会の要素である経済・文化・宗教について認識し、地球規模での人間・文化・技術的活動の依存関係を学ぶこと

#### 2. 基礎的技術の修得と専門的技術の活用（技術者知識）

##### (B) 早期一貫教育による数学・自然科学や電気情報工学に関する専門的知識・技術

- ① 数学の基礎知識をもとに、応用数学に関する知識を理解すること
- ② 物理、化学等の基礎知識をもとに、物理学に関する知識を理解すること
- ③ 電機情報工学の各分野における専門的基礎知識・技術を理解すること
- ④ 機械工学と電気工学の融合領域を学ぶための専門基礎となる機械工学基礎、機械工学、制御工学、プログラミングや実験科目に関する知識・技術を理解すること

##### (C) 実験・実習を重視して培われた実践的技術

- ① 具体的な現象に対して、装置などを用いて適切なデータ収集・処理ができること。さらに、得られた結果を、専門的知識や方法により分析し、考察できること

##### (D) 環境、福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー、制御・情報、設計を含む知識・技術

- ① 環境問題の改善に役立つ知識・技術を学ぶこと
- ② 福祉の増進に役立つ制御・情報に関連した知識・技術を学ぶこと
- ③ 電気情報の技術的な要請や課題に対し、幅広い視点に立った設計に関わる知識・技術を学ぶこと

##### (E) 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力

- ① 日本語でわかりやすく実用的な文章が書けること。また、相手の話を正しく理解し、それに適切に応答できること
- ② 英語の基本構造(文法)を確実に身に付け、一般のおよび専門的な英文も辞書さえあれば「読み」、「書き」できること
- ③ 「聞く」、「読む」の技能に重点をおいた実践的な英語能力を身につけること
- ④ 外国語の勉強を通して、日本語との発想や論理の違いを理解すること

#### 3. 豊かな創造力と行動力（技術者能力）

##### (F) 豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力

- ① 電気情報工学に関する専門的知識や実践的技術を基礎として、学術的な研究課題に対する自主的

- な調査・計画・研究等を行えること
- ② 電気情報工学に関する基本的な専門知識の上に、より高度で専門的な電気情報工学に関する総合知識を理解し、技術的諸問題に自ら取り組み解決ができること
- ③ 要求される課題に対して必要な技術や科学を使いこなすことのできる豊かな創造力と企画力を持つこと

## 【物質工学科】

5年一貫教育による早期・実践的技術者教育の特色のもとに、以下の学習・教育目標を掲げている。

### 1. 基本的人格と社会的責任（技術者倫理）

#### (A) 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者

- ① 地球環境との関わりの中で科学技術のあり方を理解できる
- ② 法律、経済、価値観、文化等幅広い教養基礎知識を理解し、相互理解を深めることができる
- ③ 技術者の社会的責任を数多くの問題事例、疑似体験等を通じて風格高い人間・技術者像が理解できる

### 2. 基礎的技術の修得と専門的技術の活用（技術者知識）

#### (B) 早期一貫教育による数学・自然科学や化学及び生物に関する専門基礎知識

- ① 5年間一貫教育として低学年から継続的に数学、物理、情報技術の基礎と応用を理解できる
- ② 応用数学、情報処理技術などを含む工学基礎を理解できる
- ③ 単位、化学量論、移動現象などの化学工学の基礎を理解できる
- ④ 化学及び生物に関する基礎的な知識を理解できる

#### (C) 実験・実習を重視して培われた実践的技術

- ① 5年一貫教育として低学年から継続的に実践的技術を習得することができる
- ② 高度な専門分野の実践的技術を習得することができる

#### (D) 地域貢献や発展を目指した、新素材・バイオ・環境保全などに関する専門応用知識

- ① 新素材に関する知識や技術を理解できる
- ② 生物工学に関する知識や技術を理解できる
- ③ 環境工学に関する知識や技術を理解できる

#### (E) 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力

- ① 日本語の記述方法・表現能力の基礎を通じてそのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけることができる
- ② 基礎的な英語表現能力から専門の英語文献講読のための英語基礎構造を理解できる
- ③ 「聞く」、「読む」の技能に重点をおいて TOEIC テストに対応できる実践的な英語能力を身につけることができる
- ④ 「話す」、「聞く」に焦点をあてた英語によるコミュニケーション能力を身につけることができる
- ⑤ いろいろな言語とその文化・社会について広い視野から触れ、国際的に通用する視点を持つことができる

### 3. 豊かな創造力と行動力（技術者能力）

#### (F) 豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力

- ① 物質工学に関する専門的知識と実践的技術を自主的、計画的、継続的に学習できる能力を身につけることができる
- ② 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、その成果をまとめる能力を身につけることができる
- ③ 基本的な専門知識と実践的技術を社会が要求する学術研究課題や技術的諸問題の解決に利用できる応用能力、デザイン能力、マネジメント能力、チーム能力を身につけることができる

### 【環境都市デザイン工学科】

5年一貫教育による早期・実践的技術者教育の特色のもとに、以下の学習・教育目標を掲げている。

#### 1. 基本的人格と社会的責任（技術者倫理）

##### (A) 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者

- ① 地球環境との関わりの中で科学技術のあり方を学ぶこと
- ② 法律、経済、価値観、文化など幅広い教養基礎知識を学ぶこと
- ③ 技術者の社会的責任を学ぶこと

#### 2. 基礎的技術の修得と活用（技術者知識）

##### (B) 早期一貫教育による数学・自然科学や専門基礎に関する知識

- ① 5年一貫教育として低学年から継続的な数学知識と応用を理解すること
- ② 自然科学の基礎から物理学的素養を中心とした継続的な自然科学知識を学ぶこと
- ③ 建設工学の専門的基礎知識を理解すること

##### (C) 実験・実習を重視した実践的技術

- ① 5年一貫教育として低学年から継続的に実践的技術を習得すること

##### (D) 地域特性を生かした環境・防災・情報などを含む総合的知識

- ① 低学年から継続的に最新情報技術の基礎知識を理解すること
- ② 高知県地域に必須の環境・防災・情報等の知識を総合的に学ぶこと

##### (E) 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力

- ① 日本語でわかりやすく実用的な文章が書けること。また、相手の話を正しく理解し、それに適切に応答できること
- ② 基礎的な英語表現能力から、専門英語文献講読のための英語基礎構造を理解すること
- ③ 「聞く」、「読む」の技能に重点をおいた実践的な英語能力を身につけること
- ④ いろいろな言語とその文化・社会について広い視野から触れること
- ⑤ 技術的な研究課題をまとめ、論理的に記述できること

#### 3. 豊かな創造力と行動力（技術者能力）

##### (F) 豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力

- ① 基本的な専門知識と実践的技術から、基礎的な学術研究課題に主体的に取り組むこと
- ② より高度で専門的課題や技術的諸問題に対して適応できる能力を身につけること

~~~~~ (略) ~~~~~

「ソーシャルデザイン工学科として定めているカリキュラム・ポリシー」

ソーシャルデザイン工学科

~~~~~ (略) ~~~~~

## ■カリキュラムポリシー

(教育課程の編成及び基本方針)

ディプロマポリシーの学習・教育目標の 5 つの能力を育成するために、体系的な教育課程を編成する。授業は、講義、演習、実験・実習等の多彩な方法・形態等を適切に組合せて行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとするために一般科目、専門科目に分類する。学生が選択した分野で必須の知識を教授する必修科目と幅広い知識を得るための選択科目により編成する。

5年間の教育課程において、(B) 幅広い知識・技術をもったハイブリッド型人材を育成するために、1・2年次は全学生に対して工学基礎知識（力学、電気、情報、材料）及び工学基礎技術（機械系、電気系、情報系、土木・建築系、化学・生物系の実験・実習）を修得する。特に、工学を学ぶ上で必要な基礎学力を定着させるため、理数系科目（数学・物理）においては習熟度別授業を実施し、人文・社会科学系科目を中心にアクティブラーニングも取り入れている。

3年次からは各専門コース分野における(C) 専門領域の知識・技術を修得するため、それらに対応した実践的な技術を実験・実習を通じて学び、他分野の選択科目によって(B) 幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる能力を身に付けることができ、地域協働演習・セミナーや卒業研究において(E) 課題解決のための創造力と技術力、チーム力を育成する。

5年間を通して一貫したキャリア教育を行うとともに、(D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる能力を身につけるために英語教育の一層の充実（多読・多聴学習、英会話、ICT活用教育等）、また英語 PBL 活動を取り入れることによる英語運用能力を育成し、リベラルアーツ科目を充実させることにより、(A) 倫理観と社会的責任感をもって行動できる能力を養い、社会人基礎力を育成できるよう、科目設定は学年ごとの学習活動の継続性にも留意している。

各コースの教育課程は「授業科目関連図」に示すとともに、各科目の授業内容・方法、学習到達度評価基準（ルーブリック観）等は、Web シラバスにおいて公開し、学生に周知する。単位修得の認定はシラバスに記載された評価基準を適用して厳格に行う。

## 【エネルギー・環境コース】

エネルギー・環境コースは、電気工学、電子工学を中心とした電気・電子システム並びに環境とエネルギーマネジメントに関係した専門基礎科目のほかに、周辺分野技術として要求の高い情報系、機械系並びに化学系のいずれか若しくは全ての専門性が高められるよう、情報系には「情報通信工学」や「応用情報処理」など、機械系には「ロボット工学」や「熱・流体工学」など、化学系には「化学工学」や「反応工学」などの選択科目を設定する。また、電気・電子システム系に加え、将来の職業選択を考慮して製図、工作実習、組込みプログラミングを「工学実験 I・II・III」で、電気・電子システム、電力、情報通信、電気電子材料・機能素子などのテーマに関わる総合的な力を「エネルギー・環境セミナー」と「卒業研究」などで養い、知識・技術の

両面から新しい創造能力を涵養する。

### 【ロボティクスコース】

ロボティクスコースは、機械工学と電気電子工学に関連する専門基礎科目のほかに、ロボット設計、ロボット制御並びに機械工学のいずれか若しくは全ての専門性が高められるよう、ロボット設計には「材料力学」や「計測工学」など、ロボット制御には「電気回路」や「センサ工学」など、機械工学には「流れ学」や「エネルギー工学」などの選択科目を設定する。また、デザイン表現力を磨く「ロボットデザイン」、計算機を自在に使うための「プログラミング」、機械・電気・電子情報系の実験テーマにより実技的能力や創造的活動の基礎を習得する「ロボット工学実験Ⅰ・Ⅱ」、地域が抱える諸課題を解決する能力や創造的なロボットづくりを目指した実践力を「ロボティクスセミナー」、「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造能力を涵養する。

### 【情報セキュリティコース】

情報セキュリティコースは、高度情報化社会で重要な情報工学に関連する専門基礎科目（プログラミング、アセンブラ、コンパイラなど）のほかに、ネットワーク、ソフトウェア、ハードウェアを含めたコンピュータシステムに関する知識と技術を「コンピュータネットワーク」、「オペレーティングシステム」、「コンピュータアーキテクチャ」などの座学と「情報工学実験Ⅰ・Ⅱ」などの実験や実習を通じて習得し、特にセキュアな情報基盤をつくるための情報セキュリティに関する総合的な力を「ネットワークセキュリティⅠ・Ⅱ」、「ソフトウェアセキュリティⅠ・Ⅱ」、「ハードウェアセキュリティⅠ・Ⅱ」、「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造能力を涵養する。

### 【まちづくり・防災コース】

まちづくり・防災コースは、土木と建築の専門知識を身に付けるための基盤となる土木と建築の専門基礎科目（構造力学、地盤工学、建設材料学、水理学）のほかに、土木と建築のいずれか若しくは両方の専門性が高められるよう、前者には「橋梁工学」「河川工学」「都市計画」など、後者には「建築一般構造」「建築設備」「建築計画」などの選択科目を設定する。また、社会基盤としてのまちづくりや住まいづくり、さらに環境との共生を図りつつ、自然災害に備える防災などに関する総合的な力を「まちづくり・防災創造演習」、「土木・建築実験」、「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造能力を涵養する。

### 【新素材・生命コース】

新素材・生命コースは、材料科学と生命科学の専門知識を身に付けるための基盤となる化学と生物の専門基礎科目（分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、生化学）のほかに、材料科学と生命科学のいずれか若しくは両方の専門性が高められるよう、前者には「無機材料学」「複合材料」「光機能材料」など、後者には「分子生物学」「遺伝子工学」「酵素工学」などの選択科目

を設定する。また、高機能材料の設計・開発あるいは生物の機能を活かしたバイオテクノロジーに関連した総合的な技術力を実験系科目及び「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造力を涵養する。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「高知高専 HP: <https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019psd1.pdf>」

「継続4学科として定めているカリキュラム・ポリシー」

継続4学科

~~~~~ (略) ~~~~~

**■ カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び基本方針）**

工学の基礎と実践的技術を講義、演習、実験・実習科目より構成される一般科目、専門基礎科目及び専門科目による学修を通じて、ディプロマポリシーに掲げた知識及び能力を持つ技術者となるためのカリキュラムを編成する。教育課程は「授業科目関連図」に示すとともに、シラバスにおいて教育内容・方法、成績評価の基準・方法等について明記する。

**【機械工学科】**

機械の構成、材料、加工、力学及び制御に関する機械工学の知識と技術について学び、機械システムの計画、設計、生産で必要とされる実践的な能力を修得する。

**【電気情報工学科】**

電気、電子、情報及び通信に関する電気工学の知識と技術について学び、エネルギー、エレクトロニクス、インフォメーション・コミュニケーションテクノロジーで必要とされる実践的な能力を修得する。

**【物質工学科】**

化学、生物、化学工学、環境及び情報に関する物質工学の知識と技術について学び、工業薬品、材料化学、バイオテクノロジー、プロセス工学、及び環境化学の分野に於ける開発・生産・製造・管理で必要とされる実践的な能力を修得する。

**【環境都市デザイン工学科】**

公共施設、建築物や構造物などの土木・建築に関する建設工学の知識と技術を教授について学び、環境や防災に配慮した計画・設計・施工・管理で必要とされる実践的な能力を修得する。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「高知高専 HP: <https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019pold1.pdf>」

「準学士課程全体として定めているアドミッション・ポリシー」

ソーシャルデザイン工学科

~~~~~ (略) ~~~~~

## ■アドミッションポリシー

(入学者受入れの基本方針)

高知工業高等専門学校(略称;高知高専)は、本科5年間に専攻科2年間を加えた7年間の一貫教育プログラムにおいて、幅広い知識・技術を複合・融合でき、地域や世界で活躍することができる実践力と研究能力を備えた人材を育成します。

高知高専ソーシャルデザイン工学科では、工学を学ぶための基礎学力を備え、若いときから幅広い知識・技術の修得に取り組み、様々な社会の課題を解決できる人になることを目標とし、社会に貢献したいという高い志を持った以下のような方々の入学を心から歓迎します。

- ・モノづくりに情熱や好奇心を持っている人
- ・人々の暮らしに役立つための技術力を身に付けたいと夢を抱いている人
- ・協調性を持ちながら周りの人たちの先に立って行動ができる人
- ・地域社会の発展に貢献したいという志を持っている人
- ・世界を舞台に活躍したいというチャレンジ精神のある人

新入生に対しては、中学校で修得した知識・技能や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

編入学生に対しては、本校で工学を学ぶために必要な高等学校等で修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などを多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

## 入学検査の方針

高知高専ではアドミッションポリシーに沿う新入生の獲得のため、以下のような入学検査の方針に従って選抜を行います。

(1年次入学)

1年次入学については、中学校での学業の修得状況に加え、以下の要素を評価の対象とした推薦選抜と学力選抜を行い、入学の可否を決定します。

## 【推薦選抜】

- ・工学を学ぶために必要な数学及び国際社会で活躍するために必要な英語の基礎学力を備えている
- ・高専入学後あるいは将来において取り組んでみたい課題や夢を表現できる
- ・自らの意見や考えを的確に伝えることができる
- ・生徒会活動や部活動等を積極的に取り組んできた
- ・ボランティア活動や地域貢献等を学内外で経験したことがある

### 【学力選抜】

- ・数学、理科、英語、国語、社会において工学を学ぶために必要な基礎学力を備えている

#### （4年次編入学）

4年次編入学については、高等学校での学業の修得状況に加え、以下の要素を評価の対象とした選抜を行い、入学の可否を決定します。

- ・工学を学ぶために必要な数学及び理科、国際社会で活躍するために必要な英語における基礎学力を備えている
- ・高専入学後あるいは将来において取り組んでみたい課題や夢を表現できる
- ・自らの意見や考えを的確に伝えることができる

出典「高知高専 HP: <https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019psd1.pdf>」

## 「専攻科課程全体として定めているディプロマ・ポリシー」

### 専攻科

#### ■ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

本校専攻科では、学則で定める修了要件を満たすとともに、以下に示すように修得すべき知識及び能力を有する者に対して修了を認定する。

- (1) 充実した基礎学力を持ち、問題に自ら立ち向かっていく積極的な行動力を身につけた者
- (2) 豊かな表現力、創造力及び指導力を発揮でき、問題設定力、判断力、実行力、チーム力などを身につけた者
- (3) 地域の問題を理解し、さらに地球全体を視野に入れて環境を総合的に配慮でき、エンジニアリングデザイン能力を身につけた者
- (4) 何事にも協調性をもって取り組むことができ、国際的適応力及びマネジメント能力を身につけた者
- (5) 高い倫理感に基づいた規範をもって行動し、社会的責任を果たすことができる者

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「高知高専 HP: <https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019psen.pdf>」

「専攻科改組に向けて策定した方針の見直しに着手したことがわかる資料」

| 参与からの意見 (平成28年度) | 平成29年度取組状況 |
|---|---|
| <p>・ソーシャルデザイン工学科のコースにあまり執着せず、とにかく日本の技術を支える技術者を目指すということが一番重要である。</p> | <p>○中国・四国地区高専専攻科生研究交流会、四国地区高専連携・交流事業等へ積極的に参加し、学生同士の交流を深め、教育・研究活動の推進する。また、日本高専学会をはじめとする学会、高専シンポジウム等での発表を行い、学生の研究活動の活性化を図る。 ○地域の諸問題を解決することを課題としたインターンシップの推進 ○企業や大学、研究組織と連携した共同教育の導入 ○企業経験者を活用した授業の実施</p> <p>(年度計画関係箇所) I 1(4)ウ 高専実習、学会・シンポジウム発表 I 1(4)オ インターンシップ参加への環境作り I 1(4)オ 産業界との連携による教材開発 I 1(4)カ 企業技術者、外部専門家の活用</p> |
| <p>・高知県自身生徒数が減少し、公立の工業高校だけでも5つの学校があり、その定員がほぼ10年近く変わっていない中で、高知高専は高知県内からたくさんの生徒が来ている。公立高校でも、子供達が自分で考え目標をもてるようなプログラムというものは非常に大事になってくるのではないかと考えている。 ・高校の場合、普通高校であれば3年間という限られた期間しかないが、高専の5年間のうち、ソーシャルデザインという形で2年間方向性に対していろいろなことを学び、残り3年間のコースを選択するという取組みは非常に魅力的であると思う。 ・通常の知識・技能というものを評価するのではなく、何ができるようになったかという部分を評価しないと、キャリア教育的な視点からいうと繋げていくことができないと思う。そういう意味では、評価というところが非常に大事になってくる。 ・高知先端パワー企業グループと県で協定を結んでおり、その事務局と交渉いただき、学校が直接企業となく、インターンシップの受け入れ先を探していただいたり出来るので、これを利用して、教員の業務量が多くなることを抑えることが出来ると思う。 ・県では担い手育成事業という形で、インターンシップ企業の斡旋、企業の方による専門的な内容の講義、共同研究、という3つの柱で行う事業を行っている。</p> | <p>○ポートフォリオの実施 ○地域の諸問題を解決することを課題としたインターンシップの推進 ○本科4年生のインターンシップの実施</p> <p>(年度計画関係箇所) I 1(5)エ 体系的な取組み I 1(4)オ インターンシップ参加への環境作り</p> |
| <p>・日本人は、専門性に特化した勉強をされていて、いろいろな国の科学者や知識人の意見を聞くと、日本人は非常に柔軟性に欠けますねという言葉をよく聞かされたことがある。欧米では、自分の専門分野以外のことも勉強し多様性を身につけている。ソーシャルデザイン工学科というのは、まさにそういう多様性を選択させる、あるいは人間の本来持っている人間力を引き出してあげる、あるいは選択肢を広げさせてあげるということからすると非常に有効だろうと、私はこの学科設置の話聞いて非常に嬉しく思う。 ・高知県の高知先端パワー企業グループという52社の企業のリクルート活動を行っており、最近県内の高校生あるいは中学生もインターンシップとして受け入れようとしているので、活用されるのではないと思う。 ・ソーシャルデザイン工学科設立の趣旨から、地元の企業あるいは地元の経済活性化のために力を入れていこうと考えて頂いているが、高専の先生方が地元活性化にどこまで力を入れて取り組んでいただけるかに尽きると思う。 ・産学官の三者が常に情報共有し、情報交換をしながら地元企業への送り出しや、地元企業側の受け入れの確認が出来るようにすることが必要だと思う。 ・企業では、自分の所属する部署と全然違う部署の仕事を体験させることを行っているが、社内に活性化し、他部署を経験することにより、どうにもならなかったことがすぐに解決する場合がありますので参考にしてもらえばいいと思う。</p> | <p>○平成30年度のコース分属に向け、各コースの教育目的を踏まえたカリキュラムの編成 ○地域の諸問題を解決することを課題としたインターンシップの推進 ○高知県戦略産業雇用創造プロジェクト推進協議会への参画 ○南国市との連携の推進 ○高知銀行との連携の推進 ○高知市こども科学図書館との連携 ○高知県産学官連携会議に委員の協力 ○高知県産学官連携センターとの連携 ○1年次からの就職・進学の将来像の説明の実施 ○県内企業見学会の実施 ○1年次からの専門コースオリエンテーション(年2回)の実施</p> <p>(年度計画関係箇所) I 1(2)ア 学科の改組・専攻科の改組案 I 1(4)オ インターンシップ参加への環境作り I 2 キ 自治体・企業との連携推進 I 1(5)エ 体系的な取組み</p> |
| <p>・高知高専と協定を結ぶ台湾聯合大学にて研修旅行を計画しているが、例えば高知県の特産品を台湾で売り出すとか、学生ならではの目線で企画を出していけばいいと思う。その成果は、生きた教材になるのでは。 ・自民党のプロジェクトチームが動いている専修学校が大学化するという職業大学問題は気になる。制度ができるが高専の存亡にかかわる激変になると思う。そういった意味で、この辺はやることは着々とするしかない。高専5年間の教育、実際のものをつくるという教育を積重ねているというメリットを生かしてもらいたい。 ・アクティブラーニングは、いろんな取り組みがあるが、残念なことに、この優秀な取組例があまり共有されていない傾向がある。表彰されるような取組例などは、最低ブロックまでは広げていただきたい。 ・地域の連携の仕方もしっかり51高専55キャンパスあるので、それぞれの地域特性に合わせた独自の取り組みを、参考にできるものは積極的に参考にし、高知高専モデルというものをつくっていただきたい。 ・ソーシャルデザイン工学科の1期生は、お手本がないのでものすごくクリエイティブな活動をする。そういう意味では、彼らにいろいろつくってもらったことや、参与の方々等、関連の企業などにうまく協力をいただくという考え方を先生方が持たれることを期待している。</p> | <p>○台湾聯合大学との協議 ○3年次海外研修(台湾)実施に向けた準備(H30) ○地方自治体等との協働イベントの実施 ○各種コンテストへの参加促進 ○四国地区ロボットコンテストへの参加(開催校) ○全国高専プログラミングコンテストへの参加 ○全国高専デザインコンペティションへの参加 ○うなブレ(うなづくプレゼン)の実施 ○ICT教材を活用したアクティブラーニング教育の実施 ○アクティブラーニングを実践できるブレンド型学習の充実 ○企業や大学、研究組織と連携した共同教育の導入</p> <p>(年度計画関係箇所) I 1(1)ア 広報の取組み I 1(2)オ 高専競技会・コンテストへの参加 I 1(4)ア モデルコアカリキュラムの導入 I 1(4)オ 産業界との連携による教材開発 I 1(5)エ 体系的な取組み I 3 ア 機構他高専実施の国際交流事業、海外インターンシップへの参加</p> |

5. 議題等

【報告事項】

- (1) 平成30年度第2回全国国立高等専門学校校長・事務部長会議について
校長から、報告資料1に基づき、平成30年度第2回全国国立高等専門学校校長・事務部長会議について報告があった。
- (2) 平成30年度永年勤続表彰者について
総務課長から、報告資料2に基づき、平成30年度永年勤続表彰者について報告があった。
- (3) 専攻科改組ワーキンググループについて
専攻科長から、報告資料3に基づき、平成33年4月の専攻科改組に向けて検討するワーキンググループの構成員について報告があった。

出典「平成30年度 第7回 運営会議議事概要より抜粋」

1. 議題

- (1) 平成31年度校務分掌
教務主事から、資料1に基づき、平成31年度校務分掌の説明があった。
- (2) 専攻科改組案
専攻科長から、資料2に基づき、専攻科改組案の説明があった。

出典「2019年度 第1回 教員会議事概要より抜粋」

「専攻科課程全体として定めているカリキュラム・ポリシー」

専攻科

~~~~~ (略) ~~~~~

#### ■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施方針）

本校専攻科では、高等専門学校等の高等教育機関において、工学の基礎と実践的技術を修得した者が、講義、演習、実験・実習科目より構成される一般科目、専門基礎科目、専門共通科目及び専門科目による幅広い学修を通じて、実践的かつ各専攻のディプロマ・ポリシーに掲げた知識及び能力を持つ高度な技術者となるためのカリキュラムを編成する。

教育課程の実施方針は、本科の教育課程との接続を「授業科目関連図」に示すとともに、シラバスにおいて教育内容・方法、学修成果の評価等について明記する。

#### 〔機械・電気工学専攻〕

エネルギーや環境及び情報・制御技術に関わる基礎及び専門科目について学び、さらに、ロボットや新エネルギー開発、環境機器や情報機器の開発などの機械・電気融合分野で必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を修得する。

#### 〔物質工学専攻〕

化学やバイオ技術に関する物質工学の高度な専門科目について学び、将来の研究、開発に必要な専門知識を修得する。

#### 〔建設工学専攻〕

総合建設技術者として必要とされる技術的諸問題への主体的な取り組み、実験・解析やシミュレーションを実行できる能力を修得する。

専攻科では、その教育目的を達成するため、特別研究を最も重要な科目と位置づけており、個別研究課題を計画・立案し、文献検索、実験的手法、理論的手法、評価方法等を体得して論文作成及び発表を行う。特別研究テーマについては、各専攻のシラバスに記載する。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「高知高専 HP: <https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019psen.pdf>」

「専攻科課程全体として定めているアドミッション・ポリシー」

専攻科

~~~~~ (略) ~~~~~

#### ■アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本校専攻科では、機械・電気工学専攻、物質工学専攻、及び建設工学専攻の3専攻を設け、高等専門学校における教育の基礎の上に、それぞれの専攻においてより高度な専門学術を教授する。

また、教養教育及び実践的教育を通じて、幅広い教養と優れた人格を備えた広く産業の発展に寄与することのできる自立した技術者の養成を行う。

本専攻科入学者として、以下に示す基本的な知識と意欲を持つ人材を求めている。

1. 基本的知識を有し、さらに高度な専門的知識を学びたい人
2. 主体的に物事に取り組み、解決しようとする意欲のある人
3. 学んだ技術を生かして社会に貢献する意欲のある人
4. 他の人と協調しながら物事に取り組める人

### 入学者選抜の実施方法

#### 〔推薦による選抜〕

入学者の選抜は、調査書、推薦書、小論文及び面接（専門科目に関する口頭試問を含む）の結果を総合して判定する。

#### 〔学力検査による選抜〕

入学者の選抜は、学力試験、調査書、面接の結果を総合して判定する。

学力試験は、数学及び専門科目について筆記試験を行い、英語については出願時に提出されたTOEIC スコア等により評価する。

#### 〔社会人特別選抜〕

入学者の選抜は、調査書、推薦書又は業績調書、小論文及び面接の結果を総合して判定する。

出典「高知高専 HP: <https://www.kochi-ct.ac.jp/files/uploads/2019psen.pdf>」



「学科再編推進室会議で社会の状況等を把握しながら点検を行っていることを示す資料」

点検を行う体制がわかる資料はないが、特命委員会（学科再編推進室会議）で社会の状況等を把握しながら点検を行っている。

### 第1回 学科再編推進室会議

日時：平成27年10月1日（木）16：30～

場所：管理棟2階中会議室

#### 議題

#### 1. 今後の学科再編推進について

① 学科再編推進室メンバーの確認（来年度を見据えて取り組みを始める）（別紙）

② 学科再編を推進するための課題整理

##### ○ 課題

- ・教員組織の指揮/意思決定系統などについて（現段階では、詳細まで明確ではない）
- ・教員の業務の割り振りについて
- ・推進室の運用の仕方について（WG設置、室長と副室長＋必要な室員での打合せ）
- ・「プレコース長」の名称⇒「基礎教育主任？」（1，2年生担当学年集団）
- ・カリキュラム運用について・・・（別紙：授業担当教員割振り表）
- ・地域連携について（学生が5年間を通じて地域と関わる仕組みづくり）
- ・グローバル化について
- ・国際交流について
- ・校舎改修計画及びコース環境整備について
- ・今後の教員採用計画について
- ・今後の物件費の要求について
- ・来年度からの予算配分方法について
- ・規則改正について
- ・事務組織について

③ 具体的に取り組むための組織体制の検討（別紙）

- ・既存の組織の活用，必要に応じてWG設置
- ・各コース長が決めるのではなく，コアメンバーでの協議等も必要となる

④ 今後のスケジュール

- ・10月中旬・・・第1回会議後に各担当が具体的計画（案）を作成  
（必要に応じてWG設置，あるいは関連する既存組織で原案作成）
- ・10月下旬・・・第2回会議で進捗状況の報告・検討，各担当部署で協議  
授業担当教員割振り表（案）に基づき，授業目標作成 締切 10/31
- ・11月中旬・・・平成28年度校務分掌決定（11月運営会議）
- ・11月中旬・・・第3回会議で進捗状況の報告・検討，各担当部署で協議
- ・12月初旬・・・各コース会議を開催，開講計画等作成準備
- ・12月中旬・・・第4回会議で進捗状況の報告・検討

2. その他

出典「第1回 学科再編推進室会議」

## 「点検・評価部会の設置がわかる資料」

## 第18回 学科再編推進室会議 議事概要

日 時 令和元年6月13日（木）13：00～14：30

場 所 管理棟2階中会議室

出席者 室長：■■■■ 校長 副室長：■■■■ 副校長、■■■■ 副校長、■■■■ 副校長、■■■■ 副校長

室員：■■■■ 先生、■■■■ 先生、■■■■■■■■ 先生、■■■■ 先生、■■■■ 先生、  
■■■■ 先生、■■■■ 先生、■■■■ 先生、■■■■ 先生、■■■■ 部長、■■■■ 課長、  
■■■■ 課長

欠席者 室員：■■■■ 先生、■■■■ 先生、■■■■ 先生

## 議題

~~~~~ (略) ~~~~~

3. 各部会について

■■■■ 副室長から別紙3により、前回会議で提案された部会・WG 組織図の確認が行われ、各部会長から進捗状況についての報告があった。

【点検・評価検討部会】

■■■■ 部会長から別紙3-1に基づき、「高知高専における三つの方針 WG の答申」について説明があった。運営会議での承認を得た後、現在修正後の3つのポリシーがHPに掲載されているとの報告が行われた。

【運営体制検討部会】

■■■■ 部会長から別紙3-2に基づき、「SD 工学科運営体制について」説明があった。運営に関しては未設置グループの立ち上げについて、地域協働演習や来年度の卒業研究に関する懸案事項については検討が早急に必要であることなどの説明がなされた。また SD 工学科教員間の迅速なコミュニケーションを図る手段についての提案等があった。

【専攻科改組検討部会】

■■■■ 部会長から専攻科改組についての概要説明があった。昨年末機構本部でのヒアリングを経て、別紙3-3の修正案を作成し検討を進めていること、7月末までに修正案をまとめ、夏休み前までには機構本部に再度説明に行く予定で進めていることが示された。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「第18回 学科再編推進室会議 議事概要」

## 「本校における三つの方針が見直されたことが分かる資料」

平成 31 年 4 月 15 日

## 高知高専における三つの方針 WG の答申

三つの方針WG：

2018 年度ソーシャルデザイン工学科第 1 期生が 3 年生になり、コース別カリキュラムがスタートした。学科再編推進室では、高知高専における三つの方針について、学力の 3 要素との関連の確認及び一貫性の確認を目的とした見直しを行うことにした。2018 年 4 月から教務主事室と広報戦略室でアドミッションポリシーについて見直しを開始し、6 月にアドミッションポリシーの原案作成、9 月に機関別認証評価の作業部会メンバーの決定と同時に三つの方針 WG を組織し、10 月から 2019 年 2 月までメール会議を中心に検討した。

## 【検討内容】

## 1. アドミッションポリシーの修正【別紙 1】【参考資料 1】

本校のアドミッションポリシーについて、他校のアドミッションポリシーを参考にしながら修正案を作成。

(修正案作成の方針) 現在のアドミッションポリシーは、主語や目的語がかなり省略されており、読み手によって自由に解釈ができる文章(これが良いか悪いかは別として)になっている。これらを分かりやすくする方向に修正した。なお、「高い志」とか「情熱」などの表現は、アドミッションポリシーとしては曖昧だと思うので極力使わないようにした。

## 2. コース説明文対照表の作成【別紙 2】：メール審議にて随時修正。

## 3. SPOD 連携講習@愛媛大学「3つのポリシーの開発と一貫性構築手法」を聴講(11月1日)。

## 4. 聴講した内容を受けて、前回までのポリシー案を修正。AP と DP に「教育方針」と「学習の 3 要素」を加筆した。DP は原文を可能な限り残す形で修正した。中教審のガイドラインに沿っているかについても確認し、DP と CP の対応付けも行った。【別紙 3】

## 5. 新たに AL センター長を加え、学科再編推進室に点検・評価部会を設置(1月24日)。卒業生アンケート、新入生アンケート、卒業生・修了生・企業アンケートについて結果の活用を含めたアンケート内容の検討を開始した。また、3つのポリシーと科目関連図についての検討もこの部会で継続することにした。

6. 継続4学科3ポリは、DPを本科の学習・教育目標、CPを各学科の教育の目的をもとに修正した。またSD工学科についても修正、科目関連図を確認、大学等の3つのポリシーを参考に最終確認を行った。

資料：サイボウズ>会議・委員会>特命委員会等>学科再編推進室>会議資料>第17回



3.新学科3ポリ案【別紙3】、3.旧学科3ポリ案【別紙3】

3.科目関連図（新学科）、3.科目関連図（新学科）

（今後の予定）

学科再編推進委員会で審議し、3月の運営会議で承認後、ホームページ等へアップを予定。

出典「第18回学科再編推進室会議 資料」

「準学士課程において、社会の状況等を把握しながら適宜点検を行っていることがわかる資料」

~~~~~ (略) ~~~~~

教育課程の編成・授業科目の内容における学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等への配慮

学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に対応した改善をすすめている。

本校の「大学等における学修に関する規程」では、他高専、短大、大学、外国の高校、大学での学修で単位認定が可能である。例えば、学生の多様なニーズに対応して、準学士課程においては、実用英語検定、情報技術者試験、各種専門的な国家資格等の資格を取得した場合には、学生の申請により卒業要件に入る単位として認めている。この制度は平成 23 年度に発足したものである。発足年度の平成 23 年度は単位認定の申請人数が 32 名であったが、申請数は増加してきており、平成 28 年度の単位認定の申請人数は 87 名、準学士課程全学生 806 名の 10.8%に相当する学生の単位認定を行った。

また社会の要請等に対応するため、4 学年で実施している校外実習は、夏季休業を利用して、企業等で実務を経験することにより、学校で習得した知識及び技能を裏づけ、実践的・技術的感覚を養い、技術者として、また社会人として自覚を持たせることを目的としている。また地域協働演習では、地域企業や自治体と連携し、地域をフィールドにした PBL 活動を実施する。

社会からの要請に対応した授業改善や教育課程の編成のため、本科卒業生・専攻科修了生へのアンケートや彼らの就職先企業へのアンケートを 3 年（最近は平成 25 年度、28 年度）ごとに実施している。例えば、創造力、指導力、問題解決能力の育成に関して、機械工学科では、第 4 学年に実習形式の「創造設計演習」を開講し、学生の創造力や問題解決力、実践力、プレゼンテーション能力を向上させる工夫がなされている。

地域や社会のニーズに対応するため、平成 28 年度より既存 4 学科の実績を踏まえ、技術・情報が急速に高度化・多様化するなか、ダイナミックな変化に即応できる幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる人材（ハイブリッド型人材）の育成を目指し、エネルギー・環境コース、ロボティクスコース、情報セキュリティコース、まちづくり・防災コース、新素材・生命コースの 5 コースから成るソーシャルデザイン工学科へ学科再編した。

学術の発展の動向に対応するため、卒業研究において最新の学術の動向に沿ったテーマを設定し、それをより深く研究している。また、専攻科教員は本科教員が兼ねており、専攻科教育との連携は十分実施されている。よって、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請に対応した教育課程の編成に配慮している。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成 30 年 3 月発行 p.23-p.24」

「専攻科課程において、社会の状況等を把握しながら適宜点検を行っていることがわかる資料」

### 教育課程の編成・授業科目の内容における学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等への配慮

学問的動向、社会からの要請等に対応するために、本校専攻科では他専攻の授業科目の履修や放送大学を含む他の高等教育機関の授業科目の履修を認めている。他の高等教育機関で認定された単位は16単位を越えない範囲で専攻科における修得単位とみなせるようになっており、高知大学との単位互換制度も実施している。

また、社会からの要請に対応することを目的として「専攻科インターンシップ」を実施している。専攻科インターンシップは2年次の特別研究の一環として、地元企業との産学協同教育プログラムとして実施されている。また、海外インターンシップとして、海外へ専攻科生を派遣し、研修を行っている。さらに、大学におけるインターンシップとして大阪大学、広島大学と協定を結んでいる。

英語力向上に対する学生のニーズや社会の要請に配慮するために、年2回TOEIC試験の受験を義務付けており、そのための英語の補習授業も開催している。また、本校では年に2回TOEIC IPテストを全専攻科学生対象に行っている。

本科卒業生、専攻科修了生及び就職先企業へのアンケートを実施し、社会からの要請に対応した教育課程の編成を行ってきている。また、外部評価機関として「参与会」の意見も教育課程の編成に反映している。機械・電気工学専攻においては、平成22年度から機械と電気の融合を強化したカリキュラムに改訂した。その一例として「設計工学基礎演習」と「電気工学基礎演習」の2つの科目を統合し「工学基礎演習」を設置した。「工学基礎演習」は、それぞれの分野について同時に学ぶことのできる科目設定がされている。また、基礎学力向上のため、外国人講師による英語の講義を実施している。建設工学専攻では、アンケートの結果を受け、想像力、問題解決能力の観点から専攻科1, 2年生を対象に「建設工学演習」の中で、エンジニアリング・デザイン教育を行っている。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「自己点検・評価報告書 平成30年3月発行 p.30」

「高知工業高等専門学校学則の一部改正について」

審議資料 1

2019年度第 2 回運営会議
2019.4.18(木)開催

高知工業高等専門学校学則の一部改正について

1. 高知工業高等専門学校学則の一部改正について

【改正理由】

ソーシャルデザイン工学科学生の進級に伴ってディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの見直しに伴い、学則第 8 条の 2 第 2 項（各コースが養成する人材）を改正した。（2019.3.14 第 12 回運営会議審議済部分）

今回、学則第 8 条の 2 第 1 項についても、教育の目的を整理し直すと共に、学習・教育目標を掲載することとしたもの。（2019.4.18 第 2 回運営会議追認予定部分）

さらに、別表 1（カリキュラム表）について、ソーシャルデザイン工学科まちづくり・防災コースの選択科目のうち、並列開講に伴いカリキュラム表を修正するもの。（2019.4.18 第 2 回運営会議追認予定部分）

改正箇所については、別紙「高知工業高等専門学校学則 新旧対照表」のとおり。

高知工業高等専門学校学則の一部改正(案) 新旧対照表

| 高知工業高等専門学校学則(新) | 高知工業高等専門学校学則(旧) | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------------|------|--------------|---|------|---|-----|----------------|------|--------------|---|------|
| <p>制 定 昭和38年 4月22日 一部改正 平成31年 月 日</p> | <p>制 定 昭和38年 4月22日 一部改正 平成31年 3月14日</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>第1条～第7条 省略</p> | <p>第1条～第7条 省略</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>第8条 学科、学級数及び、入学定員は、次のとおりとする。</p> | <p>第8条 学科、学級数及び、入学定員は、次のとおりとする。</p> | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>1 学年及び2 学年の学級数</th> <th>入学定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ソーシヤルデザイン工学科</td> <td>4</td> <td>160人</td> </tr> </tbody> </table> | 学 科 | 1 学年及び2 学年の学級数 | 入学定員 | ソーシヤルデザイン工学科 | 4 | 160人 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>1 学年及び2 学年の学級数</th> <th>入学定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ソーシヤルデザイン工学科</td> <td>4</td> <td>160人</td> </tr> </tbody> </table> | 学 科 | 1 学年及び2 学年の学級数 | 入学定員 | ソーシヤルデザイン工学科 | 4 | 160人 |
| 学 科 | 1 学年及び2 学年の学級数 | 入学定員 | | | | | | | | | | | |
| ソーシヤルデザイン工学科 | 4 | 160人 | | | | | | | | | | | |
| 学 科 | 1 学年及び2 学年の学級数 | 入学定員 | | | | | | | | | | | |
| ソーシヤルデザイン工学科 | 4 | 160人 | | | | | | | | | | | |
| <p>2 前項に規定する学科に、第3 学年から次のコースを設け、コースの定員は別に定める。</p> <p>エネルギー・環境コース ロボティクスコース 情報セキュリティコース まちづくり・防災コース 新素材・生命コース</p> | <p>2 前項に規定する学科に、第3 学年から次のコースを設け、コースの定員は別に定める。</p> <p>エネルギー・環境コース ロボティクスコース 情報セキュリティコース まちづくり・防災コース 新素材・生命コース</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>第8条の2 学科における教育の目的は、次のとおりとする。</p> <p>ソーシヤルデザイン工学科は、次の人材を養成することを教育の目的とする。</p> <p>(育成する人材像)</p> | <p>第8条の2 学科における教育の目的は、次のとおりとする。</p> <p>ソーシヤルデザイン工学科は、次の人材を養成することを教育の目的とする。</p> <p>(1) 幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる人材、国際的適応力の高いグローバル人材、人間として倫理感と社会的責任感をもって行動できる人材を養成する。</p> <p>(2) コース分野における専門領域の知識・技術を修得し、地域や世界が抱える諸課題に対して創造力とソーシヤルデザイン能力が発揮でき、問題設定力、判断力、実行力、チーム力などを備えた課題解決型人材を養成する。</p> <p>(3) 卒業後は、電力会社などの社会インフラを支える企業や新エネルギーの技術開発で先進している企業、ロボット及びメカトロ機器の開発やロボットの活用した生産技術エンジニアリングで先進している企業、情報セキュリティ、情報通信及び情報ネットワーク技術を専業とする企業、構造物や建物の設計を行う建設コンサルタンタや設計事務所、総合化学メーカー・食品関連企業等に就職することができ、地域の即戦力として活躍でき、将来は国際社会でも活躍的できる人材を養成する。</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>技術や情報が急速に高度化・多様化する現代のダイナミックな変化に即応できるよう、幅広い分野の知識・技術に触れ、自ら選択した特定領域の専門知識と他分野の知識を複合・融合できるハイブリッド型の知識・技術を備えた人材を育成する。また、倫理感と社会的責任感をもって主体的に行動でき、地域や世界が抱える課題を解決するための、判断力、実行力、チーム力などの人間力を備えた人材を育成する。</p> <p>(学習・教育目標)</p> <p>(A) 倫理感と社会的責任感をもって行動できる (B) 幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる (C) 専門領域の知識・技術を修得し、地域社会に貢献できる (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる (E) 地域や世界が抱える課題解決のための創造力と技術力、チーム力が発揮できる</p> | <p>(1) エネルギー・環境コースは、電気・電子システム技術の中心となる、生活を豊かにする情報通信技術とエレクトロニクス、生活を支える環境に優しい電気エネルギー技術やその環境技術を幅広く学び、高度情報化社会を支えるハードウェア、ソフトウェアからシステムまでをデザインできる実践的な技術を修得し、これからの社会をリードする電気・電子・情報通信システム産業及びエネルギー関連産業を担う人材を育成する。</p> <p>(2) ロボティクスコースは、介護や福祉、災害救助をはじめ、医療・福祉・農業・食品加工分野など社会で実際に活用・実装が期待されているロボットテクノロジについて幅広い知識を身に付けるとともに、基幹産業として今後の発展が期待されているロボット関連産業を担い、地域社会でこれら</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>2 各コースが養成する人材は次のとおりとする。</p> <p>(1) エネルギー・環境コースは、電気・電子システム技術の中心となる、生活を豊かにする情報通信技術とエレクトロニクス、生活を支える環境に優しい電気エネルギー技術やその環境技術を幅広く学び、高度情報化社会を支えるハードウェア、ソフトウェアからシステムまでをデザインできる実践的な技術を修得し、これからの社会をリードする電気・電子・情報通信システム産業及びエネルギー関連産業を担う人材を育成する。</p> <p>(2) ロボティクスコースは、介護や福祉、災害救助をはじめ、医療・福祉・農業・食品加工分野など社会で実際に活用・実装が期待されているロボットテクノロジについて幅広い知識を身に付けるとともに、基幹産業として今後の発展が期待されているロボット関連産業を担い、地域社会でこれら</p> | <p>2 各コースが養成する人材は次のとおりとする。</p> <p>(1) エネルギー・環境コースは、電気・電子システム技術の中心となる、生活を豊かにする情報通信技術とエレクトロニクス、生活を支える環境に優しい電気エネルギー技術やその環境技術を幅広く学び、高度情報化社会を支えるハードウェア、ソフトウェアからシステムまでをデザインできる実践的な技術を修得し、これからの社会をリードする電気・電子・情報通信システム産業及びエネルギー関連産業を担う人材を育成する。</p> <p>(2) ロボティクスコースは、介護や福祉、災害救助をはじめ、医療・福祉・農業・食品加工分野など社会で実際に活用・実装が期待されているロボットテクノロジについて幅広い知識を身に付けるとともに、基幹産業として今後の発展が期待されているロボット関連産業を担い、地域社会でこれら</p> | | | | | | | | | | | | |